

2007

ASAHI SHIMBUN SOCIAL WELFARE ORGANIZATION

朝日の社会福祉



平成19年度

事業
報告



はじめに

「共に生きる豊かな福祉社会」をめざして

朝日新聞厚生文化事業団の福祉活動は、1923（大正12）年9月の関東大震災の被災者救援を契機に始まりました。2008（平成20）年1月に創立80周年を迎えました。この間、朝日新聞社の社会福祉事業の実践組織として時代の要請に応える幅広い福祉事業に取り組んでまいりました。

景気の乱高下が続き、ガソリンの高騰や食品をはじめとする物価の上昇、医療費負担の増加などで国民の生活不安が一段と高まる中、格差社会のひずみはこれまで以上に顕著となり、高齢者や障害者、母子家庭、低所得世帯など「社会的弱者」の暮らしを直撃しています。一方、子どもや高齢者への虐待事件も後を絶たず、育児不安や介護疲れ、医療費負担の重荷からの心中事件も増加するなど、暗いニュースが毎日のように報道されています。

こうした中で当事業団は、障害者福祉の進展や高齢社会の抱える問題、子どもをめぐるさまざまな課題への対応など、社会的ニーズの高い事業や福祉啓発の活動に積極的に取り組んでいます。07年度は子ども、障害者、高齢者の福祉、福祉教育・ボランティア活動の推進、医療と公衆衛生、また、これらの事業を実施するための福祉寄金づくりのチャリティー事業など、主催や後援、協力を含め約300の事業を実施しました。

ますます多様化、高度化する社会で福祉を取り巻く環境も大きく変わる中、当事業団はこれまで築き上げてきた信頼と実績をもとに「共に生きる豊かな福祉社会」の実現をめざし、今後も先駆的な事業をはじめ皆様の期待に応える活動に着実な歩みを進めてまいります。

皆様のご支援、ご協力に心から感謝を申し上げ、2007年度の事業報告をさせていただきます。

朝日新聞厚生文化事業団

目 次

はじめに	1
子どもの福祉	5
朝日夏季保育大学（諏訪）	5
演劇ワークショップ「Remix」（東京）	6
子育て支援専門職の勉強会「ペアレンティングを支援する会」（大阪）	6
交通遺児への越年助成金（東京）	7
高校生のためのワークショップ（大阪）～健康で活力ある社会をめざして～	7
講演会「親と子を考える」（大阪）	7
街の学校（大阪）	8
シンポジウム「子どもたちの居場所を考える」（名古屋）	8
情報交流会「もうひとつの子ども・青年の居場所」（名古屋）	8
第24回福祉施設絵画展（名古屋）	9
その他のキャンプ事業	9
障害者の福祉	11
中国自閉症教育支援事業	11
自閉症カンファレンスNIPPON～TEACCHモデルに学ぶ実践研究会（東京）	13
自閉症を正しく理解すること～自閉症の支援で最も大切なこと～（青森）	14
ジョブコーチ・ネットワーク（JC-NET）	15
第24回「全国高校生の手話によるスピーチコンテスト」	16
働く 休む 支える（大阪）	17
精神障害者ホームヘルパー研修会（大阪）	18
高次脳機能障害講演会（大阪）	18
第45回心身障害問題を考える集い（名古屋）	19
第26回肢体不自由児・者の美術展（東京）	20
第26回名古屋市手話通訳問題研修会（名古屋）	20
第36回聴美会展（名古屋）	20
障がい児放課後支援セミナー（名古屋）	20
自閉症の子どもの「自立課題」作り方講座	21
視力障害の大学生のための「聖明・朝日盲大学生奨学金」（東京）	22

- 第28回障害者歩くスキーの集い（札幌） 22
- 心の輪を広げる体験作文、障害者の日のポスター（東京） 22
- 第19回九州車いすツインバスケットボール選手権大会（福岡） 23
- 第28回朝日九州車いすバスケットボール選手権大会（福岡） 23

高齢者の福祉 24

- 朝日福祉ふれあいサロン「親の介護・自分の老後」（大阪） 24
- 第7回「懐かしの童謡・唱歌を歌いましょう」（大阪） 24
- 朝日福祉講演会「高齢者虐待を未然に防ぐために」（高松） 25
- 第2回いきいきアロハ・フラ・フェスティバル（大阪） 25
- 朝日高齢者福祉セミナー（名古屋） 25

福祉教育・福祉啓発推進 26

- 環境福祉シンポジウム（東京） 26
- 遺贈・遺言セミナー（東京） 26
- 第3回自殺防止事業 27
- 自殺予防を考えるシンポジウム（東京） 28
- 自殺予防講演会「電話がところをつなぐ～いのちを支えるボランティアたち～」（名古屋） 28
- 「普通に暮らす」ということ（大阪） 29
- 全国グループホームスタッフネットワーク「京都会議」 29
- 近畿グループホームスタッフ研修会（大阪） 30
- 東海グループホームスタッフ研修会（名古屋） 30

医療と公衆衛生 31

- 第59回「保健文化賞」 31
- 小児がん街頭キャンペーン（名古屋） 31
- のびのびくらぶ（名古屋） 31
- カトレヤ・マタニティースクール（名古屋） 32
- 生活習慣病市民公開講座（北九州） 32
- アサヒベビー相談室（大阪・高槻・大津） 33
- アサヒベビー相談室（名古屋） 33

チャリティー事業 34

- 朝日チャリティー美術展 34
- 第57回「メサイア演奏会」（東京） 35
- 親子で楽しむクリスマスコンサート（東京） 36
- 第44回宇井あきらとし・ザマン・ド・ラ・シャンソンコンサート（東京） 36

杵勝会歳末チャリティー長唄演奏会（東京）	36
スリーデーマーチ・チャリティーウオーク（武蔵野・東松山・飯能）	37
彩季会チャリティーバザー（東京）	37
第53回朝日推薦演奏会（大阪）	37
第49回「各派合同三曲演奏会」（大阪）	38
朝日新聞チャリティーコンサート（大阪・西宮）	39
若駒となかま達のコンサート（大阪）	40
第54回各流合同茶会（大阪）	40
武 豊・写真パネルチャリティーオークション展（大阪）	40
ツーデーマーチ・チャリティーウオーク（堺）	41
百貨店協賛チャリティー	41
第55回「洋舞合同祭」（大阪）	41
西陣呉美の市（京都）	42
歳末チャリティーカレンダー展（大阪）	42
協賛能（大阪）	43
第53回歳末チャリティー朝日茶会（名古屋）	43
第37回チャリティー朝日邦楽会（名古屋）	44

その他の事業..... 45

朝日社会福祉賞（東京）	45
西部朝日福祉助成金（九州・沖縄・山口）	45
川畠成道福祉施設等訪問プログラム「生命（いのち）の輝き」	46
シンポジウム「多文化社会ニッポン～聞いてみよう！在住外国人の声」（大阪）	46
新潟県中越沖地震救援募金	47

おもな後援・協賛・協力事業一覧表.....	48
チャリティー美術展に出展いただいた皆様.....	56
ご寄付をいただいた皆様.....	66
朝日福祉ガイドブック・DVD・ビデオご案内.....	76
朝日新聞厚生文化事業団のあゆみ.....	78
2007年度収支計算書.....	80
理事・評議員名簿.....	81
お問い合わせ先.....	82

子(と)も(の)福(祉)

朝日夏季保育大学（諏訪）

54回目を迎えた朝日夏季保育大学を8月3日、4日、長野県諏訪市で開催しました（朝日新聞社と共催、長野県・諏訪市・全国社会福祉協議会・長野県社会福祉協議会・長野朝日放送後援、大同生命厚生事業団協賛）＝写真。

全国の保育士をはじめ幼稚園教諭など、子どもと関わる様々な人を対象に行っている朝日夏季保育大学は、大きな社会問題になっている児童虐待や発達障害、保育の質の向上に欠かせない第三者評価、人形劇の実演など、今年も盛りだくさんの内容でした。



開講の挨拶で山田勝文市長は「気になる子どもが多くとても気になっている。こうした講座がきっかけとなって一つずつ問題を解決していくことができれば」と述べました。

地元長野県をはじめ、佐賀県など遠方からの参加者も含めて約550人が受講しました。

テーマと講師は次のとおりです。（敬称略）

8月3日

「スタンダードな保育をしよう」

杉山亮（児童書作家・おもちゃ作家）

「発達障害～気になる子どもの理解」

内山登紀夫（よこはま発達クリニック院長・大妻女子大学教授）

8月4日

「絵本で語る しょうがいてなあに？」

星川ひろ子（写真家・写真絵本作家）

「虐待的環境を生き抜いた子どもたち～子どもを守り親を支えるために」

長谷川博一（臨床心理士・東海学院大学大学院教授）

「保育の質の証明～第三者評価」

増田まゆみ（目白大学教授）

「身の回りのもので、あつというまに人形ショー」

黒須和清（フリークラフト作家）

演劇ワークショップ「Remix」(東京)

関東の児童養護施設で生活する中学生と高校生を対象に、演劇やダンスを通じて表現力やコミュニケーション能力を伸ばし、自己評価を高めることを目的に12月26日から28日の2泊3日、BummB東京スポーツ文化館(江東区)で演劇ワークショップを開催しました。(テレビ朝日福祉文化事業団共催、東京都社会福祉協議会・神奈川県社会福祉協議会・千葉県社会福祉協議会・埼玉県社会福祉協議会・茨城県社会福祉協議会・栃木県社会福祉協議会・群馬県社会福祉協議会後援、浦和社会児童養護施設カルテット協力)

初日はウォーミングアップを兼ねたゲームで打ち解け、2日目は歌や漫画、本などを題材にしたソロ作品を発表したり、グループに分かれて劇やダンス、朗読とダンスを織り交ぜた作品づくりをしました。最初は緊張から口数も少なく、笑顔もなかった参加者が、最終日の発表では堂々とした演技や軽快なダンスによるパフォーマンスを繰り広げました。

ワークショップ終了後のアンケートには「仲間と協力することの意味、コミュニケーションの大切さを学んだ(高校生・男子)」「これをきっかけに何かできたらいいなあとと思った。また次回も参加したいなと思いました(高校生・女子)」という声が寄せられました。

コーディネーターはワークショップコーディネーターの吉野さつきさん、講師は演劇家・柏木陽さん(演劇百貨店)、振付家・早川朋子さん。

子育て支援専門職の勉強会「ペアレンティングを支援する会」(大阪)

大阪府の児童虐待防止協会と当事業団主催で、保育士や保健師、家庭児童相談員ら子育て支援現場の専門職と大学の研究者ら約40人が集う勉強会「ペアレンティングを支援する会」を02年度から続けてきました。06年度には、豪州の子育て支援プログラム「トリプルP」の理論と実践に向けての研修をおこない、これを受けて07年度は「大阪府における母親支援プログラム『前向き子育てプログラム』～子育てに自信がもて、子育てが楽しくなる連続講座」で、「トリプルP」の実践をおこないました(大同生命厚生事業団、(財)大阪府男女共同参画推進財団後援)＝写真。



大阪府下では初の試みでしたが、10月～11月と1月～3月の2回、各回約12人程度の就学前の子をもつ母親が参加しました。会場は大阪府中央区のドーンセンター(大阪府立女性総合センター)。講師は2回とも家本めぐみさん(NPO法人トリプルPジャパンの関西地区担当)ら。

紙面を見て応募した母親達が経験豊かなファシリテータと週1回2時間程度のプログラムを計5回受けました。「トリプルP」を紹介するDVDを見たり、ロールプレイやグループワーク、ホーム

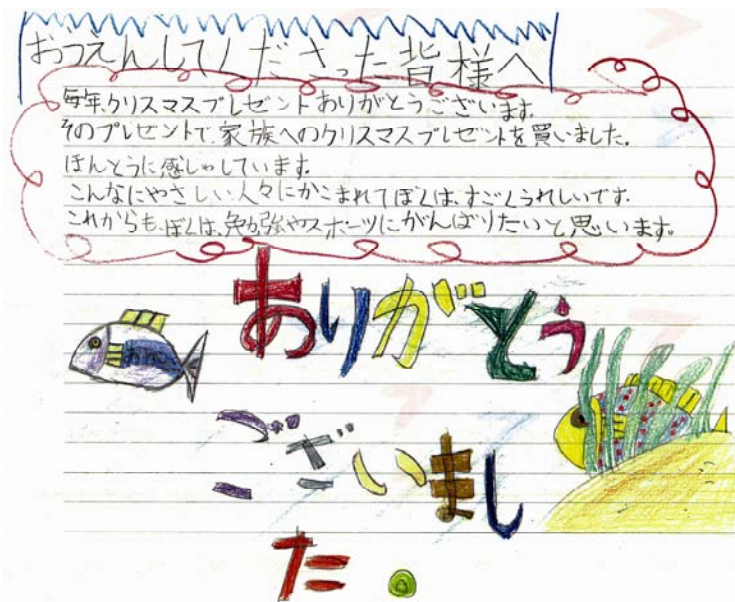
ワークを体験したりすることで育児技術を学び、最終回では多くの母親が自信をもって子どもをほめ、余裕をもって育児にあたるようになったと感想を述べました。

交通遺児への越年助成金（東京）

NPO法人交通遺児等を支援する会がおこなう、交通遺児へ越年助成金を送る事業を支援しました。

越年助成金とは、毎年12月に交通遺児家庭の幼児から中学生までの子どもたち400人に、クリスマスプレゼントとして1人あたり5千円を助成するものです。プレゼントを受け取った子どもや保護者からは、心のこもった手紙が届きました=写真。

また、目黒区・国民年金中央会館こまばエミナースで8月29日に行われた、母と子の親睦を図り保護者同士が悩みを語り合える催し「夏のお食事会」の経費の一部を助成しました。



高校生のためのワークショップ（大阪）～健康で活力ある社会をめざして～

高校生たちが自分の健康や将来の人生をどのようにデザインするのかを考えるワークショップ（大阪YMCA・大阪府地域福祉推進財団共催）を開催。7月22日の障害者バリアフリー講座と、7月25日～26日の1泊2日、泉南市・里山自然学校「紀泉わいわい村」での体験学習に高校生、シニアら15人が参加しました。

講演会「親と子を考える」（大阪）

当事業団と大阪府青少年活動財団、大阪少年補導協会、関西テレビ青少年育成事業団の4者が1997年から継続しておこなっている青少年問題シリーズの講演会です。

今年は児童虐待や家庭内暴力などが社会問題となるなか、「親と子を考える」をテーマに、第1回は、大利一雄・福井県立大学看護福祉学部教授を、第2回は漫画家と大学教授の二足のわらじをはく団士郎・立命館大学大学院教授を招いて開きました。グループワーク論で第一人者の大利さんは、子どもの成長段階における親が子に対する理解の仕方を、また団さんには長年児童相談や家族療法に取り組んできた体験談を交えて話をさせていただきました。各回50人。

街の学校（大阪）

〈奈良〉

奈良NPOセンター（仲川順子代表）が、子どもも大人も学びたいことを学べる市民参加の「街の学校」奈良サマーセミナーを8月4日、5日、奈良市のならまち振興館などで開催しました。両日で、「勾玉づくり」「能面教室」「ソーラークッカーでエコクッキング」「男の料理教室」「シニア世代のための資産運用講座」「ならまち探訪ウォークラリー」など32講座、延べ700人が参加しました。当事業団後援、助成。

〈大阪〉

11月3日、大人も子どもも共に学ぶ街の学校、「YMCAひろば」を、土佐堀YMCA会館で開催しました。「学び」をキーワードに地域との交流、活性化をめざす催しです。当事業団後援、助成。

シンポジウム「子どもたちの居場所を考える」（名古屋）

5月13日、中区の朝日ホールで、シンポジウム「子どもたちの居場所を考える」を開催、約70人が参加しました（NPO法人アサヒキャンプ名古屋共催）。

基調講演として愛知学院大学教授の江口昇勇さんが「子どもたちの今～スクールカウンセラーやアサヒキャンプでの経験から～」のテーマで、学校での子どもの言動にはすべて原因があり、その原因の部分はどうとらえて、教師や親はどう対応していくかが問われると話しました＝写真。



四日市市立桜小学校教諭の加藤裕子さんは、特別支援教育の四日市市の現状から、教育現場でネットワークが広がっていることを説明しました。

保護者の伊勢村和生さんは、わかりやすいプログラムの提示、細かいスケジュールを決めないこと、ゆったりしたプログラムの良さなどが、障害のある子どもの喜びや成長を引き出すと話しました。

心理療育研究所トマニ教室所長の繁昌成明さんは、軽度発達障害キャンプに約15年関わってきた経験から、キャンプで子どもたちと学生たちがふれあいながら成長することを経験豊かに話しました。

児童精神科医の吉川徹さんはキャンプでは成功体験を演出する仕組みが大切で、その成功体験が参加した子どもの後の成長に大きな影響を与えると話しました。

情報交流会「もうひとつの子ども・青年の居場所」（名古屋）

6月3日、中区の朝日ホールで、情報交流会「もうひとつの子ども・青年の居場所」を開催、東海地方を中心に子どもや青年の居場所としてフリースクールやフリースペースなどを開いている15団体が、それぞれの活動内容を発表しました。不登校の子どもたちの居場所を探す親やスクールカウンセ

ラーなど教育関係者、団体関係者ら約100人が参加し、情報交換を行いました。

今回は発達障害の人たちの保護者団体の方々の参加もあり、障害のある人で学齢期に不登校になったり、学校卒業後ひきこもりになる例も多数あり、その人たちにとっての居場所が社会の中に少ないという課題が浮かび上がりました。

参加団体は次のとおり。

西濃学園（岐阜県揖斐川町）、なでしこの会（愛知県阿久比町）フリースクールまんじえ、自立と共生をめざす会もやい（以上一宮市）、いまから（豊橋市）、クツナ池の原センター（田原市）、青少年自立援助センター北斗寮（蒲郡市）、見晴台学園、赤門学習塾、フリースペース日和、まなび場、不登校・学びネットワーク東海、学習障害児・者親の会かたつむり、日本自閉症協会愛知県支部、アサヒキャンプ名古屋（以上、名古屋市）

第24回福祉施設絵画展（名古屋）

名古屋市児童養護連絡協議会、名古屋市知的障害者福祉施設連絡協議会に加入する施設に入所か通う子どもや人たちの作品を展示する絵画展を7月中旬より、児童福祉センター、福祉会館などで開きました。（当事業団後援）

31施設627点の応募があり、特賞6人、入選32人、佳作60人が表彰され、当事業団理事長賞は、「どうぶつえん」を描いた、関乃愛さん（6歳・金城六華園）が受賞しました。

その他のキャンプ事業

東 京

東京事務所管内の「朝日キャンプ」は、04年度から「NPO法人朝日キャンプ」に引き継がれ、当事業団の後援で開催されています。

07年度は群馬県片品村ほかで、夏に4キャンプ、秋に1キャンプを行い、合計約140人の子どもが参加しました。キャンプの詳細は「特定非営利活動法人朝日キャンプ」のホームページ（<http://www.asahicamp.org/>）でご覧いただくことが可能です。

大 阪

06年9月特定非営利活動法人を取得した大阪・アサヒキャンプが実施した今夏のキャンプ（3つの主催を含む7キャンプ）を後援、助成しました。

主催の一つ、自閉症児キャンプ（8月17日～19日・大阪府立総合青少年野外活動センター）は、大阪府青少年活動財団とタイアップして5年目。自閉症の子どもが主体的にプログラムに取り組めるよう工夫された中、参加児15人が野外料理＝写真＝やかナー、キャンプファイアーを楽しみました。



名古屋

07年3月に特定非営利活動法人「アサヒキャンプ名古屋」が設立、春休みに春日井市少年自然の家で1キャンプを実施しました。

夏休みには、岐阜県中津川市加子母の乙女溪谷キャンプ場で、3キャンプを行い、小学3年生から中学3年生の障害のある子とない子が参加しました。

また、不登校の子などが参加する仲間キャンプは9月から2月にかけて実施しました。当事業団は後援・助成を行いました。

障 害 者 の 福 祉

中国自閉症教育支援事業

「先進の自閉症療育プログラム～TEACCH 研修セミナー～」の開催

朝日新聞厚生文化事業団
創立80年記念事業・中国
自閉症教育支援事業の一環
として、9月8日と9日、
中国・北京市で佐々木正美
さん（川崎医療福祉大学特
任教授）による講演会「先
進の自閉症療育プログラム
～TEACCH研修セミナー
～」を開催しました。両日
は、自閉症の子どもの親を
はじめ、施設の指導員、専
門家ら500人以上が参加し、自閉症に関連する講演会としては中国では過去に例のない参加者を集
めての画期的な会となりました＝写真。



2日間にわたる講演会に対する参加者の評価は高く、次回開催を望む声と、さらなる支援を望む声
が多数寄せられました。

TEACCHプログラムが与えた衝撃

「例えば散髪や歯医者など、自閉症の子どもが苦手な活動は、実は生活をするうえで最も大切なこ
とが多いと思います。どうすればいいかご指導をお願いします」。2日間を通じて通算4回の機会が
あった質疑応答に、会場中から多くの手が一斉にあがり、質問者はどれも切実な悩みや疑問を訴えま
した。また、「自閉症の正しい理解」に続いて紹介されたTEACCHプログラムによる自閉症の人た
ちへの具体的な支援の数々の例は、驚きをもって迎えられ、講演会の終了後には「ぜひTEACCHプ
ログラムを地元で実施したいので指導をしにきて欲しい」という声がいくつも寄せられました。中に
は1日目が終了後、あまりの内容の良さに、遠い地元の関係者に電話をかけ、車を一晩かけて運転し
てまで会場に呼び寄せたという参加者もいたほど、多くの参加者に興奮をもって受け入れられました。

TEACCHプログラムが自閉症の子どもたちへの支援に行き詰まりを感じている中国のすべての
参加者に、希望を与えるものであったことは間違いありません。

中国でも始まり成果をあげつつある現場での実践

中国自閉症教育支援事業として朝日新聞厚生文化事業団は、北京星星雨研究所が06年11月に開
設した中国初のグループホームへのコンサルテーションを継続して実施しています。中山清司さん
（京都市発達障害者支援センター副センター長）を中心に、07年3月、5月、6月と、今回（9月）

を含めて4回、日数にして通算12日間を費やしてTEACCHプログラムに基づいたグループホームの環境、スケジュール、作業内容などを設定し、現場職員への指導、トレーニングを行ってきました。

TEACCHプログラムでは自閉症の子どもたちを「指導」し、「できるようにする」のではなく、彼らの特性や性格、興味や得意なことに焦点をあて、環境やスケジュール、勉強の内容を、一人ひとりに合わせて設定していきます。TEACCHプログラムは星星雨グループホームの3人の職員に子どもたちの目覚しい変容を提示し、大きな動機付けと自信となっています。この成果は、今回の講演会の2日目に星星雨グループホームの主任職員が映像などを使って報告・発表を行い、参加者の大きな関心を引きました。

星星雨グループホームは、すでに全国からたくさんの見学者を迎えているといいます。同グループホームがTEACCHプログラムを基にしたコンサルテーションで、大きな成果を残しつつあることは中国の自閉症療育の現場にとって大変意義深いことです。

継続した支援を望む声

先にも書いてきたように、本事業の継続を望む声は多く、大きく寄せられました。それだけ日々の対応に困り、情報を渴望している中国の人々の様子が分かります。自閉症の問題というのは、それほど切実で深刻なものです。

佐々木さんはこのような講演会の開催といった支援を今回だけで終わるのではなく、今後も継続していく必要性を実感して日本へ帰国されました。「まさに数十年前、私たちがノースカロライナの人々に分け与えていただいた豊かな財産ともいべきものを、今度は私たちが伝え、分け与える責任があるのではないのでしょうか。私たちにできることがあるなら、隣人としてできる範囲でできる限りの協力をしたい」と心のうちを口にされました。

と き	07年9月8日(土)・9日(日)
ところ	解放軍歌劇院(中国・北京市)
講 師	佐々木正美(川崎医療福祉大学特任教授) 中山清司(京都市発達障害者支援センター副センター長)
参加者	約500人(親、施設職員、専門家ほか)
協 力	北京師範大学／北京自閉症協会／北京障害者リハビリテーションセンター／星星雨教育研究所

※なお、このセミナーの前日、北京師範大学で特別講演を実施しました。

と き	07年9月7日(金) 午後2時～4時
ところ	北京師範大学特殊教育学教室
講 師	佐々木正美(川崎医療福祉大学特任教授)
対 象	北京師範大学・学生、大学院生など
参加者	約80人

自閉症カンファレンスNIPPON～TEACCHモデルに学ぶ実践研究会（東京）

国内最大級の自閉症専門会議としてますます期待が高まる

国内では自閉症の専門会議として最大級の「自閉症カンファレンスNIPPON2007」を8月25日、26日、西早稲田の早稲田大学で開催しました＝写真（自閉症カンファレンスNIPPON実行委員会共催、厚生労働省・文部科学省・日本自閉症協会・テレビ朝日福祉文化事業団・全日本手をつなぐ育成会・日本知的障害者福祉協会後援）。

全国から約1000人の参加者を集めて、6回目を迎えた今回も、米国・ノースカロライナ大学TEACCH（ティーチ）部の最高責任者ゲーリー・メジボフ教授が超多忙なスケジュールを調整して駆けつけました。

また、ノースカロライナ州自閉症協会が親による親のための支援プログラム「ペアレント・メンタープログラム」を開発、実施しているアン・パーマーさんにもお越しいただきました。

この「自閉症カンファレンスNIPPON」は、自閉症の人たちの総合的な支援システムとして世界で最も有効性が認められ、各国で導入されているTEACCHプログラムをモデルにした日本国内での実践の数々を報告・交換するための会議です。

メジボフ教授の講義は、自閉症の人たちを支援する際にすべての基礎となるアセスメント＝評価について紹介、解説するものでした。すべての基本は子ども一人ひとりをしっかり理解することであり、その上で一人ひとりに合わせた支援を考えることが重要であることを具体的に例示しながら解説しました。

パーマーさんは、ご自身が自閉症の子どもの母親であり、ペアレント・メンタープログラムの専門スタッフでもあります。多くの経験を積みトレーニングを受けて選ばれた親が、新しく自閉症の診断を受けた子どもの親に対して支援をすることの意義は、日本の親ごさんたちにとって今後の大きな指標になるものでした。

この自閉症カンファレンスは、全国の教師・専門家・親など多くの関係者から自閉症関連の催しの



中でも最も内容のある大きなイベントとして認識されています。国の制度として「発達障害者支援センター」が全国に整備され始め、05年4月からは「発達障害者支援法」、また06年4月からは「障害者自立支援法」の施行と、わが国では自閉症の人たちへの支援にかかわる法律が次々と登場しています。その中であって、「自閉症カンファレンスNIPPON」の果たす役割と期待の大きさは、いっそう大きなものになっています。

川崎医療福祉大学教授の佐々木正美さんを中心に集まる実行委員会が企画・準備を進め、運営をするこのカンファレンスが「自閉症を正しく理解する」支援者の輪をさらに広げ、社会の移り変わりの中で責任を果たせるよう、これからも向上を目指します。

開催中の2日間は、今回も趣旨に賛同した延べ100人を超える数多くの若いボランティアスタッフによって滞りのない運営が実現されました。彼ら、彼女らもまた、次世代を担えるように大きく育ててくれることも、このカンファレンスの大きな目的のひとつです。

自閉症を正しく理解すること～自閉症の支援で最も大切なこと～（青森）

日本自閉症協会青森県支部との共催でゲーリー・メジボフ教授講演会・400人が参加

8月25日、26日に開催した「自閉症カンファレンス NIPPON 2007」のために来日した米国ノースカロライナ大学TEACCH部部長ゲーリー・メジボフ教授の講演会を8月28日、昨年度までの熊本、長野、京都に引き続いて青森で開催しました（日本自閉症協会青森県支部共催、厚生労働省・文部科学省・青森県・青森市・青森県教育委員会・青森市教育委員会・青森県発達障害者支援センター後援）。

04年度から熊本、長野、京都と毎年各地で開催し、それぞれ500人以上を集めて開催した同講演会。07年度は青森市で開催しました。すでに夏休みが終わり学校が始まっている平日にもかかわらず400人にのぼる参加があり、メジボフ教授の講義に熱心に耳を傾けました。

講演テーマは「自閉症を正しく理解すること」と「自閉症の支援で最も大切なこと」。発生の原因もいまだ特定できず理解の難しい自閉症。教育現場、専門家や親にさえいまだ誤解されていることが多く、そのことが本人たちの生活するうえでの困難をさらに増やし、複雑にしています。「自閉症は脳の障害（damage）ではなくて脳の働き方の違い（difference）なのです」と説明するメジボフ教授は「その違いを正しく理解することが大切」と訴えます。今回の講演会はもっとも重要な自閉症の正しい理解と、それをもとにした自閉症の人たちへの支援の具体的な方法の基本の解説でした。

06年度までは日本自閉症協会との共催で開催してきましたが、残念ながら今回は同協会の事情により叶いませんでした。今回の青森での開催に際し、日本自閉症協会青森県支部を始め、同県の関係各位には多大なご協力をいただきました。またこれをきっかけに地元での活動がさらに活発になることが期待されます。地方からの発信が全国へと波及する日が来るよう、さらにひとつずつ活動を積み重ねていくことが必要であると再確認しています。

と き 8月28日 10:00～16:00

ところ 青森県立保健大学 講堂

参加者 約400人 参加費 3000円

講 師 ゲーリー・メジボフ（ノースカロライナ大学TEACCH部部長）

- 内 容 講演「自閉症の人たちを正しく理解すること～TEACCHプログラムの真髓」
 講演「構造化された指導」
 講演「自閉症の支援で最も大切なこと」

「ジョブコーチ・ネットワーク（JC-NET）」

「障害のある人を就労の現場でどう支えるか」という福祉側からの視点に、「障害のある人たちを企業活動にどう取り込んでいくか」という企業側からの視点でのアプローチが活発になさるようになってきました。障害のある人と企業の双方をサポートする役割を担うジョブコーチと呼ばれる支援者のネットワーク「JC-NET（ジョブコーチ・ネットワーク）」は、当事業団の支援で04年度に創設・スタートし、05年度にNPO法人を取得して厚生労働省指定の「職場適応援助者養成研修」などの事業を積極的に展開しています。

当事業団は、ジョブコーチの正しい理解、普及と障害のある人の就労を支援する人材や資源をさらに育成するために、同法人との共催で今年度もさまざまな事業を実施しました。

1. ジョブコーチ・ネットワーク（JC-NET）フォーラム とやま

ジョブコーチに関する情報提供による質的な向上と、障害のある人への就労支援の普及のために地方で開催する「ジョブコーチ・ネットワークフォーラム」を富山で開催しました。

- と き 2007年6月23日（土） 10:00～16:00
 ところ とやま観光物産センター・多目的ホール
 参加者 約200人 参加費 3,000円
 内 容 講演「地域に根ざした就労支援とジョブコーチの役割」小川浩・大妻女子大学、同「就労移行支援事業はどのように運営すべきか」志賀利一・電機神奈川福祉センター、シンポジウム「就労支援のイメージをつかもう～ここから広がる、つながる就労支援～」仲原善信・福岡市保健福祉局、石村一枝・石村萬盛堂、石井浩明・福岡市障がい者就労支援センター、松本玲子・福岡ジョブサポート（敬称略）

2. JC-NET（ジョブコーチ・ネットワーク）会議

全国のジョブコーチが集う国内最大の会議で、ジョブコーチが進む方向性を示す講演、ワークショップ、実践発表など内容の充実した熱気あふれる2日間の会議です＝写真。

- と き 2008年3月8日（土）・9日（日）
 ところ 大妻女子大学 多摩キャンパス大講義室ほか
 参加者 約500人 参加費 10,000円（JC-NET会員は8,000円）
 内 容 8日：キーノート・スピーチ「就労支援のいま、ジョブコーチのこれから」小川浩・大妻女子大学、ワークショップ①「就労移行支援事業を語ろう」酒井大介・加島友愛会ほか②「地方自治体独自の就労支援」西村浩二・広島県発達障害者支援センターほか③「教育現場からの就労支援を考える」志賀利一・電機神奈川福祉センターほか④「地方に就労支援の芽を植える」堀江美里・WEL'S TOKYO ほか

9日：実践発表分科会①・②（各分科会5人のスピーカーが発表）、シンポジウム「働く障害のある人を地域でどう支える」中村淳子・ティータ&チムチム、木野村なぎさ・WEL'S TOKYO、若尾勝己・東松山障害者就労支援センター、志賀利一・電機神奈川福祉センター。

この他、ジョブコーチや障害のある人の就労支援について基礎から学ぶ「入門講座」や、日ごろの実践をポスターで紹介するポスターセッションなどを同時に開催しました。

3. ジョブコーチ養成セミナー なごや

障害のある人の就労支援にあたる地域での人材養成を目的に、「ジョブコーチ養成セミナー」を名古屋で2回行いました。

と き ①2007年4月14日（土）・15日（日）

②2008年2月23日（土）・24日（日）

ところ 朝日新聞名古屋本社・朝日ホール（2月24日は同本社会議室）

内 容 それぞれ1日目は「基礎講座」で①は約80人、②は約100人が参加。2日目はロールプレイを中心に、グループに分かれて就労支援の実際を学ぶ「実践セミナー」。各36人が参加しました。

第24回「全国高校生の手話によるスピーチコンテスト」

手話の普及とボランティア活動、福祉教育の推進をはかるために1984年から開催している「全国高校生の手話によるスピーチコンテスト」は24回目を迎えました。8月30日に有楽町朝日ホール（千代田区）で行われた本選では、原稿とビデオ審査で選ばれた10人が手話と音声と同時に使ったスピーチで競いました。

開会式では、福祉に高い関心を持たれる秋篠宮妃殿下が「手話が日本、世界で広く認知されていくことを強く願っております」と手話を交えておことばを述べられました（全日本ろうあ連盟、朝日新聞社共催。厚生労働省・文部科学省・テレビ朝日福祉文化事業団・日本手話通訳士協会後援。NEC協賛、東京都聴覚障害者連盟協力）。

全国の79人の応募者の中で、1位に選ばれたのは大阪府・向陽台高校3年の田窪愛さん＝写真。両親がろうあ者の田窪さんは「幼い頃から手話を使っていたが、周囲の視線が気になり、電車の中でお母さんの手を押さえつけて手話を止めさせたことがあった。いまは聴覚障害者と健聴者をつなぐ架け橋になりたいと思うようになった」と話し、見事優勝しました。2位には弟が病気で聴力を失ったことをきっかけに手話を学び、将来はろう学校の教師になることが夢と語った徳島県立鳴門第一高校3年の濱田亜実さんが選ばれました。



また、人生に悩む中学生や高校生へ自らの体験をもとに「あした笑顔になあれ」と題し、スピーチした長野県松本県ヶ丘高校1年の鈴木公彦さんが3位に入賞しました。そのほか、奨励賞には東京都立千歳丘高校3年の居山知絵さんと神奈川県立川崎高校3年今井通嗣さんが選ばれました。



入賞者へは主催者から賞状とトロフィーが贈られたほか、協賛のNECよりノートパソコンやファクシミリなどの賞品と参加者全員に参加賞として手話スピーチの録画DVDと記念品が贈られました。

今年の特別プログラムは筑波技術大学准教授の大杉豊さんによる講演「アメリカ生活あれこれ10年」。聴覚に障害のある大杉さんは1990年に渡米したことをきっかけにロチェスター大学に留学し、その後、博士号を取得。その頃の経験をもとに、日米の違いや米国で出会った人々などについてお話いただきました。

審査員は小椋英子（日本手話通訳士協会会長）、厚生労働省社会援護局障害保健福祉部企画課地域生活支援室長・寺尾徹、東京都聴覚障害者連盟理事長・倉方厚子、全日本ろうあ連盟本部事務所長・久松三二、全日本ろうあ連盟理事・坂上譲二、朝日新聞論説副主幹・臼井敏男のみなさん。

働く 休む 支える（大阪）

精神疾患と障害を「ひとごと」から「わがこと」へ、溝をうめてゆく取り組みをしているNPO法人「精神障害と社会を考える啓発の会」と当事業団は、3月16日、産業創造館ホール（中央区）で精神障害の人たちが働くことや、当事者を支えることについて語り合う「働く・休む・支える」を開催しました。（大同生命厚生事業団・大阪府・大阪市ほか後援）＝写真。



1部は精神科に通院しながら雇用先の理解を得て働いている当事者、雇用先の経営者、同僚の3人が日々の思いを語りました。2部は障害を公表せず働いている「すずきさん」が支援者の三田優子さん（大阪府立大学准教授）と今までの経験や今後の夢を。3部は就業支援ワーカーの石神彰人さんとその支援で企業に働く岩越美和さんが就労までの経過と現在について語りました。最後に精神科医の田川精二さんが3組の話の振り返り

と精神障害者雇用状況の解説をしました。定員をはるかに超える300人近い人が参加し、最後まで立って熱心に聴いている参加者も多く、「就労」への関心の高さが伺えました。

精神障害者ホームヘルパー研修会（大阪）

精神障害の人たちのホームヘルプサービスを担っているヘルパーを対象に利用者の心に添う援助、かけがえのない生活を一緒にどのようにつくりあげていくのか、多くの課題、疑問、悩みに応える研修会を8月4日、大阪社会福祉指導センター（中央区）で開きました。58人のヘルパーが参加し、「障害者自立支援法とホームヘルパーサービス」「精神障害者ホームヘルプサービスの現状」をテーマに講義をはじめ、当事者やヘルパーも交えた質疑応答では活発に意見交換。修了者には修了証書を発行しました。

高次脳機能障害講演会（大阪）

講演会「脳損傷のケア、豪州に学ぶ」

06年、当団が後援した「脳損傷オーストラリア交流の旅」の訪問先、ブリスベン市のクインズランド脳損傷協会のディキンソン会長が招きに応じ7月、名古屋、大阪、東京を訪れました。当事業団が共催・助成した大阪講演会（7月7日、堺市民会館小ホール）では141人が集まり、同国の脳損傷・高次脳機能障害者の支援システムやサービス、同協会の発展のプロセス、また社会的問題行動への対応などを聴き、氏の熱意と誠意あふれた話に多くの人が感銘を受けたようでした。

講演会「壊れた脳 生存する知」

国際障害者交流センタービッグ・アイで11月11日、堺脳損傷協会が医師で脳損傷に倒れ病気を克服、社会復帰を遂げた山田規畝子さんを招いて講演会を開催しました。650人が参加。山田さんは東京女子医科大を卒業した後実家の山田整形外科病院の院長になってまもなく、脳梗塞を起こし高次脳機能障害に。執筆した著書「壊れた脳」はベストセラーとなりテレビドラマ化され反響を呼びました。また、大阪大学医学部附属病院高度救急救命センター医師・塩崎忠彦さんによる講演「脳外傷後の意識障害者はいつ目をさますのか」も同日開催しました。

脳損傷カナダ交流の旅

頭部外傷や病気による後遺症のある「若者と家族の会」、堺脳損傷協会が企画、障害者とその家族ら32人（脳卒中3人、高次脳機能障害4人、小脳変性症1人、知的障害者4人の計12人を含む）が、6月2日から7日までの4泊6日、カナダのアルバータ州、ブリティッシュ・コロンビア州を訪れました。4日、ブリティッシュ・コロンビア州脳損傷協会を視察。GFストロングリハビリセンター＝写真＝では、同協会関係者9人から、



脳損傷の子どもへの対応を中心に説明がありました。同協会は1982年に専門家と一般関係者により設立。今は州規模に広がり、連邦政府の下、州健康省が5つ管轄区内で障害者に対しプログラムを提供しています。脳損傷の子どもたちが元の地域、学校に戻れるよう、医療・福祉関係者チームが1週間ごとに計画を見直し、月一回家族と話し合いをもつなど、きめの細かいサポートをしている様子がうかがえました（当事業団後援）。

第45回心身障害問題を考える集い（名古屋）

6月16日、名古屋市中区の朝日ホールで、第45回「心身障害問題を考える集い」を開催、約130人が参加しました（社会福祉法人あさみどりの会共催）。

戸枝陽基・社会福祉法人むそう理事長は「知的障害者と障害者自立支援法」のテーマで自立支援法成立の意義について講演。この法律について、NPO法人も社会福祉法人も対等に競争できることは大きな規制緩和として評価でき、地域で生活し、働く場所を増やすためにこの制度をどう活用していくかが大事だと講演しました。

北岡賢剛・滋賀県社会福祉事業団企画事業部長は、障害者自立支援法について身体、知的、精神の3障害がいっしょになったこと、市町村が実施主体となったこと、財源を確保する仕組みを作ったことなどは評価できる、また信楽青年寮での経験などから障害者が地域の中で生きることや障害者アートのすばらしさについて、海外の作品や国内の作品のスライドを映しながら紹介しました。

てい談では講師2人に島崎春樹・あさみどりの会理事長を交えて、町ごとに障害のある人の暮らしを支える責任があるのが障害者自立支援法だとまとめました。

第26回肢体不自由児・者の美術展（東京）

全国の肢体不自由児・者から絵画や書、コンピューターアートなどを公募し、入賞作品を展示する「第26回肢体不自由児・者の美術展」が、12月6日から9日まで、豊島区の東京芸術劇場展示ギャラリーで開催されました。日本肢体不自由児協会主催、厚生労働省・文部科学省などと後援。

今年の応募は、全国から700点にのぼり、その中から入賞作品120点（特賞、優秀賞、佳作、努力賞）が選ばれました。

主な入賞者は次の通りです。

厚生労働大臣賞＝大橋一真さん（奈良県・畿央大学3年）、瀧元のぶ子さん（兵庫県・相生市身体障害者協会）



文部科学大臣奨励賞＝窪田健太さん（県立鹿児島養護学校高等部2年）、越智脩人さん（三重県・徳風高校2年）

朝日新聞厚生文化事業団賞＝有馬貴大さん（鹿児島県立加治木養護学校小学部4年）＝写真、五石秋歩さん（広島県立広島特別支援学校高等部2年）

第26回名古屋市手話通訳問題研修会（名古屋）

よりよい手話通訳制度を目指して7月28日、中区の朝日ホールで開かれました（名古屋市聴覚障害者協議会主催、当事業団後援）。

聴覚障害者と手話を学ぶボランティア約70人が参加、「コミュニケーションは生きる権利」と題して、稲豊・大阪ろうあ会館職員が講演しました。4グループの分科会では、稲さんの助言を受けながら、手話通訳派遣の利用状況などの実情を話し合いました。ろうあ者が他の障害者運動の先頭になるよう、障害者の権利としてコミュニケーションの手段である手話通訳派遣の積極的な利用を訴えました。

第36回聴美会展（名古屋）

聴覚障害のある美術愛好家らが自主運営する美術展が、8月7日から12日まで、名古屋市民ギャラリーで開催されました（中部聴力障害者美術同好会主催、当事業団後援）。

22人の出品者から、日本画、洋画、彫刻、工芸、写真、書道など75点が展示されました。

朝日新聞厚生文化事業団最優秀賞には「金鯪と美人娘」で写真の田中明さんが受賞されました。

障がい児放課後支援セミナー（名古屋）

3月8日、中区栄の朝日ホールで「障がい児放課後支援セミナー」を開催、学童保育クラブの指導員をはじめ、児童デイサービスの関係者など59人が参加しました。

放課後、子どもたちが過ごす学童保育所などの指導員に、障がいのある子どもについて知識を深めることがねらいで、午前の部では、佐々木将芳・日本福祉大学非常勤講師が「障がいのある子の放課後の制度」について権利保障の観点から講演、繁昌成明・心理療育研究所トマニ教室所長は「障がい児の長期的な発達から見た放課後支援の重要性」で、「支援者は自分のことをよく理解して、保護者や子どもと関係を築いていくことが重要」と強調しました。

午後の部では、小倉正義・名古屋大学発達心理精神科学教育研究センター研究員が「障がいの特徴と支援～いかに理解しどう対応するか～」、高津梓・NPO法人MOVE発達支援部YY指導員は「すぐのできる環境整備と支援グッズの活用」と題して、子どもにわかりやすい工夫をどのようにしたらよいか、話しました。

自閉症の子どもの「自立課題」作り方講座

北九州

1月20日、小倉北区の朝日新聞西部本社会議室で、「自閉症の子どもの自立課題作り方講座」を開催しました。

福岡県をはじめ山口県、長崎県、熊本県、大分県などの福祉施設や病院の職員、小学校教諭、保護者など40人が受講しました（当事業団主催。朝日新聞社、北九州市、北九州市教育委員会、福岡県教育委員会、日本自閉症協会福岡県支部・佐賀県支部・長崎県支部・熊本県支部・大分県支部・宮崎県支部・鹿児島県支部・沖縄県支部、TEACCHプログラム研究会後援）。講師は、村松陽子さん（よこはま発達クリニック・児童精神科医）、中山清司さん（京都市発達障害者支援センターかがやき・副センター長）、高橋亜希子さん（大阪府発達障害者支援センターアクト大阪）。

受講者はグループに分かれ、自立課題の理論を学んだ後、モデルケースのシナリオをもとに、空き箱やブロックなど身近な材料を使って自立課題作りに取り組みました。午後は、作ったばかりの自立課題でロールプレイを行い、講師のアドバイスや、グループのメンバーの意見を聞きながら作った自立課題を改良し、再びロールプレイを繰り返しました。

みんなで話し合ううちにアイデアがどんどん生まれ次々に改良をしていきました。

受講者のみなさんは、実践を通して、作って、試して、ポイントを見極め、改良するというプロセスが大切だということを学びました。

参加者の皆さんからは、今後も開催を望む声が多く寄せられました。

名古屋

5月29日、中区の朝日ホールで「自閉症の子どもの自立課題作り方講座」を開催、児童福祉施設や病院の職員、小学校の教員、保護者ら41人が受講しました。

DVD「親と教師のための自閉症の子どもの自立課題」を監修した村松陽子・よこはま発達クリニック児童精神科医師、中山清司・京都市発達障害者支援センター副センター長らが指導し、受講者は具体的な作り方のポイントについて学びました。

自立課題は子どもに合わせて調整していくことが重要で、受講者は理論を学習した後、空き箱や容器を使ってグループごとにモデルケースの子どもに合う自立課題を作り、ロールプレイとその感想を話し合いながら、自立課題の改善点をたくさん見つけました。

トランプカードの仕分け、硬貨の袋詰め、ブロックの組み立て、スタンプ押しなどの自立課題作りを通して、受講者は自閉症者にとってわかりやすい視覚的な手がかりを自立課題に盛り込むことの重要性と、難しさを体感しました。



視力障害の大学生のための「聖明・朝日盲大学生奨学金」(東京)

視力に障害がありながら音楽や福祉などさまざまな分野で学問を究めたいと大学へ進学する学生のため、1969年に聖明福祉協会と当事業団の協力により発足した奨学金制度です。この制度を利用した人の中には卒業後、弁護士や大学教授、市議会議員、ピアニストとして活躍する人もいます。これまでの39年間に新奨学生3人を含め、延べ182人が選ばれました。

書類審査を通過した3人には、7月7日、ホテルグランドヒル市ヶ谷(新宿区)で行われた貸与式で目録が渡されました。奨学生には月額3万円の奨学金が渡されます。

奨学生に選ばれた姫路獨協大学外国語学部中国語学科1年の若杉祐司さんは「将来は通訳になり、たくさんの人と関わりを持ち、障害のある人に対する理解を深めてもらえればと思っています」と語りました。

そのほかの奨学金貸与生は以下の通りです。

藤井陽子さん(筑波技術大学保健科学部情報システム学科1年)、松下翔さん(麗澤大学外国語学部英語学科1年)。



第28回障害者歩くスキーの集い(札幌)

今年も、障害のあるなしに関係なくスキーを楽しむ「第28回障害者歩くスキーの集い」を朝日新聞北海道支社と共催で開催しました。伴送者を含め、総勢178人が会場となった札幌滝野すずらん丘陵公園に集い、1キロ、3キロ、5キロ、7キロにわかれてスタート。声を掛け合いながら、林の中のコースを歩きました。障害のある長男と一緒に参加した札幌市北区の長谷川英一さんは、「5年連続の参加です。ここは平らなコースで楽しむことができました」と感想を述べていました。また、大会にはたくさんのボランティアが参加し運営を支えました。

心の輪を広げる体験作文、障害者の日のポスター(東京)

障害のある人となない人がお互いに理解を深めるために公募された「心の輪を広げる体験作文」「障害者週間のポスター」(内閣府主催、当事業団後援)の入賞者が決まり、12月6日、千代田区の有楽町朝日ホールで開かれた「障害者週間の集い」で表彰されました。今年は作文5089点、ポスター1947点の応募があり、以下のみなさんが最優秀賞に選ばれました(敬称略)。

【作文】木津川市立相楽小学校2年・南淵拓人、静岡市立末広中学校2年・仙石菜月、鹿児島県立市来農芸高等学校1年・新名耕介

【ポスター】貝塚市立二色小学校4年・中筋優希、所沢市立南陵中学校2年・鈴木久美子

第19回九州車いすツインバスケットボール選手権大会（福岡）

九州、沖縄から12チームが参加して第19回九州車いすツインバスケットボール選手権大会（九州車椅子バスケットボール連盟共催）が、11月17日、18日、福岡市のアクション福岡で開かれました。

ツインバスケットボールは、上半身に障害のある人も参加できるのが特徴で、日本で考案された競技です。フリースローサークルの中にもう一つ低いゴールがあり、選手は障害の程度によってシュートの方法が違います。高いゴールをねらえる選手もいますが、障害のため高いゴールをねらえなくとも低いゴールのシュートを決めることやブロックをすることで存在感を発揮でき、達成感を感じることができます。今大会でも低いゴール近くで、ひじや体全体を使ってシュートを防御する局面が数多く見られました。仲間たちは、コートそばから大きな声援と拍手を送っていました。

決勝戦は昨年と同じ組み合わせの「太陽の家ブレイカーズ」（大分）と「沖縄フェニックス」。「沖縄フェニックス」の雪辱はならず39対51の大差で「太陽の家ブレイカーズ」が、6年連続13回目の優勝を果たしました。

第28回朝日九州車いすバスケットボール選手権大会（福岡）

九州車椅子バスケットボール連盟共催で12月1日、2日、大川市の市民体育館をメイン会場に開かれました。

大会には九州・沖縄の各県から15チームが参加し、白熱した試合をくり広げました。準決勝の沖縄シーサークラブ（06年準優勝）と「福岡Limitz」（04年優勝）との激しいぶつかり合いに観客席からは悲鳴が上がるほどの好ゲームでしたが、50-48の大接戦の末「沖縄シーサークラブ」が逃げ切りました。



昨年と同じ顔合わせとなった決勝戦では、「太陽の家スパーズ」（大分）が「沖縄シーサークラブ」（沖縄）を79-47で下して3連覇を果たし、「沖縄シーサークラブ」の雪辱はなりませんでした。

両チームは08年5月、東京で開催された内閣総理大臣杯争奪第37回日本車いすバスケットボール選手権大会に九州代表として出場しました。また、3位決定戦で勝ち残った「福岡Limitz」（福岡）は9月に群馬県で開かれる全国選抜大会に出場します。

高 齢 者 の 福 祉

朝日福祉ふれあいサロン「親の介護・自分の老後」(大阪)

年老いた親や伴侶の介護、核家族化が進むなかで自らの老後をどうすればいいのか、専門家による知識や情報を身につけ、健康、医療、介護などいろいろな問題を考える講座です。

94年に開催して以来14年目を迎えました。113人(定員90人)の申し込みがあり、この講演会に参加して10年目という方もおられ、人気のある講座シリーズです。テーマ、講師は次の通り。参加費6000円(6回分)。



4月 8日 がんを克服し、「クラリネットポルカ」＝写真。

稲本 耕一・稲本音楽事務所クラリネットソロイスト

5月13日 介護予防「家庭でできるエクササイズ」

重信 直人・(財)大阪YMCA中高齢者事業推進室長

6月 3日 「シニア世代の自然との接し方」

菅沼 洋・NPO法人シニア自然大学森林インストラクター講師

7月 1日 「動物由来感染症～食の安全と安心の確保」

小崎 俊司・大阪府立大学大学院生命環境科学研究科教授

8月 5日 「病気のサインを見落とすな」

今井 直昭・今井内科循環器科医師

9月 2日 豊かなシニアライフに向けて！「今から始めるところと身体のメンテナンス」

甲斐 知彦・関西学院大学スポーツ科学・健康科学研究室准教授

第7回「懐かしの童謡・唱歌を歌いましょう」(大阪)

子ども時代を思い出させてくれる童謡や唱歌。10月2日、大阪ガス“小さな灯”運動と高齢者外出介助の会、当事業団が共催で開催しました。

会場の大阪ガスビル3階ホールには300人を超える参加があり、麻生夏代さん(日本童謡・唱歌響会会長)の歌唱指導で「さくら」「赤とんぼ」「森の水車」などの唱歌を全員で合唱しました＝写真。2部では若手マリンバ演奏家による「イキイキコンサート」もありました。入場者から22万3316円の募金がありました。



朝日福祉講演会「高齢者虐待を未然に防ぐために」（高松）

「高齢者虐待防止講演会」を、10月5日、高松市の県社会福祉総合センターで開催しました＝写真。

香川県内から介護ヘルパーやケアマネジャーなど介護に携わる50人が参加しました。津村智恵子さん（甲南女子大看護リハビリテーション学部長）は虐待の現状と原因を説明、虐待を防ぐには地域や行政の支援が必要だと訴えました。福田弘子さん（社団法人大阪介護支援専門員協会研修課長）は、実際に起きた虐待事例から具体的な支援策などをアドバイスしました。



第2回いきいきアロハ・フラ・フェスティバル（大阪）

関西に拠点を置く22団体が構成する実行委員会が7月21日、門真市の市民文化会館ルミエールホールでフラダンスの発表会を開催しました。22チームが1部と2部に分かれて出演。当日は一般客200席を用意。一部の終わりにファッションショーも交え、楽しい雰囲気のなか終始なごやかに進められました。同実行委員会主催、当事業団後援。

朝日高齢者福祉セミナー（名古屋）

「21世紀の高齢者福祉を考える～安心して家に帰るために～」をテーマに朝日高齢者セミナー（愛知高齢者福祉研究会と共催）が6月10日、中区の朝日ホールで開催しました。学生、福祉関係者、一般市民ら250人が聴講しました。

基調講演で小鯖覚・島根県医療法人財団公仁会鹿島病院長が「高齢者医療の最前線～療養型病院から在宅の支援」と題し、療養型病院でおこなわれている医療、介護の現状と地域に信頼される療養型病院であるための課題について話しました。

シンポジウム「安心して家に帰るために～在宅ケアを支える」では、医療費抑制を前提にした国の施策として、病床数の削減、要介護高齢者の在宅療養への誘導といった動きがある中、在宅医療に携わったクリニックの医師や介護老人保健施設の支援相談員、さらには在宅介護を体験者がそれぞれの立場から現状と問題点を話された。

シンポジウム コーディネーター 高島睦・中日新聞編集局生活部記者

パネリスト

船木良真・三つ葉在宅クリニック院長

野田智子・厚生連 昭和病院MSW

福岡功一・介護老人保健施設清風苑支援相談員

田中義子・千種認知症連携の会世話人

福 祉 教 育 ・ 福 祉 啓 発 推 進

環境福祉シンポジウム（東京）

福祉に環境の視点をと当事業団創立80周年記念事業として「環境と福祉から環境福祉へ」をテーマに12月5日、有楽町朝日ホールでシンポジウムを開きました（朝日新聞社共催、環境福祉学会・学校法人堀越学園後援）＝写真。福祉関係者ばかりでなく行政関係者、環境と関わりのある企業などから約300人が参加しました。



基調講演では、前環境事務次官の炭谷茂さんが「環境の力を福祉に生かす」として、環境と

福祉の関係の歴史を振り返り、環境と福祉はともすれば対立する関係だったが、環境福祉の概念によって新しい技術、商品、サービス、仕事、まちづくりが可能と提唱しました。

また、ブラジルのクリチバ市から招いた、同市元環境局長の中村ひとしさんが「環境都市クリチバ」と題し基調報告。スラムでのごみ買い取りプログラムなど環境と福祉を組み合わせた実例を紹介、「人を大切に作るまち作りは環境にやさしいまち作り」と訴えました。クリチバ市は1992年にブラジルであった地球サミットで世界の環境都市ベスト12に選ばれ、中村さんはその立役者として活躍しました。富山市など地方都市で注目される「人に優しいスモールタウン」もクリチバ市がモデルとなっています。

創造学園大学総長の堀越大哲さんは、環境と福祉の融合は、教育によって実現できる21世紀の緊急課題であり、人間の心の復権そのものと教育の役割を強調しました。

このほか、菜の花プロジェクトネット代表の藤井絢子さんが「菜の花プロジェクトと環境福祉」として、休耕田に菜の花を植え、菜種油からバイオディーゼル油を作り動力燃料とする資源循環のサイクルを環境福祉の例として紹介しました。

遺贈・遺言セミナー（東京）

ここ数年、当事業団に遺贈による大口の寄付が相次ぎ、財産を社会のために役立てたいとの相談を受ける機会が増えてきました。お子さんのいない人のみならず、ご家族の円満な遺産相続のためにも遺言により自分の意思を明確にしておこうと考える人が増えていることがうかがえます。

こうした人たちを対象に、今年度初の試みとして、遺言書の作成方法や手続き、遺贈先の選び方や寄付の方法、社会福祉法人への税控除の実際、成年後見制度などについて解説するセミナーを9月27日、朝日新聞東京本社研修室で開催しました。

講師は、相続問題に詳しく、テレビや新聞でも活躍中の弁護士中山二基子さん。相続を「争続」に

しないための遺言書の書き方や、任意後見制度利用の知恵などを含め、大切な財産を社会に役立てるための具体的な手順について詳しく、解説していただきました。当日は、30人のシニア世代が受講し、熱心にメモをとっていました。

今後も定期的開催し、当事業団への具体的な寄付の方法や遺贈を勧めるパンフレットを作成、配布する予定です。また、当事業団への大口寄付を増やす努力をするとともに広く寄付文化の向上に寄与するよう、啓発を行っていきたいと考えています。

第3回自殺防止事業

「自殺!? ちょっと待って!」—思いとどまってもらうために— (福岡)

政府が推進すべき自殺対策の指針を定めた「自殺総合対策大綱」は07年6月閣議決定されましたが、自殺者は9年連続して3万人を超えています。約4割がサラリーマンなど働く人たちで、経済生活やうつ病を背景にするものです。高齢者の自殺も後を絶ちません。また、子どもの自殺が増え78年以降で最も多かったのも大きな問題です。

自殺という危機に直面している人たちに、何ができるのかを考える講演会を昨年に引き続き、9月1日、中央区の都久志会館ホールで開催しました。福岡県内をはじめ、鹿児島県や長崎県壱岐市など遠方からもかけつけ約350人が参加しました（福岡いのちの電話共催、厚生労働省・朝日新聞社・福岡県・福岡市・九州朝日放送後援、大同生命厚生事業団・㈱九州エース電研ほか協賛）。

第1部は、作家・夏樹静子さんの講演「心という生きもの」。夏樹さんは、93年から約3年間、原因不明の腰痛と全身の倦怠感に悩まされました。様々な治療を受けましたが痛みは一向に改善されず、一時は自殺を考えるほど追い込まれました。そのような体験から「自殺に至るかどうかは、少しでも希望があるかどうかで決まる。どんな状況でも希望のかけらは必ず見つかることを周りの人が考えればいい」と重いテーマをユーモアや歌声を交えて話しました。

第2部は、いのちの電話の活動を紹介した「ひとりで悩まずに…いのちの電話」DVDの上映と「朝日社会福祉賞」(06年度)を受賞された、日本いのちの電話連盟常務理事・斎藤友紀雄さんの講演「心の危機を支える～自殺予防はみんなの仕事」。斎藤さんは、いのちの電話の設立の意義や歴史を詳しく紹介し「自殺という危機は信頼関係を結んだ周りの人の働きかけで乗り越えることができる。心の危機を支えるのはみんなの仕事」と結びました。



自殺予防を考えるシンポジウム（東京）

自殺予防に取り組むための正しい知識や援助方法、メンタルヘルス対策に取り組む企業の紹介、自殺予防への理解を深めることなどを目的に10月13日、有楽町朝日スクエア（千代田区）でシンポジウムを開催しました。（朝日新聞社共催）

基調講演は「やまない雨はない 妻の死、うつ病、それから…」と題し、気象エッセイストの倉嶋厚さんにご自身のうつ病や自殺未遂の経験を語っていただきました。

冒頭発言では日本自殺予防学会理事長で日本いのちの電話連盟常務理事の斎藤友紀雄さんが、電話相談事業を通して35年以上自殺を防ぐことに取り組んできた「いのちの電話」の活動を報告。国の自殺予防への取り組みや、世界自殺予防デーにあわせて今年初めて日本でも自殺予防デーが制定されたことなどに触れ、「自殺予防はみんなの仕事です」と述べました。また、聖学院大学大学院教授でNPO法人グリーンケアサポートプラザ理事長の平山正実さんは、現代社会で中高年の人々が置かれている状況や今後取り組むべき対策、方向などについて話しました。

後半のディスカッションは、来場者からの質問にパネリストが具体例をあげながら応える形式で進められました。斎藤さんは「一人にしない」という人間関係を築く、心の絆をもつことが大切」と語り、平山さんは「自殺の原因は一つではない。環境や人間関係の問題など、さまざまな原因が重なった時に自殺は起こる。まず、うつ病（精神的な病気）について知る、自殺予防について知ることが大切」と話しました。



自殺予防講演会「電話がところをつなぐ～いのちを支えるボランティアたち～」(名古屋)

1月26日、中区の朝日ホールで、いのちの電話で日々活躍するボランティアに焦点をあてた自殺予防講演会「電話がところをつなぐ～いのちを支えるボランティアたち～」を開催、140人が参加しました（愛知・岐阜・三重いのちの電話協会共催）。

オープニングに日本いのちの電話連盟のDVD「ひとりで悩まずに」を上映。清水将之・神戸いのちの電話理事は、日本の現代社会は軽いそう状態であり、それだけに相手の気持ちの細やかなところを感じて、傾聴することの大切さ、その傾聴に取り組むいのちの電話の重要性について話しました。



模擬電話相談のロールプレイが行なわれ、利用者役としてのいのちの電話関係者が舞台上に立ち、架空の話を3例実演。電話を受ける相談員役は、実際の電話相談を行わない人が参加者からは見えないところでマイクを通じて話し、その緊張感あふれるやりとりに聞き入りました。



最後に斎藤友紀雄・日本のいのちの電話連盟常務理事が「世界と日本—電話相談のこれまでとこれから—」のテーマで、英国で自殺予防の電話相談を創設したチャド・バラと日本のいのちの電話との変遷、いのちの電話の面接相談などについて話し、自殺予防にはマンパワーが大切であることを訴えました。

「普通に暮らす」ということ（大阪）

「施設」から「地域」へ移行が進められている中で、当事者の思いはうまく伝わっているのでしょうか。「地域で普通に暮らす」という視点の大切さをグループに分かれて考えるワークショップを2月2日、3日アピオ大阪小ホール（中央区）で開催しました＝写真。

当事者、入所施設の職員、支援センターの職員ら32人が参加。4つのグループに分かれ当事者、支援者、家族など、与えられた役割の立場にたって演技をするロールプレイや、気づいたことや感じたことを話し合うディスカッション、



グループでのまとめと発表など進行を4人のファシリテーターと共に熱心に取り組みました。同時に一般も参加できる公開プログラムもありました。片山善博・前鳥取県知事による基調講演「地域生活支援の現在の問題点と今後の展望」の参加者は100人。津田耕一さん（関西福祉科学大学教授）のコーディネートで、植戸貴子さん（神戸女子大学准教授）、玉木幸則さん（メインストリーム協会副代表）、廣瀬明彦さん（相楽福祉会理事）、三田優子さん（大阪府立大学准教授）の4人のパネリストによる「実践報告とディスカッション『私の戦略』」には80人が参加しました。

全国グループホームスタッフネットワーク「京都会議」

3月15日、16日、中京区の京都アスニーで、第3回全国グループホームスタッフ・ネットワーク「京都会議」を開催しました（京都会議実行委員会主催、全国グループホームスタッフ・ネットワーク共催、当事業団、大同生命厚生事業団ほか後援）。

全国からグループホームの世話人や施設職員、学生ら約50人が参加。15日は弁護士の竹下義樹さんによる基調講演「反貧困！生存権の今と生活保護裁判」、後藤玲子・立命館大学大学院教授の講義「くらしと正義のメッセージ」、北野誠一・東洋大学ライフデザイン学部教授らによるてい談がありました。16日は「生活保護制度の行方」「生活支援車座会議（成年後見・重度支援・一人ぐらしへの移行支援）」「グループホームと地域防災」「上手なコミュニケーション」「世話人110番」をテーマにした7分科会と、玉木幸則・NPO法人メインストリーム協会副代表（西宮市）をコーディネ

ーターに、当事者による「私たちに本当に必要なこと」の提言がありました。

また、「京都会議」にあわせて、障害者のグループホームスタッフ・ハンドブック「きほんのき」の改訂版（障害者自立支援法対応）を作成しました。

近畿グループホームスタッフ研修会（大阪）

近畿地域のグループホームのスタッフの交流と情報交換を目的に1998年から続いています。会員は50人。毎月1回の例会では、困っていることをみんなで話し合っ解決策を考える「世話人・利用者110番」や、公開講座「生活保護について」「成年後見制度について」などの講義もありました。（当事業団後援）。

東海グループホームスタッフ研修会（名古屋）

グループホームで暮らす障害者や高齢者を支えるスタッフが交流を深め、情報交換する研修会が中区の朝日ホール、朝日新聞社会議室で年間4回開かれました（東海グループホーム研修会主催、当事業団後援）。

6月23日の「コミュニケーションスキルアップ講座」は45人が参加、東牧子・花園大学教授を講師に招き、グループホームの利用者だけでなく、スタッフ同士のコミュニケーションを潤滑にするために「きくこと」の大切さを講義と演習で学びました。

11月10日は、「夢のあるグループホーム・ケアホーム」と題して北野誠一・東洋大学教授が、障害のある人の地域生活について閉塞的は実情を検証しながら今後の展望を話しました。

9月8日と2月9日は「世話人110番」を開き、小グループで情報交換をしました。サービス管理責任者の役割、入居者や保護者、バックアップ施設との関係などスタッフが抱える不安や悩みを互いに話し合いながら、より良い支援について考えました。

医療と公衆衛生

第59回「保健文化賞」

保健衛生の向上や福祉分野に貢献した団体、個人に贈られる第59回「保健文化賞」（第一生命保険相互会社主催、厚生労働省・当事業団など後援）の贈呈式が9月25日、東京都港区のホテルで行われました。

食を通じた健康づくり運動、食育を実践し、減塩運動や朝食の大切さを啓発する活動などが認められた高知県食生活改善推進協議会（矢野博子会長）、結核の研究・教育・対策に取り組み、国内外の結核対策に大きく貢献した医師の石川信克さんら10団体と6個人に賞金（団体各300万円、個人各150万円）と朝日新聞厚生文化事業団賞などが贈られました。

この賞は1949年に制定されて以来、地域に密着し、健康と暮らしを支える実際的な活動を対象として、団体については5年以上の活動実績があり、個人については活動年数が10年以上で将来も着実な活動が期待できることを重視して選考されています。第一生命保険相互会社が、厚生労働省、当事業団などの協力で年度賞として設定したもので、民間制定の表彰事業として今日までの実績は最も定評のあるものです。

小児がん街頭キャンペーン（名古屋）

小児がんの早期発見を訴えるキャンペーンが、9月2日、中区の松坂屋本店北館前で開かれました（がんの子供を守る会東海支部主催、当事業団後援）。守る会は小児がんで子どもを亡くした親たちによって1968年に設立され、がんで子どもを亡くした親への心のケアや回復後の進学や結婚の悩みなどの相談事業を行っています。

小児がんは、医療の進歩で約7割が「治る病気」になりましたが、風邪の症状に似ていて手遅れになるケースもあり、早期発見が回復の鍵とされています。キャンペーンでは、守る会の会員が街頭でチラシを配り、早期発見と家族への理解を訴えました。治療方法や療養生活についての相談は、岩間正文・三菱名古屋病院医師が助言しました。

のびのびくらぶ（名古屋）

4月18日、5月16日、6月20日、7月18日、9月19日、10月17日の6回開催、0～3歳児の親子42組が、中区の松坂屋友の会文化教室・リトミック室に集いました（松坂屋協賛）。

第1回は尾張旭市などの教育委員会「心のアドバイザー」として活躍している西村則子さんが「子育ては親育ち」と題し、公園デビューや保育園、幼稚園の時期や関わり方などについて『一人で頑張り過ぎないように、子どもは子どもの中で育つ』とアドバイスしました。三輪哲・メルヘンハウス代表は絵本選びや読み聞かせの楽しさを披露。長坂正人・長坂こどもクリニック院長は「夏にはやる子どもの病気」について脱水症状や発熱時の家庭での対応や夜間・休日の小児救急電話相談事業について

て説明しました。メロンパンのお母さんは歌や手遊びを紹介、大型紙芝居やエプロンシアターを親子で楽しみました。鈴木中人・いのちをバトンタッチする会代表は、小児がんで亡くした子どもについて話し、いのちの大切さを訴えました。最終回は、青山亜由美・あいち小児保健医療センター保健師が、ベランダからの転落や台所でのやけどなど家庭の中での危険な場所や事故予防について話しました。回を重ねるごとに親しくなり、子どもの成長や悩みを話し合う母親たちの姿がみられました。

カトレヤ・マタニティースクール（名古屋）

産前産後の健康管理や心構えなどを学ぶ「マタニティースクール」を、中区の松坂屋友の会文化教室で開きました（松坂屋協賛）。

初めての出産を安心して迎えるため、笠岡直子・笠岡母乳育児相談所長が、出産までの呼吸法や妊娠中の健康管理やヨガを取り入れた妊婦体操、実物大の人形を使い沐浴（もくよく）の仕方など指導しました。出産や子育てについて夫の理解を深め、積極的な関わりを求めようと夫婦での参加を呼びかけました。戸惑いながらも抱き方、産着の着せ方などの練習を通して父親になる実感を楽しむとともに、「こんなに大変だとは思わなかった。出来ることは協力します」と心強い感想が寄せられました。【4月17日、5月15日、6月19日】【9月11日、10月16日、11月13日】【2008年1月15日、2月19日、3月12日】の3シリーズ開催。参加者は延べ48組。

生活習慣病市民公開講座（北九州）

財団法人平成紫川会は、公益法人として急性期疾患の治療を中心とした高度医療の提供や、地域医療の確保と質の向上を図っています。当事業団は、今年度も北九州市と平成紫川会との共催で、地域住民の福祉の向上に寄与するため、最新の医療技術や健康情報を提供するとの趣旨で「生活習慣病市民公開講座」を開催しました。

第1回は5月の「憂うつな気分とのつきあい方」でスタート、08年3月の「お薬と上手につきあう方法」まで計6回の講座を開きました。最新の医療情報が聞けるため、延べ800人の市民が参加し熱心に耳を傾けていました。

【講座の紹介】

- 5月26日 「憂うつな気分とのつきあい方」
小倉記念病院 三木浩司精神科部長（北九州市立男女共同参画センター）
- 6月 9日 「メタボリックシンドロームと糖尿病」
同病院 但馬大介糖尿病内科部長（アジア太平洋インポートマート）
- 7月28日 「大切な人が突然倒れた時、あなたは何かができますか？」
同病院 中島研救急部部长（アジア太平洋インポートマート）
- 11月17日 「大切な人が突然倒れた時、あなたは何かができますか？」
同病院 中島研救急部部长（アジア太平洋インポートマート）
- 08年1月19日 「狭心症と心筋梗塞の最新治療と予防」
同病院 延吉正清院長（北九州芸術劇場）

08年3月 8日「おくすりと上手につきあう方法」

同病院 増田和久薬剤部部長（アジア太平洋インポートマート）

アサヒベビー相談室（大阪・高槻・大津）

大阪事務所管内の「アサヒベビー相談室」は、大阪市、高槻市、大津市の3カ所の百貨店で開催、買い物がてら気軽に利用できる無料相談室としてお母さんたちに親しまれています。一番歴史のある近鉄百貨店阿倍野店（1957年開設）では、50周年を迎えた記念に担当医師らに感謝状を手渡しました＝写真。大阪市立大学の小児科医師をはじめ、歯科医師や保育士たちが、それぞれの専門の立場から育児に悩むお母さんの相談にのっています。広い休憩コーナーもあり、憩いの場として賑わっています。今年



度も9月と3月に親子参加のイベントを企画。絵本の読み聞かせや、パネルシアター、歌遊びなどで楽しい時間を過ごし、人気の手作りおもちゃのコーナーでは、熱心に習っていました。

西武百貨店高槻店（1974年開設）は毎週木曜日、小児科医師が交代で相談にあたり、常連のお客さんに頼りにされ、すっかり地元になじんでいます。西武百貨店大津店（04年開設）は、第1・第3日曜に専門相談員が、子育ての先輩の立場からアドバイスし、親しみやすいと好評です。

各相談室の利用者数は次の通り。

近鉄阿倍野店	681人（一回平均8人）	ミニ講演会	177人
西武高槻店	374人（一回平均7～8人）		
西武大津店	80人（一回平均3～4人）		

アサヒベビー相談室（名古屋）

「アサヒベビー相談室」は、年間を通して毎週土曜日に、中区の松坂屋本店ベビー休憩室で開催しました（松坂屋協賛）。体重の増減、便秘や下痢、アレルギー、夜泣き、卒乳の時期など乳幼児の発育からしつけまで、さまざまな「育児なんでも相談」に有吉允子・済衆館病院小児科医長と本紙愛知版「子ども診療日誌」を担当している岩間正文・三菱名古屋病院小児科医師が交替であたりました。

「秋と春の特別シリーズ」は、長坂法子・小児歯科院長、平田国夫・眼科医院長、横尾和久・愛知医科大学形成外科教授が加わり、歯の生える時期や歯並び、目の充血や斜視、あぎの悩みは治療の必要性や方法について応えました。「病院へ行くほどでもないが、日ごろから悩んでいたことが気軽に相談でき、安心しました」との感想が寄せられました。明治乳業（協賛）の栄養士による離乳食や栄養相談も好評で、身長体重測定も含め年間約980件の利用がありました。

チャリティー事業

朝日チャリティー美術展

全国の一流美術家と各界著名人から寄贈された作品を販売し、収益を社会福祉事業にあてる「朝日チャリティー美術展」（朝日新聞社共催）を名古屋、大阪、北九州市、東京の全国4会場で開催しました。

今年も文化勲章受章者や重要無形文化財（人間国宝）を含む画家、工芸・彫塑家、書家、宗教家、茶・華道家、各界著名人ら合計約3500人の方々にご協力いただきました。寄贈いただいた作品は日本画、洋画、工芸、彫塑、書、色紙など約4200点にのぼりました。



「名古屋展」は12月6日から8日まで名古屋市のスカイル丸栄催事場で開催し、重要無形文化財保持者（人間国宝）を含む1063人から寄贈された1304点を即売しました。小山硬さんの日本画「寿富士」や鈴木五郎さんの「志野茶碗」など、人気作家の作品も数多く出品され、この機会に手に入れようと多くのファンが来場しました。

1926（大正15）年、名士、大家書画展覧即売会の名称で始まった「大阪展」は、12月27日から29日まで、大阪・なんば高島屋で開催しました。大勢の人々が詰めかけ、前年（4日間）なみの約4000人が来場し、会場は熱気に包まれました＝写真。総数1146人の各界各分野の作家、名士から1368点の作品をいただき、入札と即売に分けて販売しました。

「西部展」は装いも新たに「第1回西部入札作家作品展」として開催しました。これまで入札作品を寄贈いただいていた先生方を中心に約180人から200点を超える作品をいただきました。2月23日、24日、福岡県北九州市の小倉井筒屋で開きました。大多数の作品は入札販売、一部の作品は即売にしました。作品数や販売方法を変更したため混乱が予想されましたが、何事もなく、会場は大いに賑わいました。売り上げも予想を超え、入札作品の引き渡しもスムーズに行われました。



83回を数える「東京展」は3月7日から10日までの4日間、東京・松屋銀座の特設会場で開催しました＝写真。日本画家の平山郁夫さんをはじめ、日本芸術院会員の洋画家・奥谷博さんや中山忠彦さん、工芸家の人間国宝・井上萬二さん、鈴木蔵さんなど、普段はなかなか手に入れることができない作家の作品を求めて多

くの方が来場しました。来場者の中には始発電車に乗って開店前から並んだという人や宮城、新潟からこのチャリティー美術展のために上京した人もいました。約1100人から寄贈された1300点余りの作品は来場した美術ファンの心をつかみました。

(作品を寄贈いただいた方々のお名前は56ページから掲載しました)

第57回「メサイア演奏会」(東京)



12月12日、東京芸術大学の協力による、「芸大メサイア」演奏会(朝日新聞社共催、東京芸術大学音楽学部協力)を、東京文化会館大ホールで開催しました。このコンサートは1951年の初回から通算で57回目となりますが、今年は、史上最高となる2100人超の観客動員数を記録、半世紀を越えてもなお、衰えを知らない高い人気ぶりを示すかたちになりました。

今回の指揮者は小泉ひろしさん。演奏は東京芸術大学フィルハーモニアの皆さん。そして、ソリストには厳しい学内オーディションを勝ち抜いた松井亜希(ソプラノ)谷地畝晶子、布施奈緒子(アルト)、藤井雄介(テノール)、原田勇雅(バス)の5人の大学院生が選ばれ、荘厳な調べとみずみずしい歌声を披露しました。ホールいっぱいに響き渡る演奏に、会場を埋め尽くした聴衆から盛んな拍手が送られました。

芸大メサイアならではの総勢170人の声楽科学生によるダイナミックな歌声、若き声楽家の登竜門といわれている学内オーディションを通過したソリストによる独唱など、芸大メサイアは、国内でもっとも伝統と格式があるチャリティーコンサートといわれています。

また、東京芸術大学はコンサートを福祉教育の一環としてとらえ、オーケストラの教授陣を含め、無償で出演してくださっています。また、美術学部の先生にはポスターやチラシ製作でご協力いただいております。今回は学長の宮田亮平先生の作品を使用したポスターを作成。大きな話題を呼びました。

親子で楽しむクリスマスコンサート（東京）



今年の「親子で楽しむクリスマスコンサート」は朝日新聞厚生文化事業団の創設80周年を記念して、千代田区の有楽町朝日ホールで12月22日、23日の連続公演で開催しました＝写真。

このクリスマスコンサートは、毎年発売のお知らせから1週間でチケットが売り切れ。歳末恒例の催しとして定着しています。今回も2日間ともチケットが完売し、のべ約1300人が参加しました。

コンサートは歌あり、遊び歌あり、絵本や詩の朗読あり、手品あり、ダンスありのバラエティーにとんだ内容で、舞台と客席が一体となって楽しみました。

出演者は次の通りです。（敬称略）

22日

中川ひろたか（シンガーソングライター）、新沢としひこ（シンガーソングライター）、大友剛（ミュージシャン、マジシャン）

23日

中川ひろたか、谷口國博（創作あそび作家）、おおたか静流（ミュージシャン）、大友剛ほか

第44回宇井あきらとレ・ザマン・ド・ラ・シャンソンコンサート（東京）

12月7日、今年も千代田区のイイノホールで、作曲家で歌手の宇井あきらさんが主宰するシャンソングループ「レ・ザマン・ド・ラ・シャンソン」（シャンソンの恋人たち）によるコンサートが開かれ、メンバーの江上洋子さんら14人が、往年のシャンソンのヒット曲を唄い、会場につめかけたファンを魅了しました。

コンサートは構成を宇井あきらさん、演奏は森若三栄子とそのグループ、司会を桜みさをさん、末永晶子さんが担当し、コンサートをさらに盛り上げました。

本年もコンサートの収益が当事業団が推進する福祉事業に寄託されました。

杵勝会歳末チャリティー長唄演奏会（東京）

12月21日、千代田区の有楽町朝日ホールで伝統古典長唄の演奏家集団「杵勝会」（杵屋勝三郎会長）が主宰する演奏会が開かれました（後援）。演奏会には家元の杵屋勝三郎さんをはじめ、長唄杵勝会の約90人が出演。「君が代松竹梅」「多摩川」「四季の寿」「越後獅子」「時雨西行」など長唄13曲を演奏しました。

スリーデーマーチ・チャリティーウォーク（武蔵野・東松山・飯能）

本年も、日本スリーデーマーチ第30回記念大会（日本ウォーキング協会・県・東松山市・朝日新聞社など主催）が11月2日から4日まで開かれ、参加者は秋晴れの中、比企丘陵の自然を楽しみながら歩きました。

当事業団は、朝日新聞ブースに特別コーナーを出展。現在推進している福祉事業の紹介や、朝日福祉寄金の募金、また、社団法人長寿社会文化協会の協力で、高齢者疑似体験プログラム「うらしま太郎」を使った高齢者の生活体験を行いました。

そのほか、5月3日から5日にかけて開かれた「第12回東京国際スリーデーマーチ」（小金井市・日本ウォーキング協会・朝日新聞社など主催）、そして5月19日・20日に埼玉県飯能市で開かれた「飯能ツーデーマーチ」（朝日新聞社主催）にも出展し、募金の窓口を開きました。

彩季会チャリティーバザー（東京）

12月7日、8日、今年も皮革工芸の指導、研究を行っている杉並区の彩季会（八尾緑代表）で、当同会主催によるチャリティーバザー（当事業団後援）が開かれました。会場には、会員の手作りの小物やアクセサリー、バッグなどが多数展示即売され、多くの来場者でにぎわいました。今年も収益金が当事業団に寄託されました。

第53回朝日推薦演奏会（大阪）

12月9日、北区のザ・シンフォニーホールで第53回朝日推薦演奏会を開きました＝写真。出演者は関西を中心に活躍している演奏家が推薦する新進・中堅の演奏家たちで、今回は高校生、大学生、一般の18人が熱のこもった演奏を繰り広げました。華やかなソプラノや情感豊かなピアノ、力強いマリンバ演奏、優しいフルート四重奏に華やかなアンサンブルも加



わり、質の高い演奏に、約600人の聴衆からは温かい拍手が送られました。出演者は次の通りです。

ピ ア ノ = 稲谷潤美、古賀嘉子、城綾乃、田中絵理、福田絵麻

声 楽 = 岡田実里、後藤真優子、高見智佳子、源雅代

フルート = 川本玉代、松尾尚子、安平玲子、若松裕子

マリンバ = 可児麗子、小松加奈

三 重 奏 = 内等すずえ（ファゴット）、波々伯部宏彦（オーボエ）、金田仁美（ピアノ）

【推薦委員】赤松二郎、池田洋子、井上圭子、岩崎勇、岩淵龍太郎、岡田晴美、片岡みどり、金澤和孝、児嶋一江、酒井睦雄、芝令子、瀬野光子、曾根亮一、田原祥一郎、辻久子、土田晴子、永井和子、服部久美子、深美裕子、宮本慶子、山上明美

(いずれも敬称略、50音順)

第49回「各派合同三曲演奏会」(大阪)



11月23日、北区のフェスティバルホールで開催しました=写真。箏、三絃、尺八の第一線で活躍中の各派の協力で18社中、700人が出演しました。出演社中と曲目は次の通りです(敬称略、出演順)。

須山知行・中島警子社中「きぬた」▽菊塚春秋会「三つの景色」▽八千代会「ことうた～民謡」▽新都山流大阪府支部「本曲 朝の海」▽箏曲和光会・琴古流玉川社「五十の玉川」▽大阪正絃社「愛し子に贈る子守歌」▽菊田歌雄社中「祝ひの曲」▽菊原光治社中「楓の花」▽遊琴会「花葉」▽箏曲栄琴会「秋の言葉」▽都山流尺八楽会大阪府支部「朝緑」▽中扇喜琇鳳社中「巖上の松」▽博籥民恵社中「たそがれ抒情」▽菊武潔社中「松竹梅」▽中里絃恵社中「日本の曲 荒城の月抄・さくら舞曲」▽中野幹子(歌幹)としずれ会「六段の調」▽酒井典彦社中「合奏協奏曲 津山の里」▽菊井礼子と菊井箏楽社「越の名勝」

朝日新聞チャリティーコンサート（大阪・西宮）

今年度は、以下の13コンサートを開催しました。総入場者数は14,413人。13会場に設置された募金は、入場料とは別に皆様からいただき、総額247万5612円になりました。ありがとうございました。

日程	名称	出演者	主な曲目	入場者数
4月8日 午後2時開演	佐々由佳里 ピアノファンタジー	佐々由佳里（ピアノ） 藤本真基子（ピアノ）	ロンドニ長調、ピアノ・ソナタ第14番、ハンガリー狂詩曲第8、9番ほか	526人
4月14日 午後1時開演	本田路津子 輝かしい生命の讃歌	本田路津子（歌&ギター） 岩永恭子（フルート） 佐藤洋子（ピアノ）	風がはこぶもの、耳をすましてごらん、一人の手、アメイジング・グレイスほか	1,246人
4月14日 午後6時30分開演	出口美保 魅惑のシャンソン	出口美保子 坂尾彰彦、涼子 鹿島充都子（ボーカル） 立津宏祠（ピアノ伴奏）	サン・トワ・マミー、人の気も知らないで、パリの屋根の下、千の風になって、ほか	1,221人
5月5日 午後1時30分開演	近藤嘉宏 ピアノ名曲ベスト 2007	近藤嘉宏	ピアノ・ソナタ第3番、小犬のワルツ、幻想即興曲、ハンガリー狂詩曲ほか	1,260人
7月7日 午後1時30分開演	稲庭 達 華麗なるヴァイオリン 名曲集	稲庭 達（バイオリン） 島崎央子（ピアノ）	オブリビオン、ツィゴイネルワイゼン、悲愴、冷静と情熱のあいだ、情熱大陸ほか	843人
9月2日 午後2時開演 〈台風のため7/15中止で延期〉	田中勉&友輝子 名曲プロムナード	田中勉 田中友輝子 阪本朋子	エーデルワイス、野ばら、ウィーンわが夢の街、千の風になって、ほか	943人
9月8～9日の2公演 各日午後4時開演	本田路津子 輝かしい生命の讃歌	本田路津子（歌&ギター） 岩永恭子（フルート） 佐藤洋子（ピアノ）	涙そうそう、秋でもないのに、耳をすましてごらん、一人の手、千の風になって、ほか	2,437人
9月16日 午後1時30分開演	六車智香 ソプラノ名曲の花束	六車智香（ソプラノ） 金子正樹（ピアノ伴奏） リム・ユヒャン 藪田唯（ピアノ）	荒城の月、赤とんぼ、曼珠沙華、里の秋、ある晴れた日に、白銀の月ほか	725人
9月24日 午後2時開演	新進演奏家の旅立ち	第52回朝日推薦演奏会 選抜者10人	愛の夢第3番、ドレッタの夢、ノクターン第1番、ピアノと管楽五重奏ほか	700人
11月3日 午後1時30分開演	幸田さと子 麗しのヴァイオリン 名曲集	幸田さと子（バイオリン） 西脇千花（ピアノ伴奏）	タイスの瞑想曲、中国の太鼓、アヴェ・マリア、受胎告知のミロンガほか	700人
11月23日 午後6時開演	近藤嘉宏 ショパンとベートー ヴェンのタベ	近藤嘉宏（ピアノ）	ショパン=スケルツォ、エチュード第1～12番、ベートーヴェン=月光ほか	2,635人
07年3月1日 午後2時開演	近藤嘉宏 ピアノ名曲ベスト 2008	近藤嘉宏（ピアノ）	ピアノ・ソナタ第8番、遺作、悲愴、幻想即興曲ほか	1,177人

若駒となかま達のコンサート（大阪）

12月23日、北区のリサイタルホールで、民族アンサンブル若駒（桜田舟完代表）主催（当事業団後援）の「若駒となかま達のコンサート」が開かれました。今回で8回目。第1部は新作「どんちやか人形芝居」（土勝弘之作、村上嘉利演出）。第2部は知的、聴覚に障害のある子どもたちが「太鼓おどり」ほかを披露。第3部は「まつり囃子（ばやし）」や備中神楽「大蛇退治の舞」ほかを熱演。収益の一部が寄託されました。

第54回各流合同茶会（大阪）

茶道3千家の宗匠をはじめ各流の宗匠の協力で行われる「各流合同茶会」をリニューアルオープンしたばかりの大阪美術倶楽部（中央区今橋）で、08年3月1日、2日に開催しました=写真。

関西一円から、2日間にわたり延べ5050人の来場者が訪れ、自流はもとより他流の席で作法やお茶を堪能しました。



以下は懸釜担当の宗匠。〔 〕内は流派。敬称略・順不同

【1日】〔表千家〕=木村哲郎 〔裏千家〕=杉本宗鴻、中尾宗勢 〔武者小路千家〕=佐伯江南斎
〔藪内流〕=藪内流大阪支部五葉会 〔習軒流〕=坂田柏苑

【2日】〔表千家〕=森泰輔 〔裏千家〕=杉本宗璋 〔武者小路千家〕=木津宗詮
〔古石州流〕=本庄扇宗 〔遠州流茶道〕=筍新会 〔花月菴流〕=花月菴流大阪支部

<協賛宗匠>

〔表千家〕=靱よし子、表千家大阪青年部 〔裏千家〕=八木宗俊、矢野宗菁

〔武者小路千家〕=芳野眞一、三宅守眞 〔藪内流〕=藪内流随竹会

〔宗徧流〕=佐々木宗節 〔庸軒流〕=柿本梅軒 〔松尾流〕=上西宗慶

〔一茶菴流〕=佃一祐

武 豊・写真パネルチャリティーオークション展（大阪）

通算3000勝を達成した騎手武豊さんの厚意でいただいた写真パネル120点を、「武 豊・写真パネルチャリティーオークション展」（12月26日、なんば高島屋）で販売=写真。売り上げの一部をホースセラピーを行っている2団体に助成しました。助成団体は、NPO法人千葉県ヒューマンセラピー協会と特定非営利活動法人ホース・フレンズ（大阪府）。



ツデーマーチ・チャリティーウォーク（堺）

第2回堺国際ツデーマーチ（堺市・日本ウオーキング協会・朝日新聞社など主催）が5月26日と27日に開催され＝写真、当事業団も朝日新聞社のテントへ出展しました。両日とも晴天に恵まれ、6～40キロのコースに参加したのは2日間で延べ約3600人でした。

会場の大仙公園催し広場で参加者に呼びかけた福祉募金には、合計で1万1778円が寄せられました。



百貨店協賛チャリティー

大阪、京都、兵庫、和歌山4府県内の12の百貨店が、朝日新聞の歳末チャリティーに協賛、12月中に「チャリティーデー」を設け、当日の売り上げの一部が寄せられました。参加店は次のとおり。

【大阪、兵庫】高島屋大阪店、近鉄百貨店阿倍野店、京阪百貨店守口店、大丸心齋橋店、同神戸店、そごう心齋橋本店

【京都】ジェイアール京都伊勢丹、四条河原町阪急、藤井大丸百貨店、大丸京都店、高島屋京都店

【和歌山】和歌山近鉄百貨店

また、近鉄百貨店からは別途、「クリスマスチャリティーベア」（写真）の売り上げの中から20万円が寄付として寄せられました。



第55回「洋舞合同祭」（大阪）

関西洋舞界を代表するモダンダンスとクラシックバレエの祭典「第55回洋舞合同祭」は12月23日から4日間、大阪市北区のフェスティバルホールで開催されました＝写真。

児童、大人の部に21団体の計33チームが出演して日頃の練習の成果を披露し、約6500人の観客が舞台を楽しみました。



貝谷バレエ團関西研究所と高田由紀子バレエ学園は50回、谷桃子バレエ團関西研究所は40回の

記念出演となり、公演当日、ステージで当事業団の桑山明彦・大阪事務所長から表彰状と記念品（50回はフランス・ドーム社の花瓶。40回はチェコ製のクリスタル花瓶）が各団体の代表者に贈られました。

出演団体は次の通り（順不同）

- 【23日】法村友井バレエ学校、同ジュニアバレエ団、貝谷バレエ團関西研究所、江口乙矢・須美子・満典舞踊研究所、同舞踊団、江川バレエスクール
- 【24日】エコール・ド・ダンス・オオサワ、田村弘子バレエ研究所、高田由紀子バレエ学園、同ジュニアバレエ団、畑節子バレエ学院、同ジュニアバレエ、波多野澄子バレエ研究所
- 【25日】本田道子バレエスクール、同バレエ団、北本バレエ研究所、同バレエ団、岸上幸代舞踊研究所、大阪バレエアカデミー、同バレエカンパニー、渡バレエ学校
- 【26日】宝塚音楽学校附属宝塚コードモアテネ、西野バレエ学園、スズキ・バレエアート・スタジオ、岡本バレエスクール、谷桃子バレエ団関西研究所、山本小糸バレエスクール、佐々木美智子バレエ団

（07年4月に貝谷典太先生（貝谷バレエ團）、同年10月に北本四郎先生（北本バレエ研究所）が永眠されました。心よりご冥福をお祈りするとともに、長年のご協力に深く感謝いたします）

西陣呉美の市（京都）

10月19日～21日、西陣製品織元の商品をチャリティー販売する54回目の催し（西陣織会館・西陣工業組合の共催。当事業団ほか後援）。帯、きもの、ネクタイなどを「産地ならではの良品をより安く」をモットーに販売。収益の一部として10万円の寄付がありました。

歳末チャリティーカレンダー展（大阪）

歳末恒例のカレンダー展が12月3日～15日、朝日新聞大阪本社アサコムホールで開かれました。79企業・団体から寄贈のあった自社カレンダーが即売され、カレンダー展の収益100万4360円が、朝日新聞厚生文化事業団に寄託されました。知的障害、自閉症の人らの支援、高齢者虐待防止などの福祉事業に役立てます。

好評をいただいているカレンダー展も15回目を迎え、「車いす寄贈」という当初の目標を達成したこと、また、カレンダーの作製中止で、年々、参加企業が減ったことにより、今回をもって終了することになりました。ご寄贈いただいた企業、団体は次の通りです。（敬称略）

朝日放送（大阪）、アステラス製薬（東京）、いかりスーパーマーケット（西宮）、石橋三夫（横浜）、FM802（大阪）、NTTデータ（東京）、王子製紙（東京）、大阪ウォーターフロント開発〔海遊館〕（大阪）、大阪ガス（大阪）、片山治之（大阪・豊能）、関西エアポートエージェンシー（泉佐野）、関西電力（大阪）、関西ペイント（大阪）、ガンバ大阪（吹田）、紀伊國屋書店（東京）、キヤノン（東京）、近畿日本鉄道（大阪）、京阪エージェンシー（大阪）、京阪電気鉄道（大阪）、コダック（東京）、サントリーミュージアム天保山（大阪）、ジェーシービー（東京）、JTB西日本（大阪）、塩野義製薬（大阪）、清

水建設（東京）、住友化学（東京）、住友商事（東京）、住友生命保険（東京）、西武造園（大阪）、積水化学工業（東京）、積水ハウス（大阪）、ソフトバンクテレコム（大阪）、ダイキン工業（大阪）、大正製薬（東京）、大同生命保険（大阪）、大日本インキ化学工業（東京）、大和ハウス工業（大阪）、高木 唯可（大津）、辻 慶樹（明石）、津田駒工業（金沢）、テルモ（東京）、電通（大阪）、東芝（東京）、東方出版（大阪）、東洋インキ製造（大阪）、東洋紙業（大阪）、東洋紡（大阪）、登龍館（大阪）、凸版印刷（東京）、ニコン（東京）、日本たばこ産業（大阪）、日本中国水墨交流協会（東京）、ネピアトレーディング（大阪）、パイオニア（東京）、白鶴酒造（神戸）、浜縮緬工業協同組合（滋賀・長浜）、阪急交通社（大阪）、日立ハイブラン（東京）、福島工業（大阪）、フジキン（大阪）、富士フイルム（東京）、古野電気（西宮）、文藝春秋（東京）、ベネッセコーポレーション（大阪）、堀場製作所（京都）、松下電器産業（東京）、松下電工（門真）、マリー・ローランサン美術館（東京）、ミサワホーム（東京）、三越日本橋本店（東京）、ヤマハ発動機（静岡・磐田）、ユニオンサービス（名古屋）、稜いっぺい（大阪）、ルフ トハンザ・ドイツ航空（大阪）、日本学生航空連盟（大阪）

協賛能（大阪）

12月23日、在阪神の能楽師が一堂に会し、共演する歳末助け合いの「協賛能」です。観世、喜多、宝生、金剛、金春の5流と、狂言の大蔵流、和泉流が出演＝写真。

この協賛能の収益金56万9314円が寄付されました。



第53回歳末チャリティー朝日茶会（名古屋）

地元8流派の家元、社中の協力で、チャリティー朝日茶会を12月9日、中区の名古屋美術倶楽部で開催しました。（当事業団主催、名古屋美術倶楽部協賛）。

残月の間、葵の間の2席の茶室で、それぞれ松尾、遠州、宗徧、尾州久田の4流と表千家、志野、久田、裏千家の4流が交代でお点前を披露しました。気軽に茶の湯の雰囲気を楽しめると、和服姿の女性ら約700人訪れました。

<協力宗匠>（敬称略）

[松尾流] = 松尾宗典、尾関宗般 [遠州流] = 水谷美那子 [宗徧流] = 寺尾宗康

[尾州久田流] = 下村瑞晃 [表千家] = 谷口宗清、柴田昭和、棚橋昭雄

[志野流] = 蜂谷宗玄、綱島章 [久田流] 加藤久岳 [裏千家] = 庄司宗文、飯田宗林

第37回チャリティー朝日邦楽会（名古屋）

「第37回チャリティー朝日邦楽会」が10月13日、東区の中電ホールで開かれました。名古屋の最高レベルを誇る演奏会として毎年開催されていますが、今年は1月に襲名披露をした6代目杵屋勝四郎さんをはじめ12社中72人が競演しました。また、開演前には伝統文化こども能楽教室のいこ発表披露も行われました。

〈主な演目と出演者は次の皆さん〉（敬称略）

現代箏曲「六段の主題と変奏」梶田昌艶▽新内「若木仇名草」森田たか▽小唄「日吉さん」橘津多▽小唄「膝栗毛」錦乃ぶ▽義太夫「酒屋」川地重幸▽小唄「未練酒」稲舟妙寿▽長唄「越後獅子」杵屋勝哉▽長唄「瓢箪鯰」稀音家吉華▽端唄「系図」富鶴富子▽箏曲「千鳥の曲」今井勉▽小唄「滝の白糸」春日とよ恵▽長唄「京鹿子娘道成寺」杵屋勝四郎

そ の 他 の 事 業

朝日社会福祉賞（東京）

07年度の朝日社会福祉賞（朝日新聞社主催）は各界から推薦いただいた候補を、新聞社内に設けた選考委員会で審議した結果、日本車椅子（いす）バスケットボール連盟名誉会長の浜本勝行さんが選ばれました。2月8日、朝日新聞東京本社で贈呈式があり、秋山耿太郎・朝日新聞社長から正賞のブロンズ像と副賞200万円の目録が贈られました。

浜本さんは車いすバスケットを根付かせた第一人者で、全国的な組織づくりに力を入れ75年に連盟を設立、初代会長に就任。障害者が競技に取り組む先駆けとなり、障害者スポーツの振興に尽くした功績が評価されました。

西部朝日福祉助成金（九州・沖縄・山口）

地域の福祉向上に取り組んでいる小規模福祉作業所やボランティアグループなどの活動を支援する07年度の「西部朝日福祉助成金」は、夏季が九州、山口、沖縄の13団体に461万円を、冬季は福岡県内の4団体に60万円を贈りました。福祉助成金は毎年、年末・年始に実施している「朝日ふれあい募金」を財源にしています。

夏季の助成金の申込団体募集は2月25日付の本紙朝刊の社告でスタートしました。4月8日の締め切りまでに101団体から応募がありました。2次にわたる社内選考と各県の社会福祉協議会や朝日新聞西部本社の総・支局の協力で調査を実施し、13団体が選ばれました。6月23日付朝刊特集面で、その活動を紹介しました。贈呈式は福岡県分を6月27日に西部本社で、その他は各県庁所在地の朝日新聞総局で行いました。

贈呈の13団体と主な購入機器は次の通りです。

- 【山口】要約筆記「えんぴつ」（周南市・要約筆記用プロジェクターほか）▽福祉作業所「かに工房」（山陽小野田市・作業台6台）▽下関市心身障害者福祉作業所（下関市・版下作成用コピー機）
- 【福岡】筑紫野市点字教室（筑紫野市・ノートパソコン2台）▽障がい者YYくらぶ（遠賀郡芦屋町・作業所改修工事費）▽はあとねっと戸畑（北九州市・デジタル印刷機）
- 【佐賀】市民生活支援センター「ふくしの家」（佐賀市・遊具など）
- 【長崎】みはらし（佐世保市・送迎用自動車）
- 【熊本】日本ALS協会熊本県支部（球磨郡錦町・携帯型会話補助・入力装置）
- 【大分】道しるべ（別府市・製品運搬用車両）
- 【宮崎】大瀬作業所（延岡市・ビニールハウス張り替え工事費）
- 【鹿児島】点訳ボランティア「なんてん」（霧島市・ノートパソコン）
- 【沖縄県】一粒の麦（那覇市・電動シーラーほか）

春季（従来は冬季）は長年にわたって地道な社会福祉活動を続けている団体を継続的に支援するた

めの助成で、福岡いのちの電話（福岡市）▽北九州いのちの電話（北九州市）▽福岡県交通遺児を支える会北九州総支部（同）▽福岡県交通遺児母の会（同）の計4団体に贈られ、08年3月19日、朝日新聞西部本社で贈呈式を行いました。

西部朝日福祉助成金の財源である「朝日ふれあい募金」は12月1日から08年1月31日まで受け付けました。郵便振替や朝日新聞西部本社、福岡本部、総局・支局、朝日新聞販売所（ASA）への持参など、期間中九州・山口の皆さまから寄せられた募金は656件、総額485万7607円に達しました。

川島成道福祉施設等訪問プログラム「生命（いのち）の輝き」

国際的に活躍する視覚障害者のバイオリニスト川島成道さんがコンサートに来ることが困難な人たちにも生のクラシック演奏とお話を楽しんでもらい、音楽のもつ魅力や不思議さを知ってもらいたいと04年度から始められたプログラムです。障害者施設やホスピス、老人ホーム、養護学校、少年院などを対象に、朝日新聞紙上で希望施設を公募し、今年度は、川島さんのスケジュールなどの都合で上半期のみになってしまいましたが、5カ所の学校、施設などで実施しました（下表参照）。

演奏とお話による約1時間のプログラムでは、グノーのアベ・マリアやバッハのアリア、また日本の伝統的な名曲「さくら」変奏曲なども披露され、盛んな拍手を浴びていました。また、バイオリンの音色とともに、対象者に合わせたトークも好評でした。日頃、ほとんど表情のないお年寄りの顔が明るく輝いたり、重度重複障害の子どもがリズムをとるように体を揺らしたりする姿、またホスピスでは、多くの涙ぐむ患者さんや家族の姿が見られ、周りの人たちの涙も誘っていました。

訪問先一覧

日時	訪問先所在地・名称	訪問先種別
5月11日	福岡県志免町・栄光病院	ホスピス
5月11日	福岡県久留米市・聖マリア病院	ホスピス
6月13日	大阪市・市立平野養護学校	養護学校（肢体不自由）
6月18日	さいたま市・市立養護学校	養護学校（肢体不自由）
6月24日	東京都多摩市・桜ヶ丘延寿ホーム	特別養護老人ホーム

なお、3年余にわたり、全国計44カ所の施設、学校等を訪問してきた当プログラムですが、川島さんが8月末で所属事務所から独立したため、今年度でいったん終了することになりました。また、機会を改めてこのようなプログラムを実施したいと考えています。

シンポジウム「多文化社会ニッポン～聞いてみよう！在住外国人の声」（大阪）

ブラジルやアジア各国から来日した在住外国人の家族らが直面している諸問題について当事者らの思いや意見を聞き、多文化共生社会に向けてどうあるべきかを共に考えてみませんか――。

そんな呼びかけで初のシンポジウムを9月29日、中央区の大阪社会福祉指導センター研修室で開催しました。NPO法人関西国際交流団体協議会（大阪市）の有田典代事務局長がまず基調報告、ブ

ラジルや中国帰国者のほか、労働力を求められてアジア各国からの在日外国人が増えている近年の流れや、それに伴って言葉の壁など在住外国人たちが抱えているさまざまな悩みについて紹介しました。

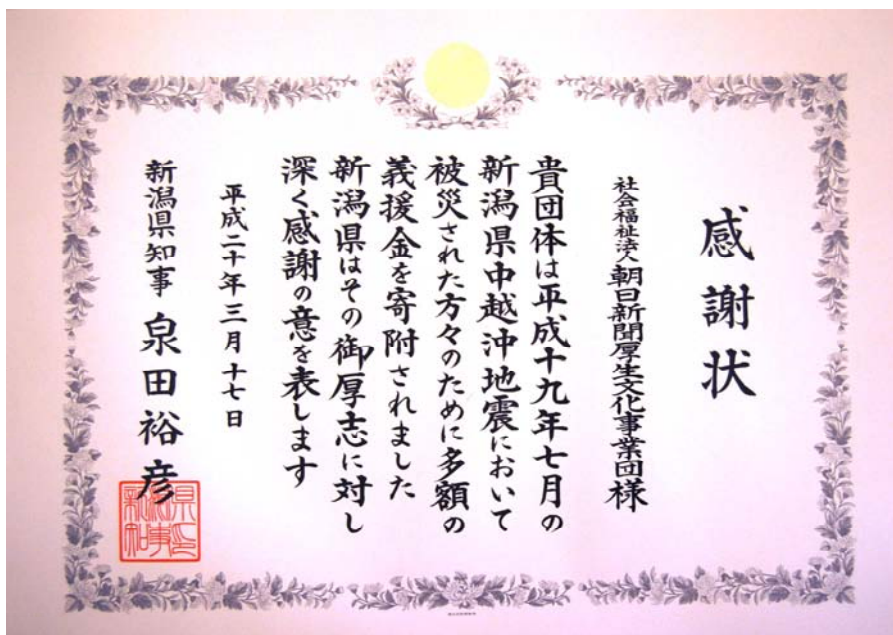
続くシンポジウムでは、ブラジルやフィリピン、ベトナムの団体代表ら3人がパネリストになり、自らの体験などを交えて差別が現存している法制度や、偏見の目でみられたり、子どもがいじめを受けたりする日常生活などについて問題を提起、会場の参加者と質疑も交わし、相互理解を深めることや行政にとどまらない対応の必要性を指摘しました=写真。



新潟県中越沖地震救援募金

7月16日に新潟県中越沖地方で発生した地震は、死者11人、全壊家屋1000棟を超える大災害となりました。また、3年前の新潟中越地震で被災し、今回の地震で再び被災した人や高齢の被災者も多く、地震の規模以上に深刻なダメージを受けました。さらに原子力発電所の被災による風評被害は、夏の観光シーズンに多大な影響を与える結果となりました。

当事業団は7月18日から8月18日までの一カ月、朝日新聞社と協力して被災者救援募金を呼びかけました。朝日新聞読者のみなさまをはじめ、全国各地から支援が寄せられ、締めきり後到着分も含め、募金は1,123件2,587万2,078円に達しました。集まった寄金はすべて新潟県災害対策本部を通じて、被災者救援にあてさせていただきました。皆様の温かいご支援、ご協力に感謝申し上げます。



おもな後援・協賛・協力事業一覧表

日程	催事名		主催者名	会場
東京事務所				
3/31~9/1	第1回全東京ろう社会人軟式野球TDリーグ大会	後援	全東京ろう社会人軟式野球連盟	北区新荒川大橋球場ほか
4/14	MOMO東京パイロットクラブ17周年記念チャリティーセミナー	後援	MOMO東京パイロットクラブ	なかのZEROホール
4/23~5/7	第25回記念FAA展(富士展)	後援	富士美術協会	東京都美術館
5/1	講演会「TEACCHの街アルバマーレ」	後援	横浜市白閉症自者親の会	横浜市開港記念会館
5/2~5/4	「第36回記念日本車椅子バスケットボール選手権大会」	後援	日本車椅子バスケットボール連盟ほか	東京体育館
5/5~5/11	平成19年度(2007年度)第61回「児童福祉週間」	協力	厚生労働省ほか	
5/12	日本リウマチ友の会第47回全国大会	後援	日本リウマチ友の会	ホテルグランヴィア 京都
5/26・27	4団体合同写真展未来への道~アジアの子どもたちと共に~	後援	国際協力 風の会ほか	ギャラリーハセガワ (東京・原宿)
5/30~6/3	第55回全国ろうあ者大会関連事業 第2回全国聴覚障害者写真コンテスト	後援	第55回全国ろうあ者大会 in 香川実行委員会	香川県民ホール・サンポール高松
6/1・2 7/26・27	第56回「関東聾学校陸上競技大会」および「バレーボール大会」	後援	関東聾学校体育連盟	川崎市等々力陸上競技場、東京武道館
6/5	「若さの栄養学」春の講演会	後援	若さの栄養学協会	きゅりあん(東京・大井町)
6/8	日本聾話学校チャリティー映画会	後援	日本聾話学校	日比谷公会堂
6/9	第19回クウォーターズクラブチャリティーコンサート	後援	クウォーターズクラブ	紀尾井ホール
6/9~10	第23回DPI日本会議全国集会神奈川大会	後援	DPI日本会議ほか	ワークピア横浜
7/7	目白大学夏季公開講座「子育て支援の実際と課題を考える一子どもが健やかに育つ条件とは」	後援	目白大学教育研究所	目白大学
7/10~16	第49回「慈彩会展」	後援	慈彩会	日本橋三越本店
7/14~	映画「プライド in ブルー」	後援	映画「プライド in ブルー」の製作を成功させる会	
7/14~8/15	「軽井沢の森2007 子供と高齢者のためのチャリティーコンサート」	後援	林屋総合研究所	軽井沢大賀ホール
8/4	国際セミナー「視覚障害者と就労」	後援	日本盲人福祉委員会	日本点字図書館
8/10	「夏の大学たんけん隊~みんなで遊ぼう 緑のキャンパス~」	後援	法政大学高橋利一ゼミナル次世代育成計画実行委員会	法政大学多摩キャンパス
8/27~29	第58回全日本少年野球大会	後援	厚生労働省ほか	長崎県営野球場
9/1	正秋バンドチャリティーコンサート 愛のサウンドフェスティバル	後援	東京光の家	パルテノン多摩大ホール
9/7	「日本点字図書館 秋のチャリティー映画会」	後援	日本点字図書館	なかのZEROホール
9/16	講演会「誰でも人間らしく生きられる街づくりをめざして(障がいがあってもなくても藤岡で共に生きる)」	後援	NPO 法人ほけっと	藤岡市民ホール

日程	催事名		主催者名	会場
9/21	第44回「東京都老人クラブ芸能大会」	後援	東京都老人クラブ連合会	東京厚生年金会館大ホール
9/22~23	「第16回全国ボランティアフェスティバルあいち・なごや」	協賛	全国ボランティアフェスティバル推進協議会	愛知県芸術劇場ほか
9/23・24	第11回「電動車椅子サッカー関東大会」	後援	関東ブロック電動車椅子サッカー協会	障害者スポーツ文化センター 横浜ラホール
9/28	第37回「朗読録音奉仕者感謝の集い」	後援	鉄道弘済会ほか	弘済会館
9/30.10/1	第33回みんなの音楽会と認知病高齢者講演会	後援	東京ミュージック・ボランティア協会	浴風会大ホール
10/3~10/5	「第34回国際福祉機器展 H. C. R. 2007」	協賛	保健福祉広報協会ほか	東京ビッグサイト
10/5~7	第32回全日本ろう社会人軟式野球選手権大会	後援	全日本ろう社会人軟式野球連盟	江東区潮見運動野球場ほか
10/8	第20回「全国障害者将棋大会」	後援	全国障害者将棋大会実行委員会	北とびあ
10/14	第6回ピポ・ユニバーサル駅伝大会	後援	コミュニケーションスクエア21	明治神宮外苑聖徳記念絵画館広場ほか
10/20・21	「第37回関東ろうあ青年のつどい」	後援	関東ろう連盟青年部	国立オリンピック記念青少年総合センター
10/21	第5回本間一夫記念 日本点字図書館チャリティーコンサート〜イェルク・デームスピアノリサイタル	後援	日本点字図書館	東京文化会館小ホール
10/25・26	2007「全国精神障がい者家族大会」岡山大会	後援	岡山県精神障害者家族会連合会	岡山シンフォニーホール
10/27	第39回愛隣会チャリティバザー	後援	愛隣会	愛隣会構内
10/27~28	「第11回全国聴覚言語障害者福祉研究交流集会」	後援	京都聴覚言語障害者福祉協会ほか	大谷大学
10/28	「第54回東京都聴覚障害者大会」	後援	東京都聴覚障害者連盟	府中の森芸術劇場
10/30~11/5	日本手芸作家クラブ 第51回新作・チャリティー展	後援	日本手芸作家クラブ	池袋三越
11/2	児童福祉法制定60周年記念「平成19年度 全国社会福祉大会」	協賛	厚生労働省ほか	東京厚生年金会館大ホール
11/2~4	「サイトワールド2007」	後援	日本盲人福祉委員会	すみだ産業会館
11/9	第19回「国民の健康会議」	協賛	全国公私病院連盟	ヤクルトホール
11/13~23	第20回「福祉 MY HEART 美術展 日仏交流記念展」	助成	マイハート・インターナショナル	I.M.E.Les ELFES(フランス)
11/17	第28回全国歯科保健大会	後援	厚生労働省ほか	東京ビッグサイト
11/17	「第4回本間一夫文化賞」	後援	日本点字図書館	ビッグボックス(高田馬場)
11/30~12/2	第7回全国障害者芸術・文化祭ながさき大会	後援	厚生労働省ほか	大村市・シーハット大村
12/1	目白大学秋季公開講座「子どもたちの日常生活のつながりの中の非行ー規範意識をどう育てるかー」	後援	目白大学教育研究所	目白大学
12/3~7	総合福祉センター「弘済学園」園生の作品展示・療育相談会「ほくにもできる展」	後援	鉄道弘済会ほか	JR 東京駅丸の内北口地下動輪の広場
12/19	「第56回東京都社会福祉大会」	協賛	東京都ほか	東京都庁大会議場

日程	催事名		主催者名	会場
12/20	青少年と共に歩む会「憩いの家」資金バザー	後援	青少年と共に歩む会	日本橋高島屋
12/21~22	「きょうされん第30回全国大会 in とうきょう」	後援	きょうされん	東京ビッグサイトほか
12/22~23	児童福祉法制定60周年記念「全国子ども家庭福祉会議」	後援	全国子ども家庭福祉会議実行委員会	東洋大学白山キャンパス
2008 1/14	障害者医療問題全国ネットワーク第7回シンポジウム	後援	障害者医療問題全国ネットワーク	国立オリンピック記念青少年総合センター
2/15~17	第2回アメニティーネットワークフォーラム	後援	アメニティーネットワークフォーラム実行委員会	大津プリンスホテル
3/1	「メンタルヘルスの集い」(第22回日本精神保健会議)	後援	日本精神衛生会	有楽町朝日ホール
3/3	第53回「耳の日」記念行事後援(名義)の申立	後援	日本耳鼻咽喉科学会	有楽町朝日スクエア
大 阪 事 務 所				
4/1~12/31	自然観察インストラクター養成講座	後援	大阪自然環境保全協会	服部緑地公園ほか
4/1~5/31	地域保健福祉研究・ボランティア活動助成	後援	大同生命厚生事業団	大同生命
4/9~3/10	家庭看護実習教室	後援	大同生命厚生事業団	大同生命
4/12~14	バリアフリー2007	後援	大阪府社会福祉協議会	インテックス大阪
07年度	電話相談ボランティア養成講座	後援	関西いのちの電話	社会福祉法人博愛社内
4/15	日本ライトハウスチャリティーコンサート	後援	日本ライトハウス	ザ・シンフォニーホール
4/27	堺・井上ジョイントコンサート	後援	しゅらの郷	藤井寺市市民総合会館
5/1~3/31	ソーシャルワーカー養成課程	後援	京都国際社会福祉協力会	京都国際社会福祉センター
5/27	共生・共走りレーマラソン	後援	同実行委員会	鶴見緑地
5/25	「若さの栄養学」春の講演会	後援	財団法人若さの栄養学協会	大阪産業創造館
5/27	笑〜”WARAI”(能)	後援	帝塚山音楽祭実行委員会 Why don't you“能”?実行委員会	ささら屋(住吉店)
6/3	第14回マインドエアロピクス	後援	マインドエアロピクス実行委員会	なみはやドームサブアリーナ
6/9	第11回「共に生きるコンサート」	後援	「共に生きるコンサート」実行委員会	箕面市立メイプルホール
6/17	第6回全国LD親の会公開フォーラム	後援	全国LD親の会	大阪府立女性総合センター
6/23	自閉症の子どもたちの「遊びの広場」と「ママ・パパミーティング」	後援	NPO法人BON	大阪府立少年自然の家
6/27	キャンドルナイト・エコロウソク「能」	後援	Why don't you“能”?実行委員会	山中能舞台(阿倍野区)
6/29~7/1	2007「ナイスハートバザール IN イトーヨーカドー」	後援	大阪府授産事業振興センター	イトーヨーカドー東大阪店
6/30	福祉の就職総合フェア2007 in Osaka	後援	大阪府社協、大阪府、全国社協ほか	大阪府立体育館
7/2~9/30	2007 福祉ちょっと体験スクール	後援	大阪市社会福祉協議会	大阪市内、自然の家(奈良県)

日程	催事名		主催者名	会場
7/11~12	第56回近畿児童自立支援施設野球大会	後援 助成	京都府、近畿児童自立支援施設協議会	佛教大学園部球場
7/21	「NPO法人こころの子育てインターネット関西」第22回フォーラム	後援	NPO法人こころの子育てインターネット関西、大阪人間科学大学大学院ほか	大阪人間科学大学庄屋学舎
7/23~27	2007 年度子供の城障害児教育夏期連続講座	後援	財団法人子供の城協会	公文教育会館地下ホール
7/23~28	第28回子どもたちの讃歌	後援	大阪養護教育諸学校造形教育研究会	大阪府立現代美術センター
7/26~27	平成19年度老人介護セミナー（第28回）	後援	大阪府医師会	大阪府医師会看護専門学校
8/4	第13回すいた共生・平和のつどい「ええじゃないか平和夏祭り」	後援	すいた共生・平和のつどい実行委員会	さんくすホール（吹田市朝日町）
8/4~5	第3回奈良サマーセミナー	後援	特定非営利活動法人奈良NPOセンター	奈良市内
8/12	重症心身障害児と補助犬育成支援のためのチャリティーコンサート	後援	もっと気楽にバリアフリーなコンサート事務局 子どもの気持ち舎	阿倍野区民ホール
8/17~19	自閉症児キャンプ「のびのびキャンプ」	後援	大阪府青少年活動財団	府立総合青少年野外活動センター
8/17~22	第24回土と水と緑の学校	後援	社団法人 アジア協会アジア友の会	新宮市高田公民館
8/20~21	第56回近畿児童福祉施設スポーツ大会の後援使用許可と助成	後援 助成	近畿児童養護施設協議会、第56回近畿児童福祉施設スポーツ大会実行委員会、大阪府社会福祉協議会	万博フットサルクラブ
8/24~26	2007 年度・吃音親子サマーキャンプ	後援	サマーキャンプ実行委員会、日本吃音臨床研究会	滋賀県立荒神山少年自然の家
8/24~26	2007 夏ナイスハートバザール IN マイカル茨木	後援	大阪府授産事業振興センター	マイカルサティール茨木
8/25・26	ファインふれあいマリンキャンプ	後援	財団法人 大阪府地域福祉推進財団	和歌山県白崎海岸（白崎海洋公園）
8/26	講演会「忘れかけた心をあなたに」	後援	NPO・Compass Tokyo Japan	梅田スカイビルタワーウエスト 36
8/26~27	ファインふれあい雪山体験事業	後援	財団法人 大阪府地域福祉推進財団	和歌山県白崎海岸（白崎海洋公園）
8/28~9/3	2007 Asia TRY in KOREA	後援	2007 ASIA TRY 実行委員会	韓国・ソウル
9/9	「菊原初子七回忌追善第100回琴友会箏曲地歌演奏会」	後援	琴友会	国立文楽劇場大ホール
9/30	第48回大阪手をつなぐ育成大会	後援	社)大阪知的障害者育成会ほか	松原市文化会館ほか
10/7	第2回「住吉ささら能」	後援	ささら屋住吉店、Why don't you「能」?実行委員会	大阪市住吉区ささら屋 住吉店
10/14	第35回全大阪ろうあ者文化祭	後援	社団法人大阪聴力障害者協会、大阪市聴言障害者協会	大阪市長居障害者スポーツセンター
10/20~28	第26回スポーツフェスタ 2007 大阪	後援	大阪知的障害者スポーツ協会	大阪長居競技場ほか
10/28	ファインエリアフェスティバル2007	後援	実行委員会、大阪府立障害者交流促進センターほか	大阪府立障害者交流促進センター
10/28	第8回誕生日フェスタ	後援	誕生日ありがとう運動本部	神戸生涯学習支援センター

日程	催事名		主催者名	会場
11/1~ 11/30	エベレスト日本人初登頂の冒険家植村直己の足跡展	後援	大阪府山岳連盟	北口山スキー研究所
11/11	第31回「福祉まつり」	後援	第31回福祉まつり実行委員会	総合福祉施設「関目学園」と周辺
11/3	大人も子どもも、共に学ぶ「街の学校（YMCAひろば）」	後援 助成	土佐堀 YMCA ほか	土佐堀YMCA
11/13	第8回大阪救護施設合同文化事業	後援	大阪救護施設合同文化事業運営委員会	太閤園（大阪市都島区）
11/15~17	第43回肢体不自由児者を支援するチャリティーバザー	後援	大阪市肢体不自由児者父母の会連合会	府立青少年会館 京橋駅前
11/16~17	平成19年度 大阪府委託医療社会事業従事者講習会	後援	NPO法人 大阪医療ソーシャルワーカー協会	大阪府社会福祉会館
11/18	2007 能勢・共生のまちづくりやまびこコンサート	後援	社会福祉法人能勢町社会福祉協議会ほか	浄るりシアター
11/21	平成19年度大阪府社会福祉大会	後援	社会福祉法人 大阪府社会福祉協議会	エル大阪・大ホール
11/23	大阪YMCA第13回チャリティーラン2007	後援	大阪 YMCA、WIS* MIA* クラブ 国際協力ほか	万博公園（吹田市）
11/25	平成19年度・第2回福祉の就職フェアin大阪	後援	大阪府、全国社会福祉協議会、大阪府社会福祉協議会ほか	マイドームおおさか3階展示場
11/27	「若さの栄養学」秋の講演会	後援	財団法人若さの栄養学協会	大阪産業創造館
12/1	流通科学大学キッズオープンキャンパス	後援	流通科学大学	流通科学大学内
12/3~5	第30回チャリティ画展（日曜画家）	後援	日曜画家協会	マイシティオアシス（大阪駅前第2）
12/5~8	第14回ノーマライゼーション「絵画・創作展」	後援	ノーマライゼーションクラブ	大阪市立総合生涯学習センター
12/6~10	あみものニットフェア・2007年度	後援	ファッショングループSUMI RE	近鉄百貨店上本町店
12/6~11	第27回「障害のある子どもに学ぶ図工展」	後援	大阪市小学校教育研究会養護教育部、同養護教育担任者会	大阪市長居障害者スポーツセンター
12/7	第56回施設従事者激励会	後援	大阪民間社会福祉事業者共済会	大阪「松竹座」
12/16	福祉施設の子どもたちのバリアフリーコンサート	後援	もっと気楽にバリアフリーなコンサート事務局	阿倍野区民ホール
12/16	つながりを求めて～講演&チャリティコンサート	後援	同実行委員会	守口市民会館大ホール
12/19	2007年大阪ふれあいキャンペーン	後援	大阪ふれあいキャンペーン実行委員会	じばしん南大阪（堺市産業振興センター）
1/16~22	第25回ふれあいの街・チャリティーバザール	後援	大阪府社会福祉協議会、成人施設部会	高島屋堺店（9階催事場）
1/20	平成20年「大阪手をつなぐ育成会 新成人を祝う集い」	後援	社会福祉法人 大阪知的障害者育成会	KKRホテル大阪
1/20	高齢者虐待防止センター講演会	後援	社会福祉法人 門真晋栄福祉会	門真市民文化会館
1/26~27	TEACCHコラボレーションセミナー	後援	TEACCHプログラム研究会	シルクホール（京都市）
1/28	ファインエイジフォーラム2008	後援	財団法人大阪府地域福祉推進財団	大阪市中央公会堂
2/8~12	2008 ナイスハートバザール IN マイカル茨木	後援	大阪府授産事業振興センター	マイカルサティ茨木店

日程	催事名		主催者名	会場
2/9~11	平成19年度「大阪府障害者スキー講習会」	後援	大阪府障害者スポーツ振興協会	八チ高原スキー場
2/16~17	08 ウィンターアウトドア体験 IN 朽木	後援	大阪府キャンプ協会	滋賀県・高島市立森林公園「くつきの森」
2/16~17	チャリティエイドOSAKA	後援	西日本電信電話株式会社	クリスタ長堀 水時計広場
2/17	ハンセン病の今を問う パート5	共催 助成	ハンセン病問題を考える会、朝日新聞厚生文化事業団	尼崎・園田苑
2/18	第46回衛生教育大阪大会、第50回公衆衛生大会	後援	大阪府・市、堺市、大阪公衆衛生協会	大阪府年金病院
2/22	「手 to 紙」展 ~形作るぐんぐんの今~	後援	障害者福祉サービス グングンハウス	京都市勧業館
2/23	第18回「春をよぶみんなのコンサート」	後援	春をよぶみんなのコンサート実行委員会	守口市市民文化会館さつきホール
2/24	誰もが健やかな人生を歩めるために	後援	大阪府、NPO難病連ほか	アピア大阪
2/25~	朝日新聞音訳ボランティア養成事業	後援	JBS 日本福祉放送（社会福祉法人視覚障害者文化振興協会）	大阪府私学教育文化会館（大阪市都島区）
2/26、3/26	講演会「忘れかけた心をあなたに」	後援	NPO・Compass Tokyo Japan	大阪、高槻
3/8	素のままフェスタ2008	後援	素のままフェスタ2008実行委員会	豊中市立アクア文化ホール
3/23	第20回こんにちはまつり	後援	こんにちはまつり実行委員会	兵庫県中央労働センター
3/26	第23回肢体不自由児者の作品展	後援	大阪府肢体不自由児者協会ほか	ドーンセンター（大阪市中央区）
名古屋事務所				
4/29	名古屋いのちの電話「日本語のかたち」朗読とトークの会	後援	名古屋いのちの電話実行委員会	名古屋芸術創造センター
4/29	第18回ナゴヤチャリティーマラソンフェスティバル	後援	名城オールランナースクラブ	庄内緑地公園（名古屋市）
5/9他	第4回名古屋市障害者スポーツ大会	後援	名古屋市身体障害者福祉連合会	名古屋市瑞穂陸上競技場ほか
5/12	第9回名古屋精神障害者家族会連合会	後援	名古屋市精神障害者家族会連合会	めいぎん生協生活文化会館（名古屋市）
5/13	講演会「自閉症の理解と支援」	後援	TEACCHプログラム研究会愛知支部	ウィルあいちホール（名古屋市）
5/18~20	第10回国際福祉健康産業展 ウェルフェア2007	後援	名古屋国際見本市委員会	ポートメッセなごや（名古屋市）
5/27	色覚特性検査「大型船用灯色識別テスト」	後援	本郷眼科・神経内科院長	朝日ホール（名古屋）
6/24他	平成19年度自閉症・児のための支援セミナー	後援	日本自閉症協会愛知県支部	朝日ホールほか
6/26~28	第36回全国児童養護問題研究会全国大会	後援	全国児童養護問題研究会	愛知産業貿易館アイリス愛知（名古屋市）
7/1	第24回愛知県聴覚障害者大会	後援	愛知県聴覚障害者協会	尾張旭市文化会館
7/20他	第24回福祉施設絵画展	後援	名古屋市児童養護連絡協議会	児童福祉センター（名古屋市）ほか
8/13~18	第24回岐阜心理リハビリテーション療育連合キャンプ	後援	岐阜肢体不自由児・者父母の会連合会	長良川スポーツプラザ（岐阜市）

日程	催事名		主催者名	会場
8/18~24	第22回三重県心理リハビリテーション 連合キャンプ	後援	三重県心理リハビリテーション 連合会	三重県立鈴鹿青少年 センター
8/19	アスペ・エルデの会設立15周年記念セミ ナーズ	後援	NPO 法人アスペ・エルデの会	名古屋市総合福祉会 館
8/22~25	第35回愛知心理療育キャンプ	後援	愛知心理療育親の会	愛知県老人保養ホー ム永和荘（安西市）
9/1~10/31	第59回赤い羽根協賛児童生徒作品コン クール	後援	愛知県共同募金会ほか	愛知県社会福祉会館
9/10~ 12/10	第55回手足の不自由な子どもを育てる 運動	後援	愛知県肢体不自由児協会	愛知県青い鳥医療福 祉センター（名古屋 市）
10/6	生き生き長寿フェア2007「はつらつ健 康プラザ」	後援	愛知県、愛知県社会福祉協議会	あいち健康の森公園 （大府市）
10/7	第31回愛のフェスティバル	後援	名古屋手をつなぐ育成会	名古屋手をつなぐ育 成会福祉会館
10/23	第55回愛知県社会福祉大会	協賛	愛知県社会福祉協議会	愛知県体育館
10/24	記念チャリティー晩餐舞踏会・ダンスの会	後援	名古屋ABC	朝日ホール
10/28	第35回医療講演会	共催	三重県重症心身障害児・者を守る 会	津市センターパレス ホール
11/3	第13回地域療育講演会	後援	社会福祉法人美谷会	羽島市文化センター （岐阜県）
11/11	第52回名古屋市身体障害者福祉大会	後援	名古屋市身体障害者福祉連合会	名古屋市公会堂
11/22~ 12/1	第4回タイスタディツアーに於ける車い す贈呈式	共催	アジア障害者支援プロジェクト	タイ（バンコック周 辺）
12/2	第47回愛知県身体障害者福祉大会	後援	愛知県身体障害者福祉団体連合	安城市民会館
12/4	第42回名古屋市障害者作品展示会	後援	名古屋市身体傷害者福祉連合会	名古屋市博物館
2/17・23	19年度知的障害者支援者養成講座	後援	名古屋手をつなぐ育成会	名古屋手をつなぐ育 成会福祉会館
2/17	第30回名古屋市手話祭及び第6回聴覚 障害者の集い	後援	名古屋市聴覚障害者協議会	ウィル愛知・女性総 合センター（名古屋 市）
2/24	アスペ・エルデの会設立15周年記念セミ ナーズ	後援	おりーぶの会（アスペの会）	名古屋市総合福祉会 館
3/2	第26回「耳の日記念 聴覚障害者と県民 の集い」	後援	愛知県聴覚障害者協会	田原市文化会館（愛 知県）
3/15他	名古屋いのち電話第18期電話ボランテ ィア養成講座	後援	愛知いのちの電話 名古屋いの ちの電話	名古屋栄ビルデング ホール
3/28~30	つくばアジアの障害者・こども写真展	後援	アジア障害者支援プロジェクト	茨城県つくば市民ギ ャラリー
西部事務所				
5/26~	07年度生活習慣病市民公開講座	共催	平成紫川会	ムーブホールほか
5/20	第45回北九州市障害者スポーツ大会	後援	北九州市、北九州市障害者スポー ツ協会ほか	本城陸上競技場ほか 計3会場
5/26	第25回北九州精神障害者家族会連合会 総会	後援	北九州精神障害者家族会連合会	ウェルとばた
7/1~	エコ チャリティーキャンペーン	後援	小倉カンツリー倶楽部	小倉カンツリー倶楽 部

日程	催事名		主催者名	会場
7/14~17	第28回脳性マヒ児のための母親研修キャンプ	後援	福岡あゆみの会	やすらぎ荘
8/8~11	第52回在宅肢体不自由児海の療育キャンプ	共催	福岡県、福岡県肢体不自由児協会	福岡県立少年自然の家「玄海の家」
9/1・2	第45回チャリティー大茶会	後援	茶道裏千家淡交会北九州支部	小倉井筒屋パステルホール
9/7	第2回北九州市精神障害者バレーボール大会	後援	北九州市精神障害者スポーツ協会	北九州市障害者スポーツセンター
8/18・19	第7回交流キャンプ	協力	ごろりんハウスキャンプ実行委員会	つづみの里公園ポーン太の森
10/19・20	第31回九州ブロック会議福岡県大会	後援	全国脊髄損傷者連合会	ホテルニュープラザ久留米
11/4	第18回全国ふうせんバレーボール大会	後援	北九州市、日本ふうせんバレーボール協会ほか	北九州市立総合体育館
11/10	平成19年度 母子・父子家庭、寡婦ふれあい体育祭	協力	北九州市、北九州市母子寡婦福祉会	北九州市立総合体育館
11/10~12/10	第55回手足の不自由な子どもを育てる運動	後援	福岡県肢体不自由児協会ほか	福岡市など福岡県内主要都市にて
11/17・18	第19回九州車いすツインバスケットボール選手権大会	共催	九州車椅子バスケットボール連盟、九州車いすツインバスケットボール委員会	アクション福岡
12/2	第10回北九州市手話フェスティバル	後援	北九州市聴覚障害者協会ほか	北九州市立八幡市民会館
1/13・14	第20回BOSSチャリティーテニストーナメント	後援	国際スポーツ振興	九州国際テニスクラブ
1/31・2/1	平成19年度九州ブロック家族会精神保健福祉推進活動研修会・福岡大会	後援	福岡県精神障害者福祉会連合会	北九州八幡ロイヤルホテル
2/16~19	第26回肢体不自由児・者の美術展	後援	福岡県肢体不自由児協会ほか	小倉井筒屋本館8階
3/2	第37回福岡県ろうあ者耳の記念日記念集会	後援	福岡県聴覚障害者協会	ウェルとばた

チャリティー美術展に出展いただいた皆様

(敬称略、順不同)

【日本画】

(あ行)

相嶋崇人	相羽ユキ	青田賢蔵	青野健	赤井春水	赤沢嘉則	赤羽根一司	秋本幸一
浅野忠	浅野ヒデ	足利満雄	小豆澤禮	小豆島良耳	安達英志郎	阿部一雅	荒井孝
荒井美智	荒木孤人	有賀明文	有馬柏鳳	安斎義郎	安藤心象	安藤徹	安藤康行
飯尾剛史	飯田小夜子	飯沼英忠	池田薙仔	池田夏乎	池田正明	石踊紘一	石川節人
石崎昭三	石田幸誠	石田武	石塚青篁	石永皓一郎	伊勢巧	板垣青仁	板谷澄子
市川保道	市野鷹生	市野晴美	市橋豊美	伊藤真春	伊藤香城	伊藤紫虹	伊藤保
伊藤獨	伊藤はるみ	伊藤正男	伊藤三春	伊東美巳	伊藤由純	稲熊万栄	犬飼恵美子
井上明敏	INOUE青煌	井上耐子	猪熊佳子	今井武久	磐城佳子	岩崎巴人	岩崎美代子
岩田三枝	岩波昭彦	岩本富雄	岩本峯斉	植田清子	上原桂子	上村淳之	上村典子
鵜飼千佐子	臼井治	薄波靖子	内田広己	内田政美	内山尚己	烏頭尾精	梅岡徳子
梅津道雄	浦上義昭	江川敦志	江川照美	江口佳寿子	江尻治泰	蝦名芳枝	遠藤隆稔
王荻地	大河内久男	大嶋英子	太田圭	大竹紫水	太田小晴	大塚和	大塚千聰
大野廣子	大野幹彦	大橋治郎	大森運夫	大矢時保	大矢十四彦	大矢紀	大山鎮
大山忠作	岡田郁子	岡田有功	岡信孝	岡本彩湖	岡本巴	小川国丞起	小川瞳
奥村千鶴	小栗藻々代	小山硬	折式田生子				

(か行)

春日あけみ	片柳勁	片山宏	加知満	加藤哲男	加藤不讓	加藤眞恵	加藤美恵子
加藤美代三	加藤佳子	角田梅光	兼島聖司	神内生光	嘉門町子	川合和子	河合重政
川北一雄	川越篁治	川崎マリ子	川島睦郎	川嶋渉	河津胖子	河部樹誠	川辺隆啓
河村沙希	河本正	神林采希	神林久子	菊池治子	岸野圭作	北原雅眉瑠	北原龍太郎
北山義浩	木村友彦	木村光宏	金泰伸	金原保則	楠暁子	工藤甲人	久芳道信
久保吉郎	久保朱美子	久保見幸夫	久保嶺爾	倉田立美	倉田富美	倉地千枝子	黒沢吉蔵
黒澤正治	小泉淳作	郷倉和子	香西坦子	香野ルミ子	國分敬子	小島光径	児玉邦子
後藤順一	後藤紳也	後藤純男	後藤葦	後藤芳世	粉川洛木	小林嶽雄	小林済
小林六博	小林裕子	小谷津雅美	近藤弘明	近藤ミヤ			

(さ行)

齋藤陽	斎藤和	斎藤宗	西藤哲夫	榊原尚子	坂倉由一	坂本綾子	坂元洋介
佐久間頭一	櫻井拙朋	櫻井基晴	佐々木経二	佐々木裕而	笹本正明	佐治満澄	佐田実
佐藤勝彦	佐藤晨	佐藤直子	佐藤啓美	佐藤叔	里見穎伸	猿橋幸治	澤田季未子
沢戸和子	澤山輝彦	潮見冲天	品川成明	篠崎美保子	澁澤卿	島田隆司	清水史郎
下川辰彦	下川立夏	下田義寛	霜鳥忍	白井久義	杉谷彩光	杉山華仙	杉山博子
杉山律夫	鈴木彰	鈴木竹柏	鈴木夏江	鈴木至夫	鈴木喜家	須田絢子	関根将雄
千住博	染谷聡之	楚里清					

(た行)

田井久江	高木白雲	高木元子	高越甚	高頭信子	高橋新三郎	高畑郁子	瀧沢巨森
田口愛子	田口専山人	武田州左	竹田隆	武田三義	田島奈須美	田島初男	多治見早苗
田代邦子	辰巳寛	立野保之介	田中重造	田中竣	田中瑞芳	田中照子	田中基美
田辺ノブ子	谷口蕙香	谷口なほみ	田宮栄子	田村仁美	多和田清美	千村俊二	月村恵紅
津田勉	土屋雅裕	筒井耀也美	角田範子	露木恵子	出口美恵子	樋田洋子	道家珍彦

東条光顯 堂野夢酔 堂本元次 徳川和美 戸田英二 戸田みどり 殿南直也 富田国峰
 富永一昌 友松昭子 鳥山武弘

(な行)

永井繁男 永井正御 中岡友子 中川脩 長崎莫人 中澤静 中島潔 中島千波
 永田耕治 永田実子 中谷温男 中庭隆晴 中野貴雄 中野嘉之 仲林敏次 中村豪志
 中村壽 中村宗弘 永森一郎 永森信一郎 那波多目功一 成田環 新美葉子
 仁木寿美子 西澤知江子 西野陽一 西前佑一 西村勝廣 西村光人 西山英子 西脇繁華
 沼本三郎 野原真澄

(は行)

長谷川郁子 服部光香 服部倫子 服部誠子 浜上俊和 濱田昇児 濱田松陽 浜田泰介
 早川裕子 林孝彦 林田啓江 林千代子 林芳辰 林正明 林美枝子 原武子
 原田巧 日置宏輔 日景博 樋口鎮吉 日比野光雄 平岩洋彦 平尾秀明 平田桜堂
 平田春潮 平松礼二 平山郁夫 福井時子 藤井康夫 藤沢古葉 藤谷和春 伏見実郎
 藤本久美 藤原重夫 藤原志保 藤原早子 二川和之 太尾芳生 堀川えい子 堀越保二
 本間正英

(ま行)

前田暉 前本利彦 牧野良美 馬驍 馬瀬里子 町田泰宣 松生歩 松岡政信
 松尾敏男 松尾浩子 松木秋佳 松崎良太 松下和代 松下勝正 松下宜廉 松下園江
 松永明雄 松原秀伸 松室加世子 松本啓 松本進 松本実 的場弘司 真野尚文
 丸尾玉琳 丸尾久子 三浦絵衣子 三上俊樹 三沢英伍 水江東穹 水谷勝子 水野收
 水野一昭 水野本光 三谷青子 三井桜秀 満田竹水 皆川千恵子 南義信 三村伸絵
 三宅美代子 三宅和光 宮崎観峰 宮本脩子 宮本和胡 三輪晃久 三輪昭 村井玉峰
 村井葉子 村田晴彦 村田林藏 村中秀男 本橋富夫 森島扶美子 森英明

(や行)

矢澤貞子 安川綾 安川眞慈 安田育代 安田外喜子 谷中武彦 柳績 山木戸采香
 山口溪華 山口豊泉 山口義明 山崎弘芳 山下まゆみ 山本恭子 山本静香 山本真一
 山本真也 山本兆揚 油野由美子 横山萬里 吉岡三樹子 吉田悦朗 吉田祥子 吉田多最
 吉永さと子 吉村年代 依田有立、 四田淳三

(わ行)

若林碩南 和田洸珀 渡辺章雄 渡邊英子 渡邊幸子 渡辺富栄 渡邊美喜

【洋画】

(あ行)

相笠昌義 相川昭二 饗庭昌貞 相原吉夫 青江健二 青木三郎 青沼茜雲 赤井良子
 秋田谷愛子 秋富浩蔵 阿久津正志 明吉美智子 浅井欣哉 浅井光男 浅井義弘 浅野昇三
 浅野由紀子 安食慎太郎 芦田喜代恵 芦田芳生 遊馬賢一 東直樹 東弘孝 足立一夫
 安達茂人 安達康夫 足立亮一 渥美静子 阿部直昭 阿部信行 阿部晴美 安部英夫
 天津恵 天野吉則 雨森陽子 綾部好男 新井苑子 新井康須雄 有田守成 有村隆雄
 安藤公一 家田聖子 家田非左子 五百住乙人 猪飼淳 池田くみ子 池田洋子 池本長蔵
 恵俊彦 井阪仁 井澤幸三 石井敏之 石川幸子 石川すみ 石川世始子 石倉豊
 石黒秀治 石阪春生 石澤久夫 石田聖子 石根三千代 石野紀美子 石野容三 石橋武夫
 石原章吾 石原ミチオ 泉地靖雄 泉富美 居関光雄 伊勢谷圭 磯部徹男 板垣千鶴子
 伊丹重男 市尾哲 市古肅亮 市村一 井手典子 井出博也 出村幸代 伊藤郁
 伊藤岳 伊藤和義 伊藤修一 伊藤純子 伊藤順子 伊藤昭蔵 伊藤隆 伊藤高義
 伊藤秀男 伊東博子 伊藤宏 伊藤弘之 伊藤文男 伊藤万几子 井藤雅博 伊藤康夫

稲垣考二	稲垣龍雄	稲垣敏彦	稲葉桂	井上圭史	井上憲一	井上慎介	井上利哉
猪口公子	井口由多可	伊庭新太郎	今村市久	今村昭寛	入江一子	入江観	岩池和代
岩井康頼	岩切岑泰	岩崎雄造	岩島周一	岩瀬郁夫	岩田明生	岩田茂	岩田司
岩田哲夫	岩田知幸	岩谷康世	岩野正隆	故・岩原須佐子		岩渕晃三	岩本かずえ
岩本忠利	イ・ワヤン・シーラ		鵜居町子	上木伸之	植木美代子	上嶋スミコ	上島秀明
上尚司	植田彰子	上田彩加	上田毅八郎	上田敏和	上田肇	上田春雄	上田ますみ
植月正紀	上野憲一	上野千代子	上野理男	上橋薫	臼井恵之輔	碓井たか子	薄久保友司
宇高龍	宇田川宣人	宇田喜久子	内田如風	内田浩子	打田幸男	宇野亜喜良	宇野義行
生方純一	梅村徹	浦川彰子	浦野和穂	栄永大治良	江上寿夫	江口孝	江添栄一郎
榎本多恵子	江本繪門	江本佳寿子	遠藤晴夫	王前一馬	大石つね子	大江孝	大岡立
大柿了一	大川浩市	大口邦子	大久保正	大熊峻	大隈武夫	大澤一佐志	大島辰子
大島幸夫	太田久	太田邦男	大谷哲生	大津英敏	大塚敏雄	大附晋	大歳克衛
大西生余子	大西弘之	大野孝泰	大野昌之	大場再生	大橋光夫	大淵繁樹	大森重夫
大森良三	大山富夫	大矢良治	岡貞徳	岡田俊一	岡田徹	岡田久春	岡田全良
岡千秋	岡村敦子	岡本正尹	岡本尚子	岡本竜之	小川清子	小川幸紅	小川周二
雄川ちづ子	小川博史	沖田幸和	沖田廉平	奥田喜一	奥谷博	小口滋郎	奥村聰臣
奥山普	尾崎功	尾崎ゆき子	尾崎良二	納健	小澤一正	尾澤達也	小沢眞弓
尾島守	小田島えい子		織田廣喜	織田義郎	越智節昇	越智雄二	乙丸哲延
尾中真理	小野仁良	小野知久	小原キク	小原稔	尾松直	面矢元子	折橋杉郎
折本美祢子							

(か行)

景山憲	加古千恵子	笠井誠一	梶浦寿布	柏岡恵理	梶田達二	梶原章	春日井正
糟谷清子	粕谷良雄	片岡真太郎	片山昭弘	片山治之	片山弘明	加藤勲	加藤聡
加藤助八	加藤精子	加藤千太郎	加藤大博	加藤たか子	加藤トオル	加藤信子	加藤日出男
加藤ヒロ子	加藤正明	加藤茂外次	加藤吉春	加藤美彦	金子貞子	金子玲子	壁下孝
神内五十鈴	上所幹彦	上田保隆	嘉見敏明	辛島一誓	加覧裕子	河井一郎	川井一義
故・河井達海		川口輝夫	川島かつ子	川澄正一	河西昭治	河野宗之蒸	川原比瑛子
川雅吉	河村村世子	川村浩章	河村雅文	神戸文子	木浦寛治	菊地洋二	喜澤のり子
岸田淳平	岸田夏子	岸野昭	岸浩	岸宏士	貴嶋ユミ	木谷利江	北野隆祥
北原悌二郎	北村尚久	北山茂	北山達哉	橋田政明	木寺淳二	鬼頭恭子	鬼頭輝三
城戸義郎	木下實之	樹林雅生	木原寿夫	木原晴夫	木村信之	木村正	木村正志
木村優博	木本牧子	清永弥生	清原啓一	木脇康一	金月炤子	日下直樹	日下部寛
草壁隆	草野直己	楠崇子	久世紘	久世瑠璃	久保田政子	久保輝秋	倉田政子
蔵野美佐子	倉持正	倉本勝博	栗田政勝	栗原喜依子	栗牧慶次	栗山直子	栗山ナカノ
車戸美智子	黒川彰夫	黒木郁朝	黒木邦彦	黒木トシ子	黒木宏	黒沢信男	黒田秀方
黒田富紀子	黒田勝	黒田保臣	黒柳弘行	桑島春彦	小池かよ	小石豊蔵	小石ヤエ子
小泉正彦	小泉元生	小泉守邦	河野穰而	河野由起子	河本和子	郡桂子	古賀猛
小阪謙造	小阪弘子	五島まさを	小菅康愛	小杉小二郎	小瀬垣宏郎	五大宙	後藤昭夫
小浪春枝	小早川協右	小林昭子	小林千枝	小林政嗣	小林雅英	小林満夫	小林八重子
小林裕児	小林義司	小柳晟	小柳幸代	小柳吉次	小山成	古山保夫	近藤昭彦
近藤壽一郎	権藤信隆	近藤幸					

(さ行)

斎藤吾朗	斎藤孝弘	斎藤千川予	斎藤秀夫	斎藤光子	斎藤由比	佐伯喜三郎	佐伯浩
酒井章帆	酒井俊幸	酒井英利	坂口寛夫	坂口文夫	坂谷和夫	坂中功一郎	坂本直
坂本よしこ	佐久間捷人	佐久間努	桜井陽彦	桜川洋子	佐光亜紀子	佐々木馨	佐崎紘一

佐々木貞夫	佐々木澄江	佐々木友幸	佐々木麦	佐々謙二	佐竹稔	佐藤一成	佐藤勝信
佐藤カツヤ	佐藤潤	佐藤忠彦	佐藤富美子	佐藤良紀	佐藤義光	佐野千津子	佐野比呂志
佐野稔	猿渡士郎	澤辺茂男	三田耕之	塩川佑子	志賀源吾	四方道夫	鹿野富子
七里和子	篠崎和子	芝田キク	柴田賢治郎	芝田耕	柴田美智子	芝教純	柴原雪
柴山静穂	芝芳雄	嶋谷卓之	嶋谷美鈴	志摩じゅん	嶋田明子	島田鮎子	島田加寿子
島田安雄	嶋津俊則	嶋貫佑一	島橋宗文	清水敬由	清水亟愎	清水新也	清水鐵夫
清水鉄彌	清水正教	清水佳子	下井修二	下川とよ子	下園由莉	下田悌三郎	下谷二助
庄司栄吉	正田壤	城康夫	白井史朗	白川順子	白坂介明	白崎明	白鳥三郎
白山扶士子	新宅光男	水藤澄子	菅谷吉雄	菅沼鉄王	菅沼正則	菅原洸人	菅谷光洋
杉浦温子	杉浦鐸夫	杉浦晴美	杉浦ふみ	杉浦充	杉田明維子	杉村勇	杉村美文
杉本澄男	杉山重雄	杉山英子	鈴江章郎	鈴木貞子	鈴木隆俊	鈴木田俊二	鈴木奈緒
鈴木延雄	鈴木福男	鈴木政輝	鈴木睦美	鷺見康夫	角谷清和	瀬尾克己	瀬川昌宏
関口貴美	関口静子	関拓司	関戸伸	関本弘三郎	瀬古正勝	銭谷誠	妹尾一朗
芹生芳郎	世利徹郎	左右木商博	添田定夫	園山幹生	祖父江弘幸		

(た行)

太佐寿一郎	大門正忠	田浦信勝	高井道夫	高浦雅子	高木政彦	高沢正利	高田保雄
高田洋右	高梨潔	高橋一正	高橋一善	高橋重吉	高羽清司	高原智子	高松政子
高森明	多賀谷無人	高山晃	高山みどり	高谷洋一	田川知子	滝沢直次	滝滋
瀧田依子	宅田忠正	田口貴久	田口正子	竹内重行	竹内靖夫	竹内雍子	竹生節男
竹下功	竹中稔量	竹原邦樹	竹村和夫	竹村忠一郎	田坂ゆたか	田澤茂	多田晴義
立木昭男	たちようこ	辰将成	辰巳文一	館内美智子	楯岡和子	田中眞固	田中敏夫
田中ひとえ	田中仁士	田中宗雄	田中良	田辺新吾	谷川泰宏	谷口和正	谷健太郎
谷田穎郎	谷本暁雄	谷本ためひろ		田伏勉	玉井久美子	タマカワ千恵	
玉木英治	玉谷明美	玉谷優	田村富美子	田村正幸	田屋幸男	知念正文	
通天・櫻井洋美		塚田清	塚原ヨリ子	塚本英一	塚本吉廣	津川純子	築地進
辻司	津田勝利	都築顕	堤慶	壺井進二	津留崎晴男	弦田英太郎	鶴田猛
鶴房健蔵	鶴見雅夫	鶴山好一	出口修	寺井徹	寺沢清司	寺沢順子	寺西進三郎
寺本勉	土井邦晃	東方達志	遠山源吾	戸狩公久	外川攻	徳永考衝	徳増学
戸高明義	外処旭	土味川楡奈	富澤尚美	富田利雄	友成晴雄		

(な行)

長井功	中井一男	中井一誠	永井忠雄	永井ひろし	長井宏之	長川清悦	長澤すみ江
長澤卓重	中嶋国博	中島大三	中島千恵	中島千香子	中島裕司	中嶋美瑛子	永澄幸子
中田順子	中谷健三	長富博子	中西文彦	中西良招	中根寛	長野伎見子	中野治朗
長濱伶子	永見明良	中村郁夫	中村英	中村一雄	中村一人	中村吉伽	中村啓子
中村剛	中村晃子	中村博	中村光幸	中村百合	仲安銀蔵	中山三郎	中山忠彦
那須野栄	那須日都夫	那須弥生	名取二郎	七原正勝	生井京子	榑崎重視	成田禎介
成瀬光男	難波忍	仁木雅子	西井義晃	西井宏	西尾成之	西嶋俊親	西田藤三郎
西塚芳子	西野一郎	西野嘉齋	西部弘子	西村純子	西村壽郎	西村美代子	西山徹
丹羽和子	貫名獅郎	抜井亀良	塗師祥一郎	沼尾雅代	野久保由美子		野田富三郎
野田好子	能仲ヤツヲ	野辺田紀子	野見山暁治	野村亜紀子	野村京子	乃村豊和	野村正美

(は行)

萩原和子	萩原栄文	橋本忠夫	長谷岩友	長谷川和子	長谷川正義	長谷川仵	長谷川平男
長谷川正子	長谷謙三	羽田裕	服部讓司	浜口大蔵	浜口美和	濱田進	濱田弘康
濱哲郎	早川栄子	早川義孝	早川勝	林健造	林孝三	林茂樹	林静一
林壽男	林寛志	原省象	原田彰夫	原田和泉	原田たかし	原田幸夫	原田嘉徳

半澤満	日賀野兼一	樋口貞男	久松誠一	日高昭二	兵藤寛司	平井誠一	平磯彰
平井智子	平岩郁郎	平尾倫子	平川富貴子	平沢文一	平野昭子	平野哲夫	平野洋吉
廣岡清武	廣川英夫	広瀬範	廣津龍伍	深川和久	深澤孝哉	深津静男	福岡幸子
福岡通男	福田兼松	福田陽子	福田好克	福永紀子	福原満江	福満よさ美	福本圭叡子
福本まさ子	藤井和亮	藤井多鶴子	藤井勉	藤井泰治	藤崎恒頼	藤崎恒頼	藤谷進
藤浪成喜	藤村サツ子	藤本正男	藤森悠二	藤原慶子	藤原護	武藤初雄	舟越利和
船本清司	ブライアン・ウィリアムズ			古川恂	古川タク	古野紀征	古家玲子
別府忠雄	帆足ゆり	星功	細川進	細谷久美子	堀田昭爾	堀井聰	堀江史郎
堀江優	堀尾一郎	堀太郎	堀千寿子	堀博喜	本多しず子		

(ま行)

前島隆宇	前田樹男	楨利光	牧野美代子	楨原慶喜	卷山昌宏	正木茂	楳木高
真砂貞二	マサル・W	松井茂樹	松井敏郎	松井三希央	松浦正博	松浦安弘	松尾隆司
松樹路人	松澤茂雄	松田貴美子	松田圭人	松田澄夫	松田高明	松田魏	松谷慶子
松永諄子	松永知久	松原政祐	松原美代子	松村和紀	松村光秀	松室重親	松本茂樹
松本次郎	松本年晃	松本遥江	マツモトヨーコ		間中敏子	真野岩夫	馬淵鈴美
間宮末子	丸畑豊	丸山勝三	丸山今朝三	三浦勝治	三浦敏和	三浦勉	三木義尚
三雲希志子	三塩清巳	ミズテツオ	水野伊津子	水野澄子	水野照子	水野尚	水野一
水野保雄	水村喜一郎	溝渕泰史	三谷祐幸	南幸男	源尊磨	三橋敦子	美原栞
三枅明子	宮木薫	三宅四郎	宮崎進	宮崎浩行	宮下直子	宮下実	宮下由夫
宮田翁輔	宮平勉	宮本裕之	宮山博司	三好準治	三輪吉三郎	向井梅逸	武藤正美
村井成好	村井洋子	村岡顕美	村上秀樹	村田伊佐夫	村山和子	村山容子	村山陽
元永定正	百瀬貞子	森勇	森一郎	森康次	森茂子	森下ヒロ子	森真吾
森田眞	森田康雄	森田幸宏	森長武雄	森文男	森本計一	森本有一	門前由弘

(や行)

八尾紀美子	八木時子	八島正明	安井啓二	安井正子	安居素子	保田治	安富信也
安福葉子	弥富節子	柳沢健	柳瀬俊泰	矢野喜久男	矢萩武三志	矢部聡	山内滋夫
山尾才	山形佳代子	山岸用之介	山口剛生	山口幸平	山口精之助	山口隆夫	山口孝雄
山口美佐子	山崎昭男	山崎清子	山下恒子	山下毅	山下弘喜	山下幸夫	山田嘉一郎
山田恭子	山田琴子	山田正二	山田精一	山田典男	山田享	山田博司	山田嘉彦
山寺重子	山根須磨子	山之内弘	山羽斌士	山本亞稀	やまもと悦子		山本悦子
山本恵美	山本虎雄	山本文彦	山本正英	横井三郎	横内襄	横尾茂	横地洋司
横山和男	横山申生	横山てるひ	横山敏明	横山良美	横山了平	吉井爽子	吉岡伎世子
吉岡一	吉川サキ子	吉城弘	吉田清光	吉田淳一	吉田敏男	吉田緑	好永良子
吉野清	吉松八重樹	吉村美令由	吉村安子	吉本満雄	四本祐司	米倉正弘	米澤俊
米田整弘	米満大九郎	米山秀雄					

(ら行)

了正聖宝

(わ行)

若尾真一郎	若杉不死身	脇田六瓶	脇幹夫	わたせせいぞう		渡辺明	渡辺一夫
渡辺卓美	渡邊てるお	渡辺とめ	渡辺豊重	渡邊弘	渡辺正夫	渡邊妙法	渡辺幸男
渡辺良一	和田行雄	渡紀美子					

【工芸】

(あ行)

相羽鴻一郎	青木九仁博	青木挙	青木龍山	青山鉄郎	青山禮三	赤沢露石	明石庄作
-------	-------	-----	------	------	------	------	------

赤毛敏男	秋山一夫	浅蔵五十吉	浅原千代治	東正之	東好昭	与勇輝	安達章
安達雅一	新歎嗣	新佳三	天野達夫	雨宮彌太郎	荒川達	荒木幹二郎	荒木秀樹
荒木広	嵐一夫	有田俊明	有松進	安藤和久	安藤光一	安藤敏彦	安藤則義
安藤日出武	安藤百利行	池上栄一	池島玲子	池田瑠子	石井視子	石川満	石崎光四郎
石田武至	石野泰造	石橋裕史	石山静男	伊豆蔵幸治	泉公士郎	井関和代	伊勢崎淳
伊勢崎創	伊勢崎満	磯部晃	市川想人	市川博一	市川正美	市川龍仙	市野悦夫
市野元祥	市野元和	市野茂良	市野省三	市野信水	市野哲次	市野年成	市野豊治
市野英一	市野弘之	市野正大	市野勝	一瓢斎	糸井康博	伊藤彰	伊藤敦子
伊東慶	伊藤憲一	伊藤美月	伊藤峯子	伊藤優	伊東祐一	伊藤良典	伊藤美秀
伊藤渡	井戸川豊	稲垣太津男	稲垣幹夫	稲嶺盛吉	稲荷作	井上浩一	井上萬二
井上康德	井上佳久	今井清秀	今泉今右衛門		今井紀昭	今井政之	今西方哉
今村博	伊村彰介	伊村徳子	井村まゆみ	岩井香楠子	岩瀬健一	岩田健	上島あい子
上田直方	上田菊明	上田寿方	上田哲也	鶴飼真知子	浮田武司	後田和孝	
故・宇田川玄翁		内堀敏房	内村幹雄	内村由紀	内山政義	浦上光弘	浦林章雄
漆畑登	永楽善五郎	江口勝美	江口康成	榎本香里	大泉讚	大井正則	大井美智子
大上巧	大河内泰弘	大川正洋	大国丈夫	大久保友博	大倉貞義	大倉真汝	大塩玉泉
大塩昭山	大塩正義	大嶋久興	大城一夫	大城哲	大須賀選	大角幸枝	太田和明
太田公典	大谷昌拡	太田貢	大槻昌子	大根草路	大野晃幹	大野耕太郎	大野誠二
大野秀起	大橋聡子	大橋裕	大場匠	大樋勘兵衛	大樋朔芳	大樋長左衛門	
大樋年雄	大平和正	大平孝昭	大村道山	大村禎一	岡澤伸之	岡田崇人	岡田謙三
緒方修一	岡田親彦	岡田春海	岡田裕	岡田龍吉	岡本篤	岡本研作	岡本作礼
岡本信也	岡本白水	故・岡本碧山		岡安宮山人	小川健次郎	小川興	小川武雄
小川長楽	小川二楽	小川文齋	荻内善晴	荻原守彦	奥田浩堂	奥村公規	奥村繁豊
奥山峰石	小倉健	小椋範彦	桶谷洋	落合正統	尾西楽斎	小野隆治	小野次雄
小野寺玄	小畑裕司	帯谷宗英	尾前喜八郎	尾張裕峯			

(か行)

加賀瑞山	角谷英明	各見政峯	各見飛出記	鹿兒島成恵	鹿島和生	梶原茂正	片岡宏幹
片山政一	片山雅博	勝尾青龍洞	勝田友康	勝田保子	桂寛	加藤永司	加藤益男
加藤錦雄	加藤清之	加藤錦三	加藤溪山	加藤敬也	加藤孝造	加藤幸兵衛	加藤晃楽
加藤五山	加藤作助	加藤惇	加藤春鼎	加藤宣	加藤嵩	加藤尊也	加藤忠雄
加藤天平	加藤唐三郎	加藤土史路	加藤土代久	加藤仁香	加藤博一	加藤允	加藤正也
加藤益浩	加藤美土里	加藤康景	加藤陽児	加藤嘉明	加藤令吉	加藤廉平	金森伸郎
可児一広	金子信彦	金子認	金重晃介	金重利右衛門		兼田昌尚	加納義光
樺澤健治	可部美智子	鎌田幸二	神谷英介	亀井幸一	亀井勝	加守田太郎	川井明子
川井明美	河井喜代子	河合誓徳	河井透	河井敏孝	川合正樹	河上恭一郎	川上清美
川上力三	川喜田敦	川北浩彦	川北良造	河口純一	川口保規	川崎鳳嶽	川崎靖英
河島伝十郎	川尻浩史	川尻一寛	河内國平	川手敏雄	河野榮一	川野恭和	河端一海
川端近左	川端文男	川原和夫	川淵直樹	神崎継春	神崎正英	神戸保明	神戸義憲
菊池昭	菊地弘	岸園山	岸本久泉	北大路泰嗣	北岡秀雄	北口夢石	北出不二雄
北野勝彦	北村堅治	北村英昭	吉向孝造 (九世松月)		吉向孫斎 (八世松月)		
吉向蕃斎 (七世松月)		衣川俊仁	木村芳之助	木村玉舟	木村素静	木村徳人	木村展之
木村宜正	木村雅子	木村将人	木村充良	木村萌子	木村盛和	木村盛伸	木村盛康
木村好博	喜代志松治	清水六兵衛	吉良博	金憲鎬	草場勇次	工藤茂道	久野勝生
久野半右衛門		久保修	熊谷保興	熊本喜一	栗林一夫	黒井慶雲	黒井千左
黒木国昭	黒田正玄	黒田暢	黒田儀男	黒野丈治	桑原みさ雄	桑山圭洋	

ゲルト・クナッパー	元田五山	鯉江敏弘	鯉江廣	小出甚吉	幸崎達彦	厚東孝明
河野玄容	神山清子	神山直彦	國領東齋	小嶋克山	小島憲二	小島茂夫
小嶋太郎	小島弘	小谷多美子	後藤順	小西陶藏	小西朋子	小西博雄
小橋川清次	小林一雄	小林一富美	小林潤呼	小林浩	小林弘幸	小林文一
小林貢	小林理恵	小松克丸	小松幸代	小南吉彦	小谷内和央	小山喜平
小山耕一	小山貴由	近藤しゅうじ	近藤精宏	近藤知子	近藤潤	今野春雄

(さ行)

斎木勲	齋藤修	齋藤鷹郎	斉藤則行	斉藤裕子	西念秋夫	坂井修	酒井甲夫
阪井舜	酒井田柿右衛門		坂井貂聖	坂井教人	酒井芳樹	酒井芳人	榊原啓司
坂倉新兵衛	坂本俊人	笹岡基三	佐々木厚	佐々木嘉一	佐々木省庵	佐々木二郎	佐々木強
佐々木雅浩	佐々木悠紀子		笹山芳人	佐藤和彦	佐藤走波	佐藤苔助	佐藤喬
佐藤巧	佐藤二三子	佐藤泰子	佐藤亮	佐土浩一	佐野寛	寒川栖豊	鮫島豊
皿谷緋佐子	皿谷実	澤清嗣	沢田嘉予子	沢田重雄	沢田豊山	沢畠州	篠田義一
篠田武雄	柴岡紘一	柴岡信義	柴垣六蔵	柴田厚志	柴田育彦	柴田増三	柴田好明
芝山吉邦	故・島岡達三		島田敏男	島田緋陶志	島田文雄	島本悠次	清水久嗣
清水一二	清水潮	清水潤	清水酔月	清水千代市	清水黎子	志村ふくみ	庄村健
白幡明	城間栄順	城間光雄	新庄貞嗣	神農巖	杉浦文泰	杉江明美	杉江善次
杉本貞光	鈴木藏	鈴木勝詞	鈴木環	鈴木健司	鈴木五郎	鈴木三成	鈴木茂至
鈴木爽司	鈴木貴詞	薄田浩司	鈴木量	鈴木富雄	鈴木美貴子	砂田正博	角田新蔵
諏訪蘇山	瀬津義雄	曾我阿嬉子	十河慶子				

(た行)

平良敏子	高明	高井進	高岡久美子	高権成	高取八山	高取八仙	高橋彰
高橋佐門	高橋春斎	高橋新六	高橋政男	高橋光三	高橋楽斎	高橋和三郎	高原邦彦
高原卓史	高見勝代	滝川幸志	滝口和男	瀧口喜兵衛	瀧下幸悦	瀧田項一	武石和春
竹内眞三郎	武腰潤	武田高明	竹田忠生	武田敏男	竹之内彬裕	炬口佳枝	武村豊徳
竹村繁男	田島明	多田光宏	伊達陽一	田中員之	田中忍	田中紀子	田中美奈子
田中悠子	田中良昭	田邊竹雲齋	谷川省三	谷川菁山	谷川仁	谷川峰雄	谷口玄
谷口幸二	谷口祥八	谷口正典	谷清右エ門	谷野明夫	谷本あけみ	谷本洋	田沼春二
田上恵美子	田畑陽右	田畑博民	田原陶兵衛	玉置保夫	玉那覇有公	玉村登陽	田村幸夫
田山精一	力石俊二	中条照子	沈壽官	塚原三千勝	塚村剛	塚本司郎	塚本治彦
塚本満	辻英芳	辻勘之	辻常陸	土谷道仙	土田友湖	土屋典康	筒井修
筒井辰也	都築青峰	堤圭一	恒岡光興	坪島土平	鶴田善紀	故・出口榮二	
出口清廣	出口直美	手塚隆	手塚央	寺井恭	寺池静人	寺田みのる	照井一玄
十多茶留俣	徳澤守俊	徳田明美	徳田八十吉	戸田守宣	戸津圭之介	豊住和廣	豊田一景
豊場惺也							

(な行)

永井恒夫	長江哲男	中尾彰秀	中尾英純	中尾恭純	中川進	中川つや子	中里重利
中里太郎右衛門		中里壽	中島翁助	中嶋喬	中島卓	中島宏	中島保美
中島悠紀夫	中田一於	永田穂波	中田呂尚	中塚佐一	中根秀介	中野一政	長野恵之輔
中野陶痴	中野聖希	中野亘	中村眞一	中村信喬	中村清六	中村東洗	中村雅明
中村實	中村豊	中本輝朋	中山亮	並木恒延	名和章	難波好陽	難波誠治
新野素子	新美吉昭	二貝清一	西浦武	西悦子	西岡良弘	西尾茂	西尾瑞舟
西川勝	西川實	西田真也	西村源治	四代・西村徳泉		西村直城	西村優
西山宗元	西山正	二十歩文雄	根崎隆博	納富晋	野坂和左	野坂康起	野崎賀代子
野崎恒伸	野嶋峰男	野田東山	野中さだ子	延原勝志	乗松建行		

(は行)

萩井一丘	萩井一司	迫二郎	橋爪靖雄	羽柴良一	橋本昇三	蓮田修吾郎	蓮善隆
長谷川勇	長谷川文陽	長谷川豊	秦蔵六	故・羽田登喜男		波多野善蔵	波多野英生
羽田登	波多野正典	麦畑耕生	服部倭文子	服部峻昇	花田和彦	花輪滋實	羽石修二
馬場弘吉	馬場九洲夫	羽原一陽	羽原一晃	濱中月村	早川収	林恭助	林慶六
林寧彦	林亮次	速水史朗	原清	原田一步	原田拾六	原田隆峰	
ピーター・ハーモン		稗田寿炎	東田茂正	東直人	樋口大桂	樋口雅之	久岡冬彦
久田邦男	樋上千哲	日野田崇	平沢登	平野豊成	平野祐一	平山清隆	廣澤益次郎
広沢葉子	広瀬さちよ	広田優美子	深石美穂	深川巖	福井由美	福岡琢也	福郷徹
福島清文	福島善三	福島寛子	福田喜重	福田参平	藤井敬之	藤岡周平	藤田潤
藤塚松星	藤村州二	藤原和	藤原敬介	藤原謹	藤原均	藤原史暁	藤原楽山
船生宗暘	冬柴文廣	古居美智子	古堅幸雄	古瀬堯三	古田好孝	古谷徹	古家喜義
紅里桃江	帆足まおり	星野亨斉	細見華岳	堀江祥山	堀俊郎	堀野証嗣	堀菱子
本郷大田子	本江敏彦						

(ま行)

前川電光	前嶋五一郎	前田篤志	前田泰昭	前端雅峯	前端春斉	正宗千春	味舌隆司
眞清水蔵六	増田昌弘	松井康陽	松尾重利	松尾潤	松崎健	松下昌司	松嶋弘
松平順彦	松野汀留子	松林正人	松村拓夫	松村徳四郎	松本為佐視	松本学	松本勝哉
松本幹治郎	松本佐一	マツモトタカシ		松本達弥	松本政昭	松本正雄	松本良夫
丸田隆彰	丸田延親	丸田宣政	三浦殊鈴	三木表悦	水野敬子	水野健二	水野古麦
水野静仙	水野銆一	水野澤三	水野教雄	水野真澄	三田村有純	美藤康夫	峯岸勢晃
宮川香雲	宮川香齋	宮川弘尚	宮崎芳郎	宮澤正弘	宮田豊	宮田亮平	宮地生成
宮地陶博	宮部友宏	宮本直樹	三輪雅章	美和隆治	椋原佳俊	武藤信吾	夢童由里子
村井一郎	村上東市	村瀬寛	村田肇一	村山明	室瀬和美	室町勝廣	室山治郎
毛利百合子	モーガン・ルイス		本木眞悟	百田暁生	森一蔵	森一洋	森勝資
森克徳	森川賢道	森里秀夫	守繁徹	森下育郎	森下要三	森準一	森大雅
森田文雄	森田芳伯	森陶岳	森陶山	森村竹芳	森本英助	森泰司	森脇文直

(や行)

屋我平尋	安田佳代	安田龍彦	安田如雲	柳澤保範	矢部篤郎	山内厚可	山内一生
山口堅造	山口重信	山口秀太郎	山口宏夢	山口正文	山崎昭	山崎崑	山崎豊
山路和夫	山下公敏	山品一義	山城建司	山田和	山田和俊	山田耕作	山田孝蔵
山田進二	山田勢児	山田正博	山田みどり	山田義明	山近剛	山出勝治	山出守二
大和潔	大和努	大和敏男	大和保男	大和祐二	大和吉孝	大和義昌	山中辰次
山本出	山本象成	山本眞輔	山本潯陽	山本唯与志	山本秀吉	山本雄一	山本竜一
湯村京子	横石臥牛	横山登士子	横山直樹	横山尚人	吉賀將夫	吉川修身	吉川千香子
吉川則行	吉川博治	吉川正道	吉川水城	吉川幸寿	吉末都子	吉田きみ子	吉竹広子
吉田純子	吉田隆	吉田美統	吉田喜彦	吉富文代	好本宗峯	吉本正	米沢久
米田万太郎							

(ら行)

樂吉左衛門

(わ行)

若尾経	若尾利貞	若尾誠	若子千年	脇田宗孝	脇本定三	和田桐山	渡辺朝子
渡辺勝竹斎	渡辺聡	渡辺琢哉	渡辺松華	和田一人	渡久兵衛		

【版画】

(あ行)

齋嘸	相田一夫	秋元幸茂	天野和夫	あまのしげ	有田暁子	安東菜々	池上壮豊
池間英治	井堂雅夫	井上勝江	うえだひろし		梅木英治	浦田周社	大槻玲子
岡崎紀子	岡田光子	尾崎淳子	尾崎斎晃	尾山章	園城寺建治		

(か行)

加藤武夫	兼俵信弘	河内成幸	川西祐三郎	神野立生	木嶋ちさ加	木田安彦	城所祥
木村茂	木村秀樹	清田雄司	日下賢二	日下里美	國安珣子	熊谷吾良	倉田武
黒木良典	黒崎彰	古賀章	小暮真望	小崎侃	米今菊子		

(さ行)

サイトウ良	酒井祥司	佐久間嘉明	桜井貞夫	塩田みはる	史煌	下森祺允	品川工
志野和男	島州一	白木俊之	杉野立一	杉山元次	鈴木廣	須田敏夫	関野洋作
世古剛							

(た行)

高橋脩	高部多恵子	高柳裕	瀧秀水	田口雅巳	竹山敏子	田澤穰	田島征彦
田中喜一	田中良平	田中令子	丹阿弥丹波子		地井紅雲	茶畑和也	辻憲
角田元美	坪井孟幸	坪田政彦	出倉裕之	寺司勝次郎	富田文雄	富張広司	

(な行)

中島浩	なかのよういち		中林忠良	中山正	西貝和子	二村裕子	野田哲也
乗兼広人							

(は行)

長谷川忠廣	長谷川安信	馬場重臣	浜本幸男	原三佳恵	平井弘之	広田雅久	福田繁雄
藤田慶次	二見彰一	船坂芳助	星野美智子	堀内幸豊	堀江良一		

(ま行)

増田陽一	松島順子	松田昭八	松本旻	宮田三郎	宮田昌則	森岡完介	森島勇
------	------	------	-----	------	------	------	-----

(や行)

安井寿磨子	山本桂右	山本光生	矢柳剛	横山皓一	吉池弘安	吉木進	吉田正樹
代情房子	米倉泰民						

(わ行)

渡辺達正	渡会純价						
------	------	--	--	--	--	--	--

【書】

(あ行)

赤江華城	綾村捷子	新井光風	新屋敷春雷	飯高和子	飯沼天光	石本法子	稲垣菘圃
内山玉延	梅原清山	宇山栖霞	江口大象	榎倉香邨	大石三世子	大河内暁水	大河内仙嶽
太田義久	岡美知子	小川東洲	尾崎邑鵬	恩地春洋			

(か行)

榎本桑牛	加藤泰子	加藤裕	北大象	栗原蘆水	黒田賢一	黒野清宇	小島寿
小島碧雲	五代梨舟	後藤秀園	後藤汀鶯	小伏竹村	小山素洞		

(さ行)

坂本柳波	佐々木可翠	座馬井邨	島田雨城	清水葵香	清水研石	師村妙石	杉江芳子
杉岡華邨	鈴木春朝	関根薫園					

(た行)

高木聖鶴	田口尹基子	竹中青琥	田中光穂	田中蘆雪	種村山童	樽本樹邨	土屋陽山
鼓芳石							

(な行)

中川裕皓 中島宗皓 中野南風 中野北溟 中林露風 中村秀峰 西迫翠峰

(は行)

半田一真 秀島踏波 廣田百合子 福田芳園 福羽節子 藤岡都逕 法元康州 星弘道
 甫田鴉川 堀場凶南 本間正雲

(ま行)

牧野鳳仙 増永広春 水嶋山耀 宮崎葵光

(や行)

山中秋邦

(わ行)

渡邊笙鶴

【宗教家・著名人】

(あ行)

藍弥生 赤江瀑 赤川次郎 浅井與志雄 網代智等 足立大進 新井満 有馬頼底
 石田隆 市田ひろみ 稲畑廣太郎 稲畑汀子 植田豊一 上野道善 上村貞郎 江上泰山
 榎木孝明 遠藤実 大岡信 大野玄妙 奥田みえこ 小澤一雄 小沢昭一

(か行)

片岡省念 片岡仁左衛門 桂春団治 加藤一二三 金子兜太 川津祐介 河村立司
 岸徹心 喜田川昌之 河野太通 児玉清 小林隆彰 小堀光詮 小堀卓巖

(さ行)

さいとう・たかを 斎藤始子 早乙女貢 酒井雄哉 坂田藤十郎 狭川宗玄 澤大道
 三遊亭金馬 三遊亭楽太郎 ジェームス三木 清水谷孝尚 下村瑞晃 笑福亭仁鶴
 新川和江 杉良太郎 千玄室 千宗左 千宗室 千宗守

(た行)

高田明浦 高田良信 多川俊映 瀧藤尊教 田中恭一 谷川浩司 ちばてつや 趙治勲
 陳舜臣 辻和雲 筒井寛秀 寺沢拓也 東海大光 東條仁哲 戸部けいこ

(な行)

中原誠 中村梅之助 中村富十郎 野々村玄龍

(は行)

萩尾望都 長谷川大眞 蜂谷宗玄 羽生善治 原田泰治 ヒサクニヒコ 久田宗也
 日野西光尊 藤子不二雄[Ⓐ] 伏見誓寛 藤本義一 古川薫 堀江湊子 堀内宗心

(ま行)

前田孝道 まきのやよい 松岡悠風 松久保秀胤 松長剛山 松本壽郎 丸山寿美
 水谷八重子 光本幸子 嶺興嶽 森清範 森光子 森村誠一 守屋弘斎

(や行)

やくみつる 八代亜紀 やなせたかし 山藤章二 能山宗忠 米長邦雄

(ら行)

林海峰

(わ行)

渡邊恵進

ご寄付をいただいた皆様

朝日新聞厚生文化事業団に寄せられた07年度の寄付金は、総額79,092,865円にのぼりました。寄付金は朝日新聞の読者や学校、企業、医療機関、団体・グループなどからお届けいただいたほか、多額の遺産をご遺族や遺言執行人を通じてお寄せいただきました。また、朝日福祉募金には朝日新聞社員、OBの皆様にご協力いただきました。皆様からの寄金はこの事業報告書でご報告させていただきますように、幅広い福祉事業に役立たせていただいております。ご寄付をいただいた皆様は次の通りです。(敬称略、順不同)

※匿名希望の方は掲載を省きました。

【一般寄付】

- ▼北海道：桜井内科胃腸科、株式会社 Fantasia Entertainment、(医) 発寒中央病院、北海道電力株式会社
- ▼宮城県：Compass Tokyo Japan、日野洋子
- ▼岩手県：橋本繁三
- ▼山形県：堀三隼
- ▼福島県：阿部勇、星熊雄、吉村キミ子
- ▼茨城県：坏正紀、有限会社高久食品・ハチミツ倶楽部、辻葉子、寺田達
- ▼栃木県：植木誠也、西沢隆次 大島良助
- ▼群馬県：大塚通高、静雅彦、鈴木憲一、矢作正夫、有限会社山口新聞舗
- ▼埼玉県：ASA狭山ヶ丘・小手指、株式会社東リース、石川全代、岩田豊司郎、内海紀章、NPO 法人埼玉県ウォーキング協会、遠藤靖夫、岡崎新一、蚊の涙二世志願者、河内利雄、黒米清、坂本金市、東海林英二、東海林英二、西武台高等学校保護者会・後援会、高村広、田代稔、田林晃、中村満夫、飯能ツーデーマーチ、草加八潮タウン映画会実行委員会、株式会社フルカワ、緑川豪男、村岡美佐男、山崎美知子、山根克己、吉川弘志、横田俊二
- ▼千葉県：天野昌紀、ASA千葉NT中央、株式会社朝日カルチャーセンター千葉、天野高男、石原正太郎、石井従道、石川三朗、大谷昌弘、小川裕、小川みつ、岸栄輔、今裕之・久子、三枝清純、佐藤信二、佐藤道雄、柴田眞樹、白濱雄三、鈴木春夫、高岡信男、千野輝雄、ちば興銀「小さな親切」運動推進本部、千葉銀行「小さな親切」運動ちばぎん支部千葉銀行、都丸司、林常蔵、坂東君江、富士美術協会、森下昇、山内幸夫、楽天地天然温泉法典の湯
- ▼東京都：朝日トップス株式会社社員会、浅見薫子、天野徹、朝日新聞東京本社もちつき大会会場募金、朝日新聞東京本社販売局長室、朝日新聞論説委員室、阿見紀代子・ブライアンノヴァトリオ・ジャズコンサート来場者募金、朝日新聞総合サービス、ASA高輪、(株)朝日新聞新宿東ステーション、朝野きらか、飯田正衛、石坂利助、石川病院、今給黎京子、宇佐見友香、宇井あきら、学校法人上野学園、内山鶴雄、宇野昭二、ASA百草園、MOMO東京パイロットクラブ、NEC、遠藤朝彦、大多和彦一、大塚修、押田佐知子、小田原耕三、小野いずみ・めぐみ、香川杏二、勝田明子、加藤昭、加藤幸雄、亀井正雄、吉祥女子中学・高等学校淑美会、財団法人杵勝会、キューピーAD会、「クロネコファミリーコンサート」事務局、国府田七

郎、江東観光、古賀力、小勝竹雄、小島正治、小嶋俊子、小島靖、小嶋茂、彩季会、酒井寛、佐々木胤郎、佐藤敏郎、サン・マルコ、小さなかけ橋合唱団、質屋21協同組合、実践協会家政科会福祉部、清水太一、清水澈、白井貞子、新日本石油労働組合東京支部、新日本石油労働組合本社支部、新日本石油労働組合本部、鈴木靖明、鈴木弘、世田谷学園高校5年B組、専修大学附属高校ゴルフ部、高山忠洋、高尾知道、武井鑑、武井桂子、竹内一夫、竹内實昭、橘ダンススクール、棚橋美喜子、田中喜久子、田辺歌子、谷本英次、種山恵也、田村直彦、田村清明、小さなかけ橋合唱団、筒井清、寺田眞文、テレビ朝日福祉文化事業団、都内南部朝日会宣伝企画、(社)東京都トラック協会多摩支部、東京スリーデーマーチ、東京鳩居堂、徳渕守、株式会社内藤一水社、中江利忠、中村斐子、中村義則、日本楽器フェア協会、社団法人日本コントラクトブリッジ連盟、日本スリーデーマーチ参加者募金、日本手芸作家クラブ、伴亘、Vivishot Bar&Darts、日上操、美術運動体九つの音色、株式会社ヒロカワ製靴、ファイザー株式会社、福井一彦、富士ゼロックス株式会社エンジニアリングサービス営業部、藤井保、古山敏雄、ヘラルド朝日ワインのタベ会場募金、本浄寺、本多武、株式会社まるやま、水永浩二、水野園、蓑島千恵、村井丕子、毛利康夫、持田政彦、望月紘一、ヤマトホールディングス株式会社、安江育代、安室礼三、山住美津子、山脇学園、湯島針灸院、早稲田大学、渡辺伎美、渡部利雄、渡部通英

▼神奈川県：ASA東浦賀、ASA溝ノ口南部、ASA汐入、ASA三ツ境南部、青木秀雄、ASA朝日新聞片瀬、ASA鷺沼東部、ASA上大岡社員一同、家本誠一、磯山浩、磯野喜美子、伊東義雄、m・m、株式会社エイワ、江成茂勝、岡村亜佐子、小沢直幸、神奈川県少林寺武道競技連盟、仮名子、放送大学神奈川学習センター事務職員ご一同、川辺和夫、瓦田信彦、木村成一、窪田悦郎、久保志津、桑原季六、K. S、慶應義塾高等学校ライブラリークラブ、光峰陶遊会、高口湧太郎・颯太郎、小宮末雄、彩歩の会、桜井祐二、佐藤新聞店、有限会社三和看護婦家政婦紹介所、鈴木孝行、スナック「柴」、田中耳鼻咽喉科医院、田中奈美子チャリティーコンサート実行委員会、田中博、手島温子、戸田繁雄、長島チャリティー新年会、野村英明、畑井良和、有限会社バナケーア、林明德、秀野一將、藤原清人、細谷正二・洋子、ホンダエレスス労働組合、ミキプルーン剣持グループ有志一同、三島牧夫、三縄みどりチャリティーコンサート実行委員会、山手学院ボランティア部、渡辺和夫、渡邊葉子、渡辺克己

▼山梨県：湯本星華

▼長野県：笠原忠夫、望月正子

▼岐阜県：小林正典

▼静岡県：秋田辰彦、岩本和雄、笈川満夫、片山偉三男、(財)静岡県高等学校野球連盟、鈴木益民、多々良幸子、船越澄枝、三倉正時、吉川正宏、渡辺幸一郎、和田寛

▼愛知県：青島鍵一、稲垣脩世、稲生ふく、伊藤健、伊藤隆之、上阪堅一郎、H・S、内海紀章、大園徹、太田珪子、岡崎隊戦友会、尾関博、加藤肇・このみ・嵩徳、春日井正、兼松榮子、神谷一嘉、川口澄男、河合甲子、斎木清治、高橋昭彦、高柳泰世、竹中辰夫、橘捨治、株式会社中部朝日広告、とうふ処「吉本」、中山チヨ子、中江良子、名古屋文理大学短期大学部自治会、名古屋深雪会、名古屋ABCダンスの会、名古屋美術商協同組合名古屋美術青年会、野瀬彩稀子、野武二郎、浜口澄子、林弘、林千栄、原口愛子、久野三枝子、広中利訓、在日米国商

工会議所、堀場英也、松川静雄、松原たまみ、松野辰弥、三浦豊、水野清、山内拓男、ローソン平針西店従業員一同

▼三重県：坂井邦子、谷垣美智子・龍平、谷口光茂、津豊ヶ丘キリスト教会、富田高良、萩原豊子、盆栽友人趣味の会、水谷鎮至、水谷勇夫

▼滋賀県：岩元市三、岩元俊子、植村良雄、小泉美羊子、辻寅建設株式会社

▼京都府：浅田照夫、石川喜一郎、石川喜美子、内田愛子、大隈靖彦、小河和子、京都学園高校1年5組、京都百貨店協会、工藤昂、聖母学院中高等学校生徒会執行部、西陣織会館・西陣織工業組合、古玉宏、山田健一

▼大阪府：青野万千恵、アサコムホール・チャリティーカレンダー、アサヒタロウ、朝日ビル警備センター、第34回朝日民踊大会実行委員会、足立誠太郎、尼崎久栄、石塚達、石脇コミュニティクラブ、石井秀利、磯田博孝、居場満、井原邦夫、岩崎テル、上田孝之、渦居隆司・智美・洋文・智栄子・千広、渦居光枝・包治、英真学園高校3年7組、N T T西日本大阪支店、F J K法律事務所・藤木啓彰、圓尾耕一郎、大川哲次、大阪工業大学高校生徒会、大阪市信用金庫、大阪難病研究財団、大阪パイロットクラブ、大阪深雪会、岡本安季人・正恵、遠里小野婦人の会代表堅田八千代、河内啓三、北山章夫、木ノ本香穂、キャンドルナイトエコろうそく能入場者募金、京セラコミュニケーションシステム株式会社大阪事業所一同、吉良茂子、近鉄タクシー株式会社、近鉄百貨店、近鉄百貨店阿倍野店、楠宗一、窪田時、クリスマス感謝献金、グループこかげ、グレース幼稚園、京阪百貨店守口店、月輪寺・榎本智照、株式会社弘益鐵工所、第2回堺国際ツーデーマーチ募金、小峰聖子、コミュニティケアネットワーク、小山大亮、斉藤弥寿夫、斉藤、阪田道子、笹谷保子、佐々木綾子、佐藤直美、サンディ、渋川育子、島田照子、清水勇、J A F、J A F募金箱、笑WARAI入場者募金、人生道場、新日本石油労働組合関西支部、すいすい、杉田勝洋、スポーツマンクラブポール・千日前法善寺、聖愛幼稚園、せいせい、星翔高校生徒会、そごう百貨店心齋橋本店、大同生命厚生事業団、大丸百貨店大阪心齋橋店、太佐光弘、高橋仁子、高島屋大阪店、武林明、田崎廣子、ついつい、辻尚司、鶴見クラウンタクシー正社員組合、寺岡修、土居利夫、「童謡唱歌を歌いましょう」入場者募金、百目鬼主計、戸室常一、中島正幸、中野肇治、長崎美千代、永田美知子、中島正典、西村徹、日曜画家協会、日刊スポーツ事業株式会社、ネッツトヨタ北大阪(株)、能楽協会・大阪支部、萩原永美子、浜田節子、東住吉クラウンタクシー本社営業所正社員組合、平佐国武、廣井富佐江、福山章紀、伏谷魁、藤本智津江、藤原波磨子、藤原紘子、細田泰嗣、堀昭一、まいまい、槇尾賢一、増田武司、松井繁、三浦茂子、水谷泰子、宮坂修、民俗芸能アンサンブル若駒、木金館木工いろは塾、八木黎子、安井一雄、大和梱包、山本勝治、弓場慈子、四ツ葉会、脇昭成・淑子、渡里洋亮

▼兵庫県：A S A神戸販売灘西部・高羽、A S A二見店お客様、安達久代、伊藤通、稲庭達ヴァイオリン名曲集入場者募金、井上壽子、岩根良三、河鹿庵、甘露寺、岸本みさの、グループつくしんぼ、黒住晶子、幸田さと子ヴァイオリン名曲集入場者募金、近藤ピアノ名曲ベスト2007入場者募金、近藤嘉宏ショパンとベートーベンのタペ入場者募金、近藤嘉宏ピアノ名曲ベスト2008入場者募金、坂元紀子、佐々木隆嗣、佐々由佳里ピアノファンタジー入場者募金、佐野信三、住野耕一、司馬妙子、柴田寛、真生園有志一同、鈴木敏男、真生園有志一同、

大丸百貨店神戸店、竹田弓子、田中誠一郎、出口美保魅惑のシャンソン入場者募金、阪神布教区・福祉の輪を拓げる会、平尾清、廣村進、弘山タケ子、廣辻逸郎、佛立寺婦人会、古川清、堀尾正充、本田路津子生命の讃歌入場者募金、妙正寺鹿多証道、六車智香ソプラノ名曲の花束入場者募金、安井祥雄、和田産婦人科

- ▼奈良県：明日香青陽窯・山本秀吉陶芸教室、畝傍高校3年10組、畝傍高校3年7組、大槻義教、荻田富美子、荻田好男、川畑宗一、岸田米夫、岸田米夫、中尾晃一、奈良県立志貴高校統合推進委員会、奈良文化高校、西本みち子、野村進、日根文男、丸山種子、安井良道住職と檀信徒有志、吉識希一
- ▼和歌山県：アイビー化粧品和歌山第9販社・岩橋営業所・嶋本営業所、沖靖雄、竹中信夫、福住輝雄、光定内科待合室一同、和歌山近鉄百貨店
- ▼鳥取県：川口昭二、鳥取朝日広告社
- ▼岡山県：上杉富美江、長畑秀和・葉子・智士・有紀、馬越悟士
- ▼広島県：石井美智子、柿本正廣、栗田康雄、坪本俊勝、三木功
- ▼山口県：伊藤光夫、岡崎博友、門山尚貴、並川宏、原田巖・初称、平田鐘大、福本吾一、堀田洋一郎ラジオ体操おはよう会
- ▼香川県：K・S、高松南局消印匿名
- ▼愛媛県：砥部焼陶芸館、真鍋新
- ▼福岡県：ASA引野、朝日新聞販売店西支部グループ、有吉通泰、池野美都子、学校法人いづみ学園、伊東正雄、伊藤侑、井上継郎、株式会社井上商会、鶴木克己、歌うつどいの会北九州、梅津法、裏千家淡交会北九州支部、O・Z、大野清、株式会社小倉カンツリー倶楽部、鬼木眞知子、小原秀俊、オリエント物産スマート、梶谷忠夫、カラオケ大正琴藤由会、河村寅明、宗教法人救世主教小倉教会、倉本和美、栗山徳太郎、恵祐会、故・佐戸唯雄、小倉工業高校平成19年度卒業生一同、小倉南区中学校PTA連合会、坂本嘉之、芝尾伸子、澁江有恒、進貞人、第一警備保障株式会社、第一防災システム、高砂熱学工業九州支店、高村広、竹崎裕美、田中敬子、田中力、谷口幸子、田畑親、株式会社坪井商店、常盤薬品株式会社北九州支店、波止君美、成重喜徳、西日本カラオケ連合、ネットヨタ北九州、ハウジングプラザ片江、橋詰勇、畑邊正治、原岡加寿栄、原田しかの、原田ヨシ子、樋口澄子、日高義之、日野喜美男、平田淑子、藤巻義範、宗教法人法泉寺、前川一之、松田ミサ子、明治学園小学校児童会、メタルアート創造の森、メタルエコアート・森と海TETTO、安村佐恵子、山家肇、横田チヨ子
- ▼佐賀県：市丸晴子、佐賀朝日広告社、豊田俊明
- ▼熊本県：岡山洋二、熊丸茂、聖粒会慈恵病院、竹中研治、本村久子
- ▼大分県：岩崎修二、岩永知子、中島英雄
- ▼宮崎県：高森拓夫、前田昭久
- ▼鹿児島県：田上容正

【ふれあい募金】

北海道：小野弘美、花岡知之

青森県：田中誠治

宮城県：小野英雄、清水正生、仙台白百合女子大学学生会、寺口充俊

秋田県：斉藤信幸、花田金美

岩手県：橋本繁三

山形県：斎藤万一郎

福島県：福島県朝日会いわき支部

茨城県：佐藤任司、辻葉子、寺田達、中村潔

栃木県：及川武紀、木村功記、斎藤和生、手塚正志、中山欣司、福田仁、有限会社野田新聞店社員一同

群馬県：大沢誠、嵯峨六雄、佐藤信彦、静雅彦、鈴木憲一、布施正美、矢作正夫

埼玉県：岩田豊司郎、柏崎研、金子千侍、河鍋楠美、木下智治、小室保尚、坂井美恵、坂本金市、鳶岡照雄、島田クリニック、堂下亨、名越啓史、古谷信雄、山田渚、山根克己、横田俊二

千葉県：ASA浦安ヒラタ、五十嵐謙一、石井従道、石地辰興、大賀誠、梶原敬、梶本伸一、加藤昌義、川又章、久保進、小金沢毅、越口栄信、三枝清純、佐藤道雄、鈴木健夫、高木医院、中村謙介、根本医院、野村清治、野村直樹、馬場勇次、平川肇、古川喜一郎、古川英政、平成会

東京都：浅野明子、浅見薫子、足立嘉子、有田孝久、安戸一皓、飯田正衛、五十嵐篤男、井上彰、猪忠彦、宇野昭二、海老沢俊彦、大澤金政、大野忍、大村俊雄、岡崎末男、小田原耕三、金光恒好、株式会社朝日新聞新宿東ステーション、鎌田昭次、鎌田直子、木野村幸彦、蔵方宏昌、栗原クリニック、黒須誠、古賀力、小島靖、小林康夫、斎藤益三、酒枝康郎、佐々木胤郎、佐藤重光、佐藤静夫、清水五百子、清水満、白井貞子、関谷透、高橋勤、谷本英次、田宮貞和、田村清明、田村直彦、津田満夫、筒井清、椿弥一、徳安良治、戸澤鉄男、富村憲一、中島和子、中村邦彦、中山良英、沼沢良樹、野口律子、林慎吾、平川恒久、福井敬治、藤田千尋、松木康夫、水永浩二、三輪弘之、村井丕子、持田政彦、望月紘一、森昌二、矢野一男、山岸芳輝、山口俊成、山口英男、山住美津子、山中一夫、ユニオン歯科医院、若山麻美、渡辺明、渡辺淳

神奈川県：ASA片瀬、ASA上大岡社員一同、ASA田園田奈社員一同、ASA浦賀中央、ASA東浦賀、ASA汐入、ASA三ツ境南部、浅場馨、飯塚義朗、飯山修、家本誠一、岩田裕吉、岩本紀子、岡野功、岡村雅生、小沢太郎、小野宗男、株式会社野村新聞店、亀田芳子、簡野邦彦、小林芳壽、佐藤光秀、代田治彦、鈴木孝行、新関寛二、八十田敏男、早川薫、林田徳、東長正、平田キヨ、福永省三、藤原清人、細川博、松田久美子、宮島真次、山田昌生、有限会社松本新聞販売、横浜宮崎脳神経外科病院、横山登、吉田美枝

新潟県：依田税、高橋鐵行

長野県：岩波てつ子、笠原忠夫、塚田修、洞澤茂、水上淳子、望月峻成、望月正子

山梨県：嶋崎紀代子

岐阜県：蜂須賀喜多男、水口和子、森紫珠子

静岡県：川村碩彬、後藤慎介、佐野勉、篠原利男、菅ヶ谷純弘、多々良幸子、寺田鼎、富山文男、中山静枝、星野茂、稀代幸雄、村越光世、指出泌尿器科、吉田三毅夫、和田寛、渡辺幸一郎

- 愛知県：石川平八、織田義人、志賀捷浩、新城壽、杉山秀樹、高柳泰世、早川常彦、平塚久男、藤城郁美、藤田綾子、堀場英也、水野雅夫、吉川龍雄
- 滋賀県：植村良雄、小西眞
- 京都：河辺昭徳、小谷澄子、古玉宏、土井潔、畑一
- 大阪府：石井秀利、石塚達、忌部卓、長田恒俊、小寺太平、切通良昭、久保心子、四方朋子、下出喜久子、杉田勝洋、玉井正光、永井正志、中島チエ子、西村徹、福田治男、松永芳枝、円尾クリニック、三杉進、南諭、安岡邦昭、山本哲夫、弓場勉、渡辺良子
- 兵庫県：瀧谷泰博、平尾清、福田田鶴子、道又央、和田産婦人科医院
- 奈良県：石崎直司、大西利明、宮崎新嗣
- 山口県：赤川悦夫、秋田香栄子、伊藤経亮、伊藤光夫、稲川芳雄、稲野穎式、井上等、牛尾博昭、宇野義昭、大上光子、大島喜代子、大西徹、岡基子、岡原壽典、檜部正人、片岡逸、兼田幸兒、河上勲、河上和洋、河口俊子、北村佐一、木村巖、木村猛雄、小泉和夫、小泉清子、河本眞龍、護國寺、佐々木隆義、定近サチ、潮浩、柴田丈夫、清水勇雄、清水マリ、浄土真宗明林寺、白石貞子、白水玄勇、神徳翁甫、末次清・百合子、末富淑子、隅田茂生、高松恵美子、高山晋洋、武居稔博、竹内清海、津次悠紀子、徳田修、徳山養護学校、徳山小学校ボランティア委員会、中原一雄、中山富蔵、西辻知生、浜戸多津子、早田武、原正昭、日置農業高等学校生徒会、平田鐘大、平野東光、広重清子、深本良一、福田澄雄、福本吾一、福山道義、藤沢ハヤ子、藤村才三、藤本裙子、堀田洋一郎、松崎浩司、光内美恵子、宮川祥一、宮本甫子、山岡邦雄、山田孟、山根喜美、山根惇、湯田自動車学校生徒職員一同、吉村春子、和田鵬亮、渡辺満彦
- 福岡県：青沼茜雲、阿川琢磨、秋枝蕭子、秋吉省一郎、浅井修平、浅原進午、朝日新聞販売店西支部グループ、朝日新聞福岡販売株式会社、朝日メディアテック社員一同、油絵屋大哲、荒木不動産、有田雅子、有吉通泰、安西アイ、安西義孝、安藤倫子、飯塚聖母幼稚園、池島信二、池尻直幹、池田敦子、池田加寿子、石田俊彦、石原タロー、磯矢昭三・洋子、伊藤千枝子、稲永清泰、井手義雄、井上伊磨子、井上敬次・てる、井上聰、井上静子、井上祐毅・麻衣子・直哉、井上洋子、今林昭、今村寿和、医療法人きとう胃腸科内科クリニック、岩崎健治、岩永知勝、上杉倬生、上田シズエ、植田朋子、上田英敏・キヨコ、鶴木克己、梅谷敬啓、梅津法、梅根眞知子、占部久、江口静子、遠藤信重・ひろみ、大石雅史、太田正八、大西克己、大西純一、大林るり子、大村公人、岡田良一、緒方覚、沖永喜代太、おとぎぞうし、鬼塚正十四、小山田秀子、香川医院、柿添富久子、角野斉胤、梶務、片山健吉、嘉多山直人、香月きょう子、金丸嵩、株式会社坪井商店、鴨川隆彦、川関富美子、苅田ロータリークラブ、北九州まちづくり応援団、北福朝日会、木村幸隆、木村多美子、木村夏実、木村俊夫、九州国際テニスクラブ、九北陶芸協会、仰星学園高等学校、久志本日出子、倉竹一知、藏永知彦、倉本恵美子、藏本一郎、栗原公足、栗山太、黒木裕子、黒田哲玄、桑名純恵、小石純也・真理子、河内山寛、國府敏男、古賀明、古賀哲二、国際ソロプチミスト北九州一東、小熊坂静子、小嶋房江、小住和徳、五貫敏枝、小林泰稔、小宮俊秀、金光教若松教会、佐伯友久、坂井義弘、坂尾康夫、佐々木愛子、佐々木清、佐田正武、里村知宣、佐野武・百合子、塩塚春生、重岡博之・幸枝、實藤正利・さかゑ、北九州市身体障害者福祉協会自動車部会有志一同、志波為市、芝尾伸子、柴田慎子、渋江有恒、嶋田国重、白石逸郎、白木志磨子、城戸傳、末吉楠雄、鈴木文郎、ゼンリン、第41回プラス

フェスティバルインニューイヤー募金箱、高嶋康年、多川洋子、竹内俊次・逸子、田中強、田沼美雄、田原富子、玉谷誠一、丹下重則、辻守、辻吉彦、土川勝美、鶴島光生、手嶋秀子、天満紀子、土居麗子、遠嶋泰彦、常盤薬品株式会社八幡営業所、トピカ株式会社、富岡春子、豊田秀子、長崎、中牟田恭子、中村治雄、中村知津子、中村卓郎、中村貢、中村洋子、波止君美、成重まり子、成富義幸、西明義晃、西尾俊一郎、西生寺護持会、西園昌久、西田昭子、西村四郎、根城堅、長谷川恭子、畑邊正治、波多野昌二、8月を朗読とシャンソンで記憶する集い、八田次郎、濱崎壽子、林田乙次郎・美子、林田一也、原トモ子、原万智子、原陽一、原口元夫、原田素行、原田ヨシ子、樋口佐和子、樋口幸生、久垣一雄、久原伊知郎、日高孝枝、日高達郎、日高義之、日野喜美男、姫路秀明、平田澄穂、平田利栄、平野敏弘、深江新聞販売店、福岡吹奏楽連盟、福岡国税局有志一同、福岡一雄、福田礼子、福留京子、福吉三代子・未紀子、藤井百合藏、藤川欣佐、藤島八重、藤見是、藤好三千代、淵上鯉一、本田俊励、前川一之、前田紀道、真島敬一郎、松井昭子、松木俊正、松下徹、松永等、松延彰友、松原建彦、松本健、松本久臣、松本靖子、溝部忠増、光井幾蔵、三井茂生、魅モード1、光富慎吾、三宅悦夫、宮島なずな・すずな、宮本トミ子、宮本邦夫、向笠洋三、牟田芳子、宗田利明、室町みき、森真由美、森本隆芳、森本洋輝・あかね、安村佐恵子、弥永耕一、矢野雄、山内一壯、山岡光孝・芳恵、山家内科医院、山際久子、山口くに、山下勝己、山下新一郎、山田信夫、山田稔、山本哲夫、雪竹清弘、横田郁夫・永子、吉田並世子、吉田守男、吉永淑子、芳水会、米倉昭史、和田歩佳、和田康彦、渡邊優希野・優芽野、渡邊千鶴子

佐賀県：有島恒明、石井倫平、市丸はる子、片渕陽一、口石將博、重松成典、豊田俊明、長谷川敏子

長崎県：阿南貞雄、後田敏子、里崎裕康、進藤和彦、高岡順生、高野星次、田中暢子、中尾カスミ、中尾静子、長島洋一、永田耕作、原本康雄、福田俊郎、南三郎、牟田義人、百田眞瑳彦、吉岡利満、吉田直子

熊本県：植村正三郎、坂田サチ子、澤村正純、志方栄吉、鈴木一臣、竹中研治、樽海友希、永野昌安、中村修、宮崎邦介、宮田和子、森本政幸、米満弘之

大分県：ASA犬飼、ASA日出、麻生孜、石崎邦彦、岩永知子、岡本誠、河野なみ子、後藤賢二、佐伯豊南高校生徒有志、佐藤トシ子、丹羽瑛、西森靖生、野上和恵、原隆、原嘉徳、藤垣英夫、藤本保、ASA豊後高田、本田和子、松成満男、丸谷美智子、矢永英子、山崎福男、山元英美子、山本宏子、椋園ミヨ子

宮崎県：赤池義昭、ASA・大塚・住吉・佐土原、井上清美、星井芙美子、前田昭久、松崎史夫

鹿児島県：株式会社湖城ビル、上山陸三、木村龍一郎・理、高松英夫、田辺元、田原睦郎、

【朝日福祉募金】

宮城県：日野洋子

福島県：阿部勇、吉村キミ子

埼玉県：遠藤靖夫、後藤豊、島田幾夫、戸田勝男、中島竹二、中村満夫、松沢治郎、村岡美佐男、渡辺茂樹

千葉県：石原正太郎、岩間正雄、植草光春、菊原睦夫、岸栄輔、桑折勇一、坂井秋彦、佐々木裕、

白濱雄三、菅原智治、鈴木和子、田辺昇一、津田四郎、土田芳孝、都丸司、豊田明、永原正喜、中村糾造、橋宏、林常蔵、藤井富一、藤木武夫、藤野義夫、水川毅、三石昭、山内幸夫、山田弘、吉川公朗

東京都：天野歆三、飯田孝一、池辺史生、石橋英太郎、伊藤邦男、伊藤斉、伊藤牧夫、上野晴夫、内村智光、内山鶴雄、宇野勝己、永吉安正、小笠原将、荻野義夫、小野恵夫、鏑木進、亀井正雄、菊地貞三、木下喜太郎、久保井吉治、久保田龍二、桑田弘一郎、国府田七郎、小島正治、小林金太郎、小林頼重、近藤和恵、笹井輝雄、佐藤文雄、鮫嶋一治、三角偉友、柴田琇一、柴山恭子、清水太一、鈴木弘、高橋恒雄、竹内實昭、田辺東平、谷義郎、苜栄吉、寺田眞文、奈良昌一、登内正、野本登、浜田隆、伴亘、星野富栄、細川洋一、堀口昭、見市元、三浦昭彦、光藤政雄、南栄之助、宮内繁、村上吉男、村野坦、米良哲、諸寿子、柳川健一、吉川宏、吉橋市太郎

神奈川県：石津光一、磯山浩、伊東義雄、今津弘、内山哲哉、梅崎豊、大野出穂、大堀末雄、沖研三、尾崎昭雄、春日廣之助、川辺和夫、瓦田信彦、木代泰之、北村幸雄、君和田正夫、窪田悦郎、小杉弘、小林朝貴、小宮末雄、斉藤輝夫、斎藤俊郎、竹市義弘、中島善範、野坂イセ、花木亮二、浜田正治、菱沼保幸、武藤誠

新潟県：佐々木賢介

長野県：小坂健介、師岡恒司、平田英之助、宮沢東洋雄

岐阜県：池田勝、小林正典、長谷川弘

愛知県：池田信之、伊藤隆之、上阪堅一郎、尾野忠雄、加藤茂、加藤文男、蒲田春雄、河合甲子、小林昌雄、佐野三郎、杉本宗孝、竹腰義光、竹中辰夫、谷口高明、田村潔、堤洋子、中野博、西村光明、野田一三、林弘、堀鐵蔵、松川静雄、松野辰弥、三浦豊、山田美智子、山本浅夫、渡辺武夫、渡辺武紀

滋賀県：石原鐵雄、臼杵敏夫

京都府：森下ヒサ子

大阪府：天津裕、市村銑章、井原邦夫、揖藤章、上田和郎、上田輝雄、梅原寿春、荻野義三、川人泰、河村良太郎、窪田時、桑田洋太郎、小西忍、佐藤勉、嶋倉宏、下原信好、新谷洋二、鈴木守信、滝本隆治、武林明、多湖校、辻治、辻野美治、土居利夫、中尾菊子、成澤讓、橋田長、橋本文夫、広沢茂保、広瀬隆之・素子、藤沢魁、藤田勇、藤本昇、細川福義、堀昭一、松井繁、松本富夫、水谷泰子、実森征一郎、宮坂修、森卓也、渡辺勝彦、渡辺、森本健蔵

兵庫県：阿部トミ子、天野昇一、国枝優、久保木一郎、園府寺辰美、坂口勝一、佐々木隆嗣、柴田一明、土井由一、中井正、中江義雄、中野剛吉、中村泰明、長谷川敏郎、松村嗣彦、淀井正彦

奈良県：木村佐喜夫、酒井基雄、谷義郎、堤野保春、野村進、前田健治、八木一夫、吉田恒夫

鳥取県：矢谷啓

岡山県：小川正嗣、香川勝美

広島県：栗田康雄、中村耕也

愛媛県：合田洽二

徳島県：小畑光正

福岡県：秋成府左治、浅海一隼、安部正昭、有馬律生、飯田隆之、飯田守人、池野美都子、石田明男、伊東昭子・久雄、井上敦子、今井眞澄、井本武彦、岩田光雄、上野敏彦、上野芳範、植村暹爾、内田満寿、内山健治、浦橋正男、江島幸子、扇谷範可、大木昭幸、大久保主税、大塚保人、大野清、奥野豊、奥村博一、小原秀俊、俵アキノ、梶谷忠夫、加治屋留美子、柏木昭二、梶原美恵子、加来勉、喜島卓己、木下京子、木村賢示、木村弘、楠野宏康、久保一博、熊谷新、倉本和美、栗栖克則、黒川五郎、黒谷次郎一、久和秋雄、桑原純、小崎哲也、斎藤保、佐藤郁男、佐藤武美、佐保肇、三小田功、清水慶太郎、城島伸介、城野八重子、末安巧児、園田明信、園田正信、田尾美智代、高巢真澄、高村広、竹中久、田島栄次、田中時雄、谷口幸子、玉谷省三、長治良知、徳山雅夫、戸田三七生、富永守、友井滋、豊田茂行、豊永久美、取違芳弘、中美穂子、中尾研輔、長尾正三、中荘俊、永田諫也、長野實、中村壹郎、中村寿、中村忍、中村進一、並波真、成重喜徳、野上智宏、野口正路、野口貢、野口美昭、野原勲、橋詰勇、畑富彦、畠田一、日朝高晴、久野達明、日高毅、日高寛、平井信広、平松輝子、福島新生、副島恒彦、福田宏行、福原恒明、藤尾且一郎、藤崎節子、藤崎良人、藤崎良之、藤巻義範、藤原辰生、古庄三喜男、保永惇治、堀益一、前田奉一郎、前田稔、松本久、松本盛二、松本弘、松本富士夫、丸野了、丸山隆志、三浦豊、水上平吉、水ノ江正、宮崎冬樹、向英男、村上啓子、雌熊二三雄、目原清嗣、毛利弥生、森幸十、森重和好、森脇巖、安尾芳造、山下幸子、山下春子、大和武政、山本英雄、横田チヨ子、吉田和明、米田勇

熊本県：花房篤司、山本宏子

大分県：岡本誠、神戸信之、友松功一、宮本隆偉、柳瀬陽之助、吉松忠徳

宮崎県：井上公宏

鹿児島県：藤山清郷

朝日福祉ガイドブック・DVD・ビデオご案内

◆朝日福祉ガイドブック◆

- | | |
|-----------------------------|--|
| 『自閉症の人たちを支援するということ』
800円 | TEACCHプログラムの最高責任者者ゲーリー・メジボフ教授が自閉症の障害と同プログラムの内容について分かりやすく解説。 |
| 『自閉症のひとたちへの援助システム』
500円 | TEACCHプログラムの実践事例を豊富な写真とイラストで紹介しながら、同プログラムを日本でいかに生かすかを提案。 |
| 『きみといっしょに』
500円 | 全国のLD児を持つ親たちが、LD児への理解やよりよい付き合い方をまとめた手引。Q&Aと推薦する相談・診断機関などを掲載。 |
| 『くるまいす-第3改訂版』
300円 | 車いすの種類や構造、基礎的な介助方法や介助のポイントをわかりやすく解説。公共交通機関の利用についてもられています。 |
| 『障害者のホームライフ・改訂版』
500円 | 障害者の新しい生活のかたち・・・プライバシーを尊重して暮らすグループホームのつくり方を制度や事例をもとに解説。 |
| 『障害者の自立生活センター』
500円 | 自立生活運動の拠点としての日本的な自立生活センターをどのようにつくり、運営するかを解説。各地のセンターの実例も紹介。 |
| 『福祉のまちづくり』
500円 | 障害者やお年寄りが住みよいまちづくりを、行政、障害当事者などの立場から取り組んでいる実例を紹介。 |
| 『ハッピーある暮らしをいきいきと』
500円 | 高齢者、障害者のための住まいの工夫をイラスト、写真入りで、玄関、階段、トイレ、台所、寝室など場所ごとに解説。 |
| 『私のまちを福祉のまちに』
500円 | 住みよいまちづくりを目指すコミュニティボランティアの手引。各地の取り組みを事例で具体的に紹介。 |
| 『このまちにくらいたい』
500円 | 生まれ育ったまちで暮らしたい、という重度障害者の希望に沿った地域での生活を支援するシステム、先駆的な活動事例などを紹介。 |
| 『ころばぬ先の杖』
500円 | 加齢とともに骨のもろくなる病気である骨粗しょう症の予防法や、早期発見、最新の治療法を多くの図表やイラストを使って解説。 |
| 『新お年寄り家庭介護のポイント』
500円 | 家庭介護のポイントや工夫が、やさしい言葉で語りかけるように書かれた名コラム集。朝日新聞家庭面に連載されたものに加筆。 |
| 『家庭でできる痴ほうの介護』
500円 | 痴ほうを正しく理解し、施設や病院などを活用しながら家庭でできる介護について解説。介護家族を支えるグループや施設も紹介。 |
| 『これで安心！おもらし対策』
500円 | 高齢化とともに、大きな関心事になっている失禁を克服し、快適な生活が送れるようイラストを中心に解説。便利な介護用品も紹介。 |
| 『安全クッキング』
500円 | 障害のある人や高齢者の食事づくりに役立つよう、さらに安全性を考えて「炎の出ない調理器具」を利用した料理法を紹介。 |
| 『高齢者虐待を未然に防ぐため』
500円 | 高齢者虐待を未然に防ぐため、早期発見・早期対処の目を育てる手引書。16事例も紹介。 |
| 『子育てに迷っているママのために』
500円 | 子どもの育て方がわからない、子育てに自信が持てないというお母さんを対象に5つのテーマで開催した講演会をまとめたもの。 |
| 『新・川崎病がわかる本改訂増補版』
500円 | 乳幼児を中心に発病する原因不明の“川崎病”について症状、特色、療養上の注意、相談窓口など最新の情報を加えて解説。 |
| 『小児ぜんそくは治る』
500円 | 小児ぜんそくを正しく理解し、どのように予防し、治していくかを最も新しい知見を折り込みながらわかりやすく解説。 |

◆朝日福祉ガイド DVD◆

- | | |
|--|--|
| 『自閉症の子どもの自立課題 全3巻』
セット価格 13,500円
各巻 4,800円 | 「自分はできるんだ」という感覚を養い、いろいろなことに取り組もうという意欲を育て、将来の自立した活動につながる「自立課題」を、詳しくやさしく紹介。第1巻「自立課題の選び方」(64分)、第2巻「自立課題の作り方」(59分)、第3巻「自立課題の作り方」(49分)。 |
| 『青年期・成人期の TEACCH プログラム』
3,000円 (56分) | 学校卒業後の就職や居住、余暇の過ごし方など、青年期・成人期の自閉症の人たちへの TEACCH による援助プログラムを紹介。 |
| 『自閉症児の明日のために』
3,000円 (49分) | TEACCH プログラムの全体像をセラピストの立場から紹介。日本の自閉症の人たちを援助する上で何が必要かを示唆。 |
| 『親のための TEACCH プログラム』
3,000円 (68分) | TEACCH プログラムの家庭での援助の実際を具体的に紹介。親の立場で実践できるようにわかりやすくまとめた。 |
| 『教師のための TEACCH プログラム』
3,000円 (67分) | 教室やスケジュールの設定、親との連携など、学校や施設、作業所などで自閉症の人たちに関わる教師や指導員の参考に。 |

◆朝日福祉ガイドビデオ◆

- | | |
|---|--|
| 『自閉症の治療教育』
3,000円 (60分) | 全米自閉症児親の会の様子や、米国ノースカロライナ州の自閉症の療育への取り組みを紹介。 |
| 『TEACCH』
3,000円 (90分) | TEACCH 部で行われている一週間にわたる教師のための訓練セミナーの様子を詳しく紹介。 |
| 『ダウン症児のための赤ちゃん体操』
4巻セット 15,000円 送料込み(各30分) | ダウン症の赤ちゃんの発育に合わせて、楽しい音楽で行う体操。生後2カ月から2歳位までの赤ちゃんに。 |

◆お申し込み・お問い合わせ◆

ご希望の方は電話かFAX、電子メールで下記までお申し込みください。
(タイトル名、数量、送り先、電話番号を明記)
HP (<http://www.asahi-welfare.or.jp/>) からもお申し込みができます。
朝日新聞厚生文化事業団 朝日福祉ガイドブック・DVD・ビデオ係
〒104-8011 東京都中央区築地5-3-2 郵便振替 00130-1-9166
tel: 03-5540-7446 fax: 03-5565-1643

朝日新聞厚生文化事業団のあゆみ

人間尊重の原点に立って

朝日新聞厚生文化事業団の設立のきっかけは、1923（大正12）年9月1日の関東大震災の被災者救援活動です。朝日新聞社は全国から寄せられた義援金や食糧、生活用品を被災者に配り、震災の翌年末には「歳末同情週間」（現在の「歳末助け合い」）を主催し、紙面キャンペーンや街頭募金をはじめ、美術家や作家などの協力を得た「色紙・短冊即売会」（現在の「朝日チャリティー美術展」）を催しました。これらの寄金を食糧や衣料品にかえて生活に困る人々に贈りました。

その後、世界的な経済恐慌で生活困窮者が増え、社会問題が続発したため、28年1月に「社団法人朝日新聞社会事業団」を大阪朝日新聞社に創設しました。「歳末同情週間」の寄金で生活困窮者に慰問袋や無料診療券、常備白米券を配布し、出世資金の貸し出し、農繁期託児所の開設、水上生活者のための無料診療船巡航などを実施しました。学校に弁当を持参できない子どもたちの「欠食児童給食運動」キャンペーンは現在の学校給食のきっかけとなりました。大阪に公衆衛生訪問婦協会を設立、保健・育児など多岐にわたる活動はわが国の保健師制度の基礎を築きました。

第2次大戦後は、戦災者や引揚者への家庭常備薬、衣料品の配布、傷病兵慰問などの援護事業から始まりました。廃虚の中での明るい話題は、49年9月にインドのネール首相から贈られた象「インディラ」の「移動動物園」でした。半年間で東日本18都市を回り、子どもたちの笑顔を取り戻しました。

52年に社会福祉事業法が制定され、朝日新聞社の東京、大阪、西部各本社にそれぞれ独立の社会福祉法人を設け、「朝日新聞厚生文化事業団」と改称しました。63年には大阪事業団の名古屋支部が独立し、全国展開事業とともに地域福祉事業の推進に着手しました。

戦後の復興とともに本格的な福祉事業への取り組みが始まり、大阪に「アサヒ生駒山キャンプセンター」を開設、児童養護施設の中学生修学旅行や福祉施設で暮らすお年寄りの温泉旅行も始まりました。54年8月に第1回の「朝日夏季保育大学」が開かれ、56年2月から始まった「この子たちの親を探そう」運動は、戦争で生き別れた親子146組の対面を実現しました。ハンセン病の正しい理解と患者支援ために「大阪ハンセン病協力会」を設立、「アサヒベビー相談室」が大阪、名古屋のデパートで開設し、大学医学部による全国の無医地区診療など医療と公衆衛生事業にも力を注ぎました。59年9月の伊勢湾台風、64年6月の新潟地震では被災地に朝日診療車が出動、被災者救護にあたり、全国からの救援物資を配布しました。

高度経済成長とともに事業を拡大。愛知県梶島の「アサヒキャンプセンター」、千葉県保田海岸の「朝日臨海福祉センター」、大分県九重高原の「朝日高原福祉センター」を開設。各所では福祉施設の子どもや障害児のキャンプ事業が始まり、また激増する交通遺児家庭の支援

活動や視覚障害学生の奨学金制度を創設しました。

障害者や難病患者の支援も本格化し、電動タイプライター、電動車いすの贈呈・普及キャンペーンを展開しました。福祉のまちづくりを進める「車いす市民交流集会」や障害者の海外旅行の先駆けとして注目された福祉先進国を訪ねる「車いすヨーロッパの旅」も始まりました。これらの参加者の多くが、障害者自立生活運動の中心となりました。また、「朝日ボランティア奨励金」「朝日福祉設備助成金」（86年に「朝日福祉助成金」に統合）を相次いで創設、各地でボランティア講座を開くなど草の根福祉活動の支援を進め、寝たきり、認知症（痴ほう）高齢者の問題に対応する「アサヒ老人家族相談室」も開設しました。

81年の国際障害者年には「障害者の自立を考えるシンポジウム」を全国で開催し、ノーマライゼーション思想を基にコミュニケーション・プリンターや手書き電話、福祉電話装置「ふれあい」などの贈呈運動を展開しました。精神障害者医療・福祉先進国の欧米5カ国に視察団を派遣、日中平和友好条約締結10周年記念の「日本・中国車いす市民友好相互交流」を実施しました。

また、自閉症の支援システム「TEACCH（ティーチ）プログラム」に着目、米国ノースカロライナ大学から講師を招請した研修会を開き、ガイドブック、ビデオを制作、頒布するなど本格的な普及活動を開始しました。同時に学習障害児（LD）の理解を進める公開相談会や深刻な社会問題となった青少年の「ひきこもり」問題を考えるシンポジウムも各地で開きました。手話の普及とボランティア活動、福祉教育の推進をはかる「全国高校生（大学生）の手話のスピーチコンテスト」は84年にスタート、「手話の甲子園大会」として定着しています。91年からの「アジア障害者の10年」にあたり、全国の障害者施設、団体と協力してタイ、ベトナム、カンボジア、フィリピンなどの障害者に車いすを贈る運動を展開、現地の障害者が働く車いすの製作、修理工場を設置しました。

一方、83年のアフリカ飢餓救援キャンペーンをはじめ国内外で起こった災害に対応、救援募金を呼びかけてきました。91年には「チェルノブイリに光を」キャンペーンを開始、広島、長崎の赤十字病院で被災地の子どもを診療、医師が被曝（ひばく）治療の研修をしました。

未曾有（みぞう）の大災害となった95年1月の阪神淡路大震災では、救援拠点の「朝日ボランティア基地」を開設、高齢者や障害者への緊急援助をはじめ、仮設住宅世帯、アジアからの留学生支援、震災遺児支援など多岐にわたる活動を行いました。この実績は、04年の新潟県中越地震でも生かされ、被災者の心のケアをはかる独自事業を展開しました。

東京、大阪、西部、名古屋で独立して活動してきた各事業団は、2001年4月1日に合併、新たに「社会福祉法人朝日新聞厚生文化事業団」として発足しました。新事業団はこれまで築き上げてきた信頼と実績をもとに、多様化するニーズを的確にとらえ、人間尊重の原点に立って「共に生きる社会」の実現をめざした先駆的な事業を推進してまいります。

2007年度 収支計算書

(2007年4月1日～2008年3月31日)

単位：円

事業活動収入	349,647,957	事業活動支出	356,317,462
事業収入	259,832,952	事業支出	183,694,465
児童福祉事業	2,945,721	児童福祉事業	4,267,649
障害者福祉事業	16,411,010	障害者福祉事業	27,718,695
高齢者福祉事業	803,000	高齢者福祉事業	1,007,157
西部福祉助成金	0	西部福祉助成金	5,217,760
チャリティー事業	80,975,930	チャリティー事業	54,794,804
チャリティー美術展	143,185,361	チャリティー美術展	71,464,873
医療と公衆衛生	3,731,060	医療と公衆衛生	592,809
福祉啓発推進	1,270,700	福祉啓発推進	3,010,542
キャンプ	0	キャンプ	600,000
朝日福祉ガイド(DVD他)	10,468,170	朝日福祉ガイド(DVD他)	6,622,935
80周年事業	42,000	80周年事業	8,397,241
寄付金収入	79,092,865		
引当金戻入	10,722,140	引当金繰入	17,771,660
		人件費	122,135,718
		事務費	32,475,973
		減価償却費	239,646
事業活動外・特別収入	25,281,570	事業活動外・特別支出	14,070,000
財産収入	11,211,570		
経理区分間繰入金収入	14,070,000	経理区分間繰入金支出	14,070,000
		当期活動収支差額	4,542,065
合計	374,929,527	合計	374,929,527

理事・評議員名簿

2008年3月31日現在

社会福祉法人 朝日新聞厚生文化事業団／理事・監事・評議員

(理事 8人／欠員1人 監事2人 評議員 18人／欠員1人)

理事長	坂東 愛彦	朝日新聞厚生文化事業団理事長 朝日新聞社常勤顧問
理事	中嶋 充洋	愛知みずほ大学大学院教授
同	江草 安彦	社会福祉法人旭川荘理事長
同	山田 昭義	社会福祉法人A J U自立の家常務理事
同	佐方 紀子	社会福祉法人テレビ朝日福祉文化事業団常務理事
同	橘 優	財団法人朝日新聞文化財団常務理事
同	濱 幾太郎	朝日新聞社常務取締役・事業・デジタルメディア担当
同	池田 守	朝日新聞厚生文化事業団事務局長
監事	関岡 武次	元東京都福祉局長
同	花木 亮二	朝日新聞信用組合理事長
評議員	吉原 健二	財団法人厚生年金事業振興団理事長
同	戸塚 政男	元東京都社会福祉事業団常務理事
同	炭谷 茂	財団法人休暇村協会理事長、前環境事務次官、 環境福祉学会副会長
同	佐々木正美	川崎医療福祉大学特任教授
同	窪田 悦郎	社会福祉法人こどもの国協会園長
同	中嶋 充洋	愛知みずほ大学大学院教授
同	江草 安彦	社会福祉法人旭川荘理事長
同	山田 昭義	社会福祉法人A J U自立の家常務理事
同	佐方 紀子	社会福祉法人テレビ朝日福祉文化事業団常務理事
同	橘 優	財団法人朝日新聞文化財団常務理事
同	粕谷 卓志	朝日新聞社役員待遇編集担当
同	中島 俊明	朝日新聞社グループ戦略本部長
同	後藤 尚雄	朝日新聞社事業本部長
同	坂東 愛彦	朝日新聞厚生文化事業団理事長 朝日新聞社常勤顧問
同	池田 守	朝日新聞厚生文化事業団事務局長
同	桑山 明彦	朝日新聞厚生文化事業団大阪事務所長
同	成重 博美	朝日新聞厚生文化事業団西部事務所長
同	植田 幹夫	朝日新聞厚生文化事業団名古屋事務所長

お問い合わせ先

■本部・東京事務所

〒104-8011 東京都中央区築地5-3-2

TEL03(5540)7446 FAX03(5565)1643

□郵便振替…口座番号「00130-1-9166」

□銀行振込…三井住友銀行新橋支店 普通「303668」

■大阪事務所

〒530-8211 大阪府大阪市北区中之島3-2-4

TEL06(6201)8008 FAX06(6231)3004

□郵便振替…口座番号「00910-9-14990」

□銀行振込…三井住友銀行大阪本店営業部 普通「3766992」

■西部事務所

〒803-8586 福岡県北九州市小倉北区室町1-1-1

TEL093(563)1284 FAX093(563)1287

□郵便振替…口座番号「01580-0-7682」

■名古屋事務所

〒460-8488 愛知県名古屋市中区栄1-3-3

TEL052(221)0307 FAX052(221)5453

□郵便振替…口座番号「00890-2-57697」

※ご寄付に際して朝日新聞厚生文化事業団が振込料金を負担する「郵便振替用紙」をご希望の方はご請求下さい。銀行振込の場合は事前にご連絡下さい。

※各地の朝日新聞支社、総局、支局でもお受けします。

□ 寄付金は所得税法、法人税法による寄付金控除が認められております。

朝日新聞厚生文化事業団職員名簿（2008年3月31日現在）

■本部・東京事務所

事務局長 池田 守
次長 島田佳津比古
事業課長 福田 年之
管理課長 池谷 澄子
小倉 玲子
野崎 貴士
中村 宣人
宇山 智美

■大阪事務所

事務所長 桑山 明彦
次長 松永 勉
事業課長 中村 茂高
脇 敬子
山家 聡
柳沢 佐和子

■西部事務所

事務所長 成重 博美
次長 坂東 美喜子

■名古屋事務所

事務所長 植田 幹夫
参与 山田 篤
中久木 俊之
高木 明子

ASAHI SHIMBUN SOCIAL WELFARE ORGANIZATION

朝日の社会福祉

2007

平成19年度

事業
報告

ホームページで福祉情報を発信しています

<http://www.asahi-welfare.or.jp/>

「2007年度 事業報告」

2007年4月 1日から

2008年3月31日まで

社会福祉法人 朝日新聞厚生文化事業団